

鳥栖市地域福祉計画・地域福祉活動計画に係る

市民アンケート調査報告書

平成 28 年 7 月
鳥栖市

目次

第1章. 調査の概要	1
1. 調査設計と回収状況	1
2. 調査結果利用上の注意	1
第2章. 調査結果のまとめ	2
1. 「福祉」について	2
2. 「地域」について	3
3. ボランティア活動や地域活動について	4
4. 鳥栖市の福祉のあり方について	5
第3章. 地域福祉計画・地域福祉活動計画に関する調査結果	7
1. 基本属性	7
2. 「福祉」について	8
(1) 「福祉」への関心の有無	8
(2) 福祉サービスの認知	10
(3) 「福祉サービス」に関する情報入手の程度	14
(4) 「福祉サービス」情報の主な入手先	16
(5) 今後の「福祉」のあり方	18
(6) 「民生委員・児童委員」の認知度	20
(7) 「民生委員・児童委員」の活動内容の認知度	22
(8) 「社会福祉協議会」の認知度	24
(9) 「社会福祉協議会」に期待する取り組み	26
3. 「地域」について	28
(1) ふだんの近所付き合いの程度	28
(2) 隣近所で困っている世帯に手助けできること	30
(3) 隣近所に手助けしてほしいこと	32
(4) 地域の人との関わり方の意向	34
(5) 災害時の避難場所の認知度	36
(6) 地震や台風などの災害発生時の備えとして重要なこと	38
4. ボランティア活動や地域活動について	40
(1) ボランティア活動への参加意向	40
(2) ボランティアに参加したいと思わない理由	42
(3) 自治会やPTAなどの地域活動の参加状況	44
(4) 地域活動に参加していない理由	46
(5) 「まちづくり」についての話し合いへの参加意向	48
(6) 地域の助け合い活動等を活発にするために重要なこと	50
5. これからの鳥栖市の福祉のあり方	52
(1) 福祉のまちとして望むこと	52
(2) 高齢者が住みよいまちをつくるために重要なこと	54

(3) 子どもが健やかに育つために重要なこと	56
(4) 障がいのある人が住みよいまちをつくるために重要なこと	58
(5) 住み慣れた地域で安心して暮らすための福祉のあり方	60
(6) 市民のひとりとして地域の活動に関われる程度	62
第4章. 自由意見	64
1. 誰もが住みやすいまちづくりの推進に関する自由意見	64
第5章. 調査票	88
1. 市民アンケート調査	88

第1章. 調査の概要

1. 調査設計と回収状況

地域福祉計画・地域福祉活動計画に関するアンケート調査

(1) 調査目的	市民の「地域福祉」に関する考えや実態を把握するとともに、意見を広く聴き計画策定に反映すること
(2) 調査対象者	市内在住の16歳以上の男女
(3) 調査数	2,000 サンプル
(4) 抽出方法	無作為抽出
(5) 調査方法	郵送配付・郵送回収
(6) 調査期間	平成28年6月3日(金)～平成28年6月24日(金)
(7) 有効回収数(率)	737 サンプル (36.9%)

2. 調査結果利用上の注意

- (1) 各選択肢の回答比率は百分率(%)で、小数点以下第二位を四捨五入した。そのため、比率の合計が100%にならない場合がある。また、2つ以上の回答(複数回答)を求めたものについては、比率の合計は100%を超える場合がある。
- (2) 文中の選択肢の表示は「 」で行い、選択肢の文言のなかに「 」がある場合は『 』とした。
- (3) 図表に示すNは、比率計算上の基数(標本数)である。
- (4) 図表に示す選択肢は、スペースの関係で文言を省略している場合があるので、巻末の調査票を参照のこと。
- (5) 属性別の分析等において、基数(標本数)が少ないものについては、コメントを割愛している場合がある。

第2章. 調査結果のまとめ

1. 「福祉」について

■「福祉」の関心度

「福祉」に対する関心度について、前回調査と比較すると「非常に関心がある」（今回：25.0%、前回：23.0%）、「どちらかといえば関心がある」（今回：62.8%、前回：57.3%）ともに今回調査が上回っており、福祉に対する関心度は徐々に高まっていると考えられる。一方、「関心がない」とする人も依然として全体の1割を占め、特に10代～40代までの若年層や働き盛りの世代で関心度が低い傾向にある。

今後の福祉のあり方について、「福祉は、行政と市民が協力し支え合う仕組みづくりをすべき」と考える人が7割を占めるように、地域福祉推進のためには一人ひとりが「福祉」に対して関心を持ち、助け合うという意識が不可欠であることは概ね理解されているが、世代によって関心度も異なるため、若い世代も地域福祉推進の担い手となれるよう早い段階からの啓発活動が重要となる。

■福祉サービス

介護保険や高齢者、障がい者・児、児童に関する分野の福祉サービスについて、「知らない」と回答した人の割合は児童福祉サービスで最も高く35.1%、介護保険サービスで最も低く23.9%となっている。各分野ともに10代～40代で認知度が低く、特に介護保険や高齢者福祉などサービスの恩恵を受けない世代の認知度が低い傾向にある。一方、前回調査で「知らない」とした人の割合は、各分野4割程度を占めているため、サービスの認知度は比較的上がっていると考えられる。

これらの福祉サービスの情報源については、「市役所の窓口・市報・ホームページ」が5割と突出しているが、前回調査と比較すると10ポイント減少しており、代わって「新聞・雑誌・テレビ・ラジオ」から情報収集する人が10ポイント増えている。また、年代別の傾向をみると、50代までは「インターネット」から入手する人も2割程度と比較的多く、70代以上になると「自治会の回覧板」や「近所・知り合い」「ケアマネージャーやホームヘルパー」「民生委員・児童委員」など情報源が多岐に渡る様子が見える。しかしながら、福祉サービスの情報は全体的にあまり入ってこないと感じている人が前回調査から依然として多く、年代や地域によっても入手状況に差が見られるため、必要な時に福祉サービスを適切に利用できるよう情報発信の方法や経路について細かい配慮と工夫が求められる。

■「民生委員・児童委員」「社会福祉協議会」

住民が安心して暮らせる福祉コミュニティづくりと地域福祉の推進のため、地域社会において自主的な福祉活動の中核としての役割を担う「民生委員・児童委員」や「社会福祉協議会」についての認知度を尋ねた。「民生委員・児童委員」については4人に1人が自分の地区の担当者を知っており、「社会福祉協議会」については2割弱の人が名前と活動内容をだいたい知っているという回答している。ともに知っている人は知っているといった状況にあるが、ほとんどの人は活動内容まではよく知らない人が多いと考えられる。特に10代～30代の認知度が低く、60代以上になると概ね認知度が高くなるため、活動内容も「高齢者の見守り活動」の認知度が高く、今後期待する取り組みとしても「高齢者支援」が最も上位に挙げられている。

また、「民生委員・児童委員」「社会福祉協議会」の活動が基本的に地区ごとに行われるケースが多いため、認知度も地区別に差がみられる。例えば、「民生委員・児童委員」の認知度は鳥栖地区や旭地区で低く、「社会福祉協議会」は弥生が丘地区や旭地区で認知度が低い傾向にある。「民生委員・児童委員」や「社会福祉協議会」は今後も地域福祉の推進において中心的な役割を担うため、地区別の人口・世帯構成やコミュニティの状況など地域の特色に応じて認知度を高めていく方策が必要となる。

2. 「地域」について

■地域との関わり

ふだんの近所付き合いについて尋ねたところ、前回調査時と同様に、「会えばあいさつをするが、それ以上の話はしない」とする人が26.2%で最も多く、なかでも10代～40代では4割を占める。また、10代～40代は「付き合いがほとんどない」とする人も多く、近所付き合いが希薄な様子が見える。

隣近所の人に手助けしてほしいことについては、「安否確認の声かけ」(51.2%)が最も多く、「話し相手」(29.7%)が続いている。これは、隣近所で困っている世帯があった場合、手助けできることと一致しており、「安否確認の声かけ」(79.2%)をはじめ、「話し相手」(59.2%)、「ごみ出し」(51.2%)、「玄関前の掃除や除雪」(50.1%)など、手助けしてほしいことよりも、手助けできることの方が多く協力的な印象である。年代別にみると、手助けしてほしいことは年代が上がるにつれ「安否確認の声かけ」や「話し相手」に絞られるが、若い世代ほど「短時間の子どもの預かり」や「子育ての相談」「玄関前の掃除や除雪」など手助けしてほしいことが多岐に渡っており、近所付き合いが希薄な世代ほど手助けしてほしいことが多いという矛盾が生じている。

地域の人との関わりについては、「隣近所を中心とした助け合いや付き合いを大切にしたい」(45.0%)とする人が最も多く、「市民が相互に協力して地域をよくする活動に参加していきたい」(15.7%)とする人も含めると概ね地域の人との関わりについては前向きな様子が見える。その一方で、40代・50代では「時間的に余裕のある人、やる気のある人が地域と関わるほうがよい」とする人も多く、忙しさから地域との関わりに消極的になっていると考えられる。

世代によっては子育てや仕事に忙しく、地域に目を向けられない状況も見受けられるものの、総じて、隣近所や地域との関わりは必要であると認識しており、住民同士の助け合いについても協力的な意見が多かった。さらに、隣近所で手助けしてほしいこと(需要)と手助けできること(供給)が一致していることから、ニーズをうまく結びつける仕組みやきっかけがあれば、地域との関わりを深め、助け合って生活するという意識がさらに浸透していくと考えられる。

■災害時の備え

災害時の避難場所の認知度は、「知っている」(65.5%)が過半数を占め、前回調査の42.9%を大きく上回っており、避難場所の認知度は上がっている。前回調査は、平成23年3月の東日本大震災後の6月に調査しており、災害に対する危機意識が高まりを見せつつあったと考えられるが、今回調査では直近の平成28年4月に発生した熊本地震の影響もあってか、避難場所の認知度がさらに上がっている。しかし、こうした中においても「知らない」とする人が3割を占めており、この3割にいかん浸透させるかが重要な課題となる。

第2章. 調査結果のまとめ

災害時に必要な備えとしては、「危険個所の把握」(61.5%)や「日ごろからの隣近所との挨拶、声かけや付き合い」(57.4%)とする人が多く、最低限、いまできる備えとして上位に挙げられたと理解できる。災害時の備えとしては、まず第一に自分の地区の避難場所を知っておくこと、そして、普段から危険個所を把握しておくことや近所付き合いを深めておくことが大変重要となる。さらには、高齢の一人暮らしや夫婦のみの世帯、子育て世帯や障がいのある方がいる世帯など、避難に支援が必要となる場合も多いため、要援護者の把握や地域で避難訓練の実施など、災害時の備えとして地域で取り組むべき課題は多いと言える。

3. ボランティア活動や地域活動について

■ボランティア活動

ボランティア活動の参加状況については、前回調査から同様に、「まったく参加したことはないが、今後参加したい」(34.7%)とする人が多く、次いで「まったく参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない」(25.4%)となっている。この今後参加意向を示す人は、10代~50代で4~5割を占め多くなっているため、活動の担い手として参加を促していくことが必要となる。一方、ボランティア活動に参加したいと思わない理由については、「時間や収入にゆとりがないから」(47.1%)とする人が最も多く、10代~50代の主要な理由となっている。60代以上になると「自分の健康状態がよくないから」を理由とする人が最も多くなる。ボランティア活動の担い手としてはやはり10代~50代の社会生活としても忙しい世代となるため、参加してみたいと思いつつも参加する余裕がない状況がうかがえる。また、ボランティア活動を負担に感じる意識が働くことも影響していると考えられるため、時間やお金をかけずに気軽に取り組める活動など地道に周知していくことが求められる。

■地域活動

自治会や子どもクラブ、PTAなどの地域活動については、「現在活動していないが、過去に活動したことがある」(43.0%)が最も多く、50代~70代で特に多い。「現在活動している」は40代で多く、10代~30代は「活動したことがない」が過半数を占めている。地域活動に参加していない理由としては、70代以上では「体調がすぐれない」とする人が多く、40代・50代では「勤務などの都合で機会がない」「時間がない」などの理由が多い。また、10代~30代の若年層では、「引越して間もない」「参加方法がわからない」「知り合いがいない」などを理由にする人が他の世代に比べ多いため、参加したくなるような地域活動のPRや誰でも気軽に参加しやすい地域活動のあり方が求められている。

■地域の助け合い、支え合い活動

地域における助け合い、支え合い活動を活発にするために重要なことを尋ねたところ、「困っている人や、助け合いの場等についての情報を得やすくする」(37.0%)が最も多く、次いで「地域における福祉活動の意義と重要性をもっとPRする」「リーダーや福祉活動に携わる人を養成する」「困っている人と、助けられる人との調整を図る人材を育成する」がそれぞれ3割で続いている。これらの項目から、地域で助け合い、支え合う活動を活発にするためには、まず情報発信と活動のPRなど、広報に関することに加え、活動を支えるキーパーソンとなりうる人材の育成が重要視されていることが分かる。

4. 鳥栖市の福祉のあり方について

■福祉のまち

鳥栖市をどのような福祉のまちにしたいか尋ねたところ、「介護が必要な時に安心して施設や在宅サービスを利用できるまち」(67.6%)が最も多く、次いで「子どもが、からだも心も健やかにはぐくまれ育つまち」(51.4%)、「お互いに助け合い、支え合えるまち」(51.0%)となっており、高齢者や子どもが安心して暮らしていけること、そしてお互いに助け合えるまちづくりが望まれている。

■高齢者が住みよいまち

高齢者が住みよいまちをつくるためには、「気軽に健康づくりを行える場所をつくり、医療体制を充実させる」(51.7%)、「在宅で生活する高齢者への福祉サービスを充実させる」(51.6%)等が上位に挙げられており、概ね前回調査と同様の傾向を示している。総じて、健康づくりや医療体制、福祉サービスの充実が求められているが、相談体制や年金・医療保険などの金銭面の支援を求める声も少なくない。

■子どもが健やかに育つまち

子どもがいきいきと健やかに育つために必要な支援として、「安心して出産や育児ができる母子保健や医療サービスを充実させる」(51.6%)が最も多く、「保育サービスのメニューを充実させる」(48.0%)、「育児休業の取得など働きながらでも子育てしやすい環境づくり」(46.9%)と続いている。最も多かった母子保健や医療サービスの充実のほか、共働き世帯の増加に伴い保育サービスの充実や働きながら子育てしやすい環境づくりなど、ニーズも多様化している様子が見えてくる。また、児童手当や医療費助成、保育や教育に係る費用の軽減など、経済的な支援を求める声も多くなっている。

■障がいのある人が住みよいまち

障がいのある人が住みよいまちをつくるために必要な取り組みとして、「自立した生活が送れるよう、教育や生活訓練を充実させる」(53.6%)、「職業訓練や働く場を増やす対策を充実させる」(52.4%)が上位に挙げられており、全体的に前回調査と同様の傾向を示している。また、相談体制や情報提供機能の充実、安心して生活できる施設の充実、公共施設・道路・交通機関などの改善、在宅福祉サービスの充実など、障がいのある人を取り巻く生活全般に対する支援が求められている。

■福祉のあり方

住み慣れた地域で、安心して暮らしていくためには、「在宅福祉を支えるサービスを充実させる」(48.7%)が最も多く、次いで「気軽に相談できる人、集まれる場を充実させる」(41.0%)、「施設サービスを充実させる」(39.5%)の順に続いている。10代～30代では、「手当など金銭的な援助を充実させる」とする人が最も多く、全体で最も多かった「在宅福祉を支えるサービスを充実させる」の割合は50代以上で特に高くなる傾向にある。

第2章. 調査結果のまとめ

■市民のひとりとしてできること

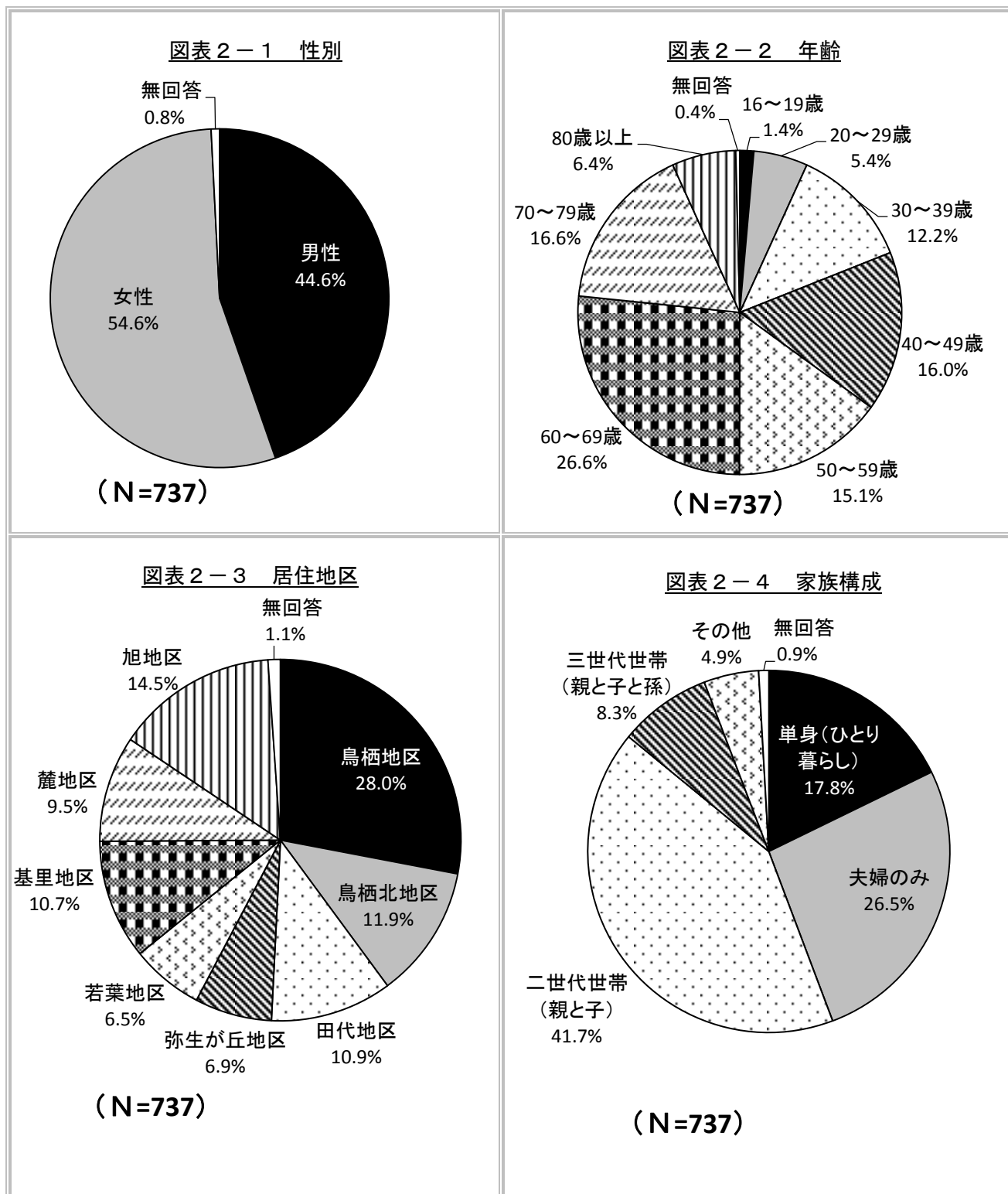
住み慣れた地域で、一人ひとりが安心して暮らしていくために市民のひとりとしてできることは、「できるだけ地域での出来事に関心を持つように心がける」(65.1%)が突出して多くなっている。これは前回調査でも最多となっているが、これに続く「家族が関わりをもつ範囲内の活動には参加していきたい」(27.1%)とする人は前回調査(48.3%)から21.2ポイント減少している。

地域福祉を進めるためには、地域の課題を「自分自身の問題」という認識をもって、一人ひとりが地域活動に積極的に参加していくことが重要となる。このため、まずは地域に関心を持ち、それぞれが持つ知識や経験を活かしながらできる範囲で活動していくことが地域福祉推進の第一歩だと言える。

第3章. 地域福祉計画・地域福祉活動計画に関する調査結果

1. 基本属性

○回答者の基本属性は以下のとおりである。



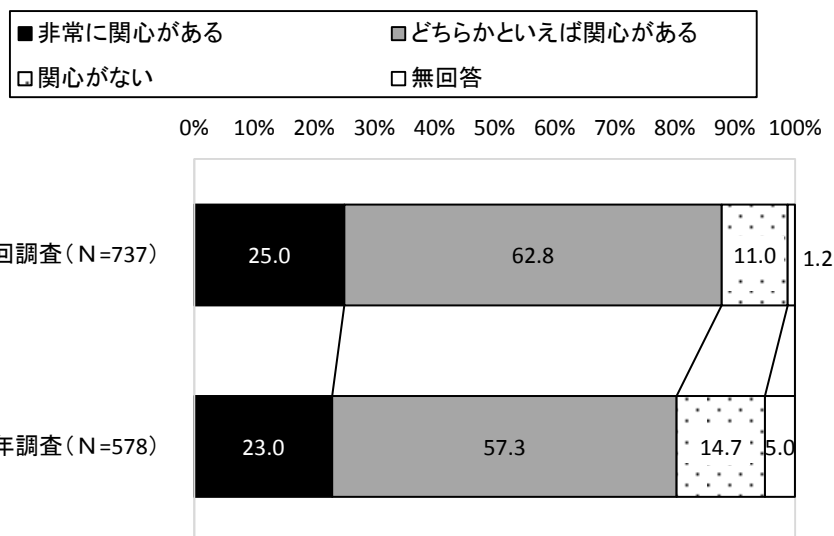
2. 「福祉」について

(1) 「福祉」への関心の有無

・「福祉」への関心の有無は、「どちらかといえば関心がある」(62.8%)の割合が最も高い。

問5 あなたは「福祉」に関心をお持ちですか。(1つだけ○)

図表2-5 「福祉」への関心の有無



「福祉」への関心は、「どちらかといえば関心がある」(62.8%)の割合が最も高く、以下「非常に関心がある」(25.0%)、「関心がない」(11.0%)となっている。また、前回調査と比較しても、概ね同様の結果を示している。

年齢別にみると、16～29歳と40～49歳では他の年代に比べて、「関心がない」の割合が高くなっている。

図表2-6 年齢別 「福祉」への関心の有無(%)

		調査数 (人)	非常に 関心があ る	どちらか があるとい え	関心 がない	無 回 答
全体		737	25.0	62.8	11.0	1.2
年齢 別	16～29歳	50	14.0	50.0	36.0	-
	30～39歳	90	12.2	72.2	15.6	-
	40～49歳	118	16.9	61.9	19.5	1.7
	50～59歳	111	25.2	65.8	9.0	-
	60～69歳	196	25.5	67.9	5.6	1.0
	70～79歳	122	40.2	55.7	3.3	0.8
	80歳以上	47	40.4	55.3	2.1	2.1
	無回答	3	-	-	-	100.0

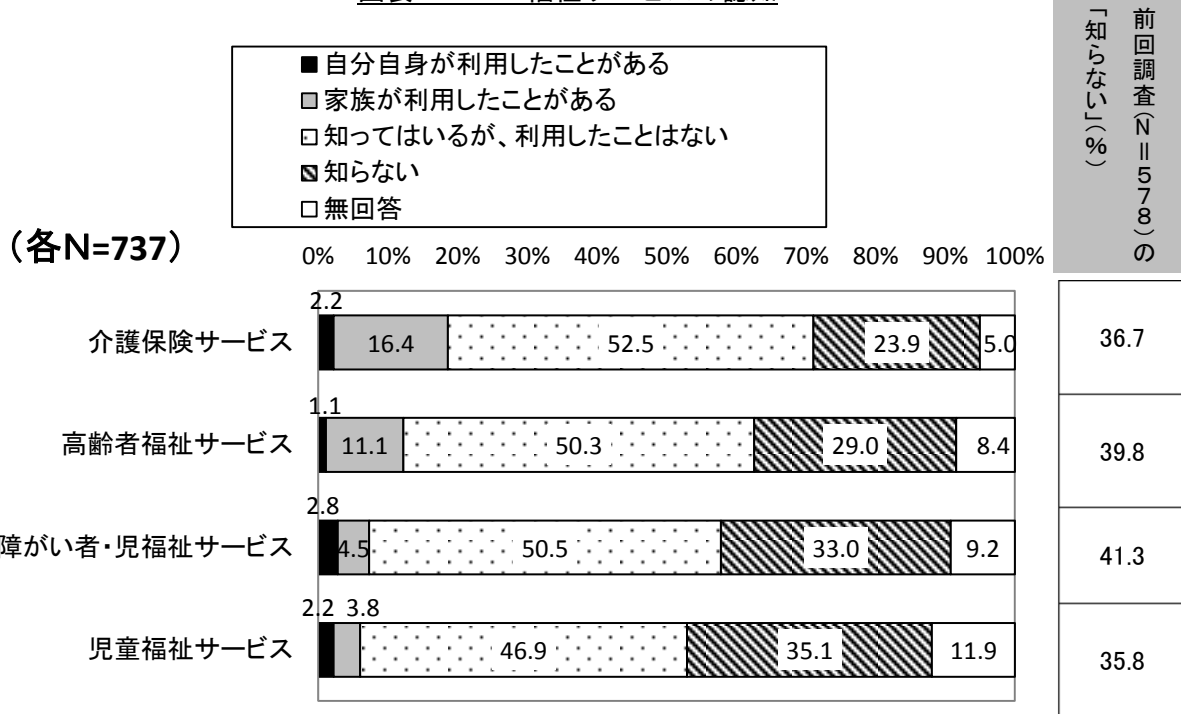
注) は全体よりも5ポイント以上低いもの、
 は全体よりも5ポイント以上高いものを示す

(2) 福祉サービスの認知

・福祉サービスの認知は、「知らない」の割合をみると、介護保険サービスでは 23.9%、高齢者福祉サービスでは 29.0%、障がい者・児福祉サービスでは 33.0%、児童福祉サービスでは 35.1%となっている。

問6 鳥栖市で行われている福祉サービスをご存知ですか。また、利用されたことはありますか。(項目ごとに1つだけ○)

図表2-7 福祉サービスの認知



福祉サービスの認知は、各サービスともに「知ってはいるが、利用したことはない」の割合が半数前後を占める。「知らない」の割合をみると、介護保険サービスでは 23.9%であり前回調査と比べ約 13 ポイント減少している。同様に、高齢者福祉サービスでは 29.0%で前回調査と比べ約 11 ポイント、障がい者・児福祉サービスでは 33.0%で前回調査と比べ約 8 ポイント減少している。一方で、児童福祉サービスは 35.1%で、前回調査と比べてほとんど変化がみられない。

各サービスについて年齢別にみると、介護保険サービスと高齢者福祉サービスは、49 歳以下で他の年代に比べて「知らない」の割合が高い。

障がい者・児福祉サービスは、39 歳以下で他の年代に比べて「知らない」の割合が高く、児童福祉サービスは、16~29 歳で他の年代に比べて「知らない」の割合が高くなっている。

図表2-8 年齢別 介護保険サービスの認知 (%)

		調査数 (人)	自分自身が 利用した	家族が利用 した	知っている 利用したこ とがない	知らない	無回答
全体		737	2.2	16.4	52.5	23.9	5.0
年齢別	16～29歳	50	-	12.0	28.0	58.0	2.0
	30～39歳	90	-	5.6	47.8	44.4	2.2
	40～49歳	118	-	11.0	47.5	36.4	5.1
	50～59歳	111	-	23.4	52.3	20.7	3.6
	60～69歳	196	1.0	24.0	58.2	13.3	3.6
	70～79歳	122	4.1	17.2	64.8	7.4	6.6
	80歳以上	47	19.1	6.4	48.9	12.8	12.8
	無回答	3	-	-	-	-	100.0

注) は全体よりも5ポイント以上低いもの、
 は全体よりも5ポイント以上高いものを示す

図表2-9 年齢別 高齢者福祉サービスの認知 (%)

		調査数 (人)	自分自身が 利用した	家族が利用 した	知っている 利用したこ とがない	知らない	無回答
全体		737	1.1	11.1	50.3	29.0	8.4
年齢別	16～29歳	50	-	14.0	36.0	48.0	2.0
	30～39歳	90	-	3.3	51.1	41.1	4.4
	40～49歳	118	-	9.3	40.7	43.2	6.8
	50～59歳	111	-	15.3	51.4	29.7	3.6
	60～69歳	196	-	15.8	52.0	26.0	6.1
	70～79歳	122	4.1	8.2	63.9	9.8	13.9
	80歳以上	47	6.4	6.4	46.8	12.8	27.7
	無回答	3	-	-	-	-	100.0

注) は全体よりも5ポイント以上低いもの、
 は全体よりも5ポイント以上高いものを示す

図表2-10 年齢別 障がい者・児福祉サービスの認知 (%)

		調査数 (人)	自分 自身が 利用 した	家族 が利用 した	知 つて は ない が、 利用 した こ	知 ら な い	無 回 答
全体		737	2.8	4.5	50.5	33.0	9.2
年齢別	16～29歳	50	4.0	2.0	30.0	60.0	4.0
	30～39歳	90	1.1	7.8	42.2	45.6	3.3
	40～49歳	118	-	9.3	47.5	39.8	3.4
	50～59歳	111	-	6.3	56.8	33.3	3.6
	60～69歳	196	4.6	1.5	60.2	27.6	6.1
	70～79歳	122	4.9	2.5	50.0	21.3	21.3
	80歳以上	47	6.4	2.1	44.7	17.0	29.8
	無回答	3	-	-	-	-	100.0

注) は全体よりも5ポイント以上低いもの、
 は全体よりも5ポイント以上高いものを示す

図表2-11 年齢別 児童福祉サービスの認知 (%)

		調査数 (人)	自分 自身が 利用 した	家族 が利用 した こ	知 つて は ない が、 利用 した こ	知 ら な い	無 回 答
全体		737	2.2	3.8	46.9	35.1	11.9
年齢別	16～29歳	50	2.0	-	32.0	62.0	4.0
	30～39歳	90	7.8	5.6	46.7	36.7	3.3
	40～49歳	118	4.2	11.0	38.1	41.5	5.1
	50～59歳	111	0.9	7.2	50.5	36.9	4.5
	60～69歳	196	0.5	1.0	53.6	35.2	9.7
	70～79歳	122	0.8	-	50.8	23.0	25.4
	80歳以上	47	-	-	42.6	17.0	40.4
	無回答	3	-	-	-	-	100.0

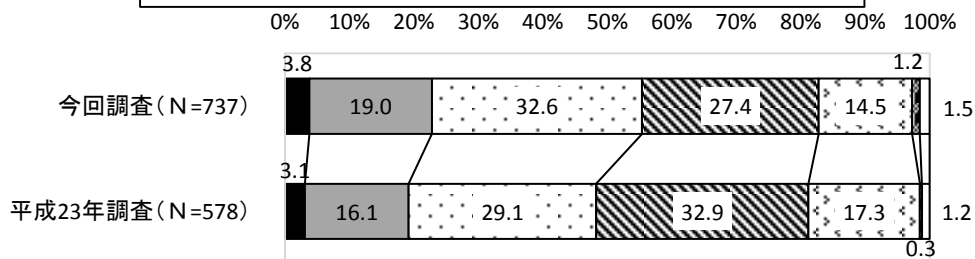
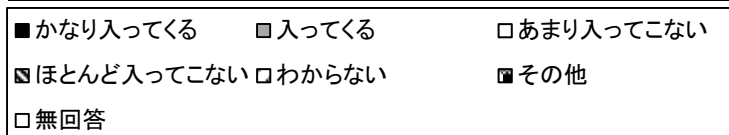
注) は全体よりも5ポイント以上低いもの、
 は全体よりも5ポイント以上高いものを示す

(3) 「福祉サービス」に関する情報入手の程度

・「福祉サービス」に関する情報入手の程度は、「あまり入ってこない」(32.6%)の割合が最も高い。

問7 あなたは、「福祉サービス」に関する情報をどの程度入手できているとお考えですか。(1つだけ○)

図表2-12 「福祉サービス」に関する情報入手の程度



「福祉サービス」に関する情報入手の程度は、「あまり入ってこない」(32.6%)の割合が最も高く、以下「ほとんど入ってこない」(27.4%)、「入ってくる」(19.0%)、「かなり入ってくる」(3.8%)となっている。また、前回調査と比較しても、概ね同様の結果を示している。

年齢別にみると、30～39歳では他の年代に比べて「ほとんど入ってこない」の割合が高い
 居住地区別にみると、若葉地区では他の地区に比べて「あまり入ってこない」の割合が高い。

図表2-13 年齢別・居住地区別 「福祉サービス」に関する情報入手の程度(%)

		調査数(人)	るかなり入ってくる	入ってくる	ないあまり入ってこ	こほとんど入って	わからない	その他	無回答
全体		737	3.8	19.0	32.6	27.4	14.5	1.2	1.5
年齢別	16~29歳	50	2.0	10.0	20.0	36.0	28.0	4.0	-
	30~39歳	90	1.1	13.3	26.7	44.4	14.4	-	-
	40~49歳	118	0.8	11.0	32.2	32.2	21.2	2.5	-
	50~59歳	111	1.8	19.8	36.9	23.4	17.1	0.9	-
	60~69歳	196	4.6	18.9	38.8	25.0	11.2	0.5	1.0
	70~79歳	122	8.2	31.1	29.5	18.0	9.8	1.6	1.6
	80歳以上	47	8.5	27.7	31.9	19.1	4.3	-	8.5
	無回答	3	-	-	-	-	-	-	100.0
居住地区別	鳥栖地区	206	3.9	18.0	30.1	28.6	16.0	1.5	1.9
	鳥栖北地区	88	4.5	11.4	36.4	34.1	10.2	2.3	1.1
	田代地区	80	2.5	25.0	30.0	23.8	18.8	-	-
	弥生が丘地区	51	-	17.6	25.5	25.5	29.4	2.0	-
	若葉地区	48	4.2	22.9	47.9	18.8	6.3	-	-
	基里地区	79	5.1	21.5	36.7	25.3	8.9	-	2.5
	麓地区	70	5.7	28.6	32.9	21.4	11.4	-	-
	旭地区	107	3.7	15.0	31.8	31.8	14.0	2.8	0.9
	無回答	8	-	-	-	37.5	25.0	-	37.5

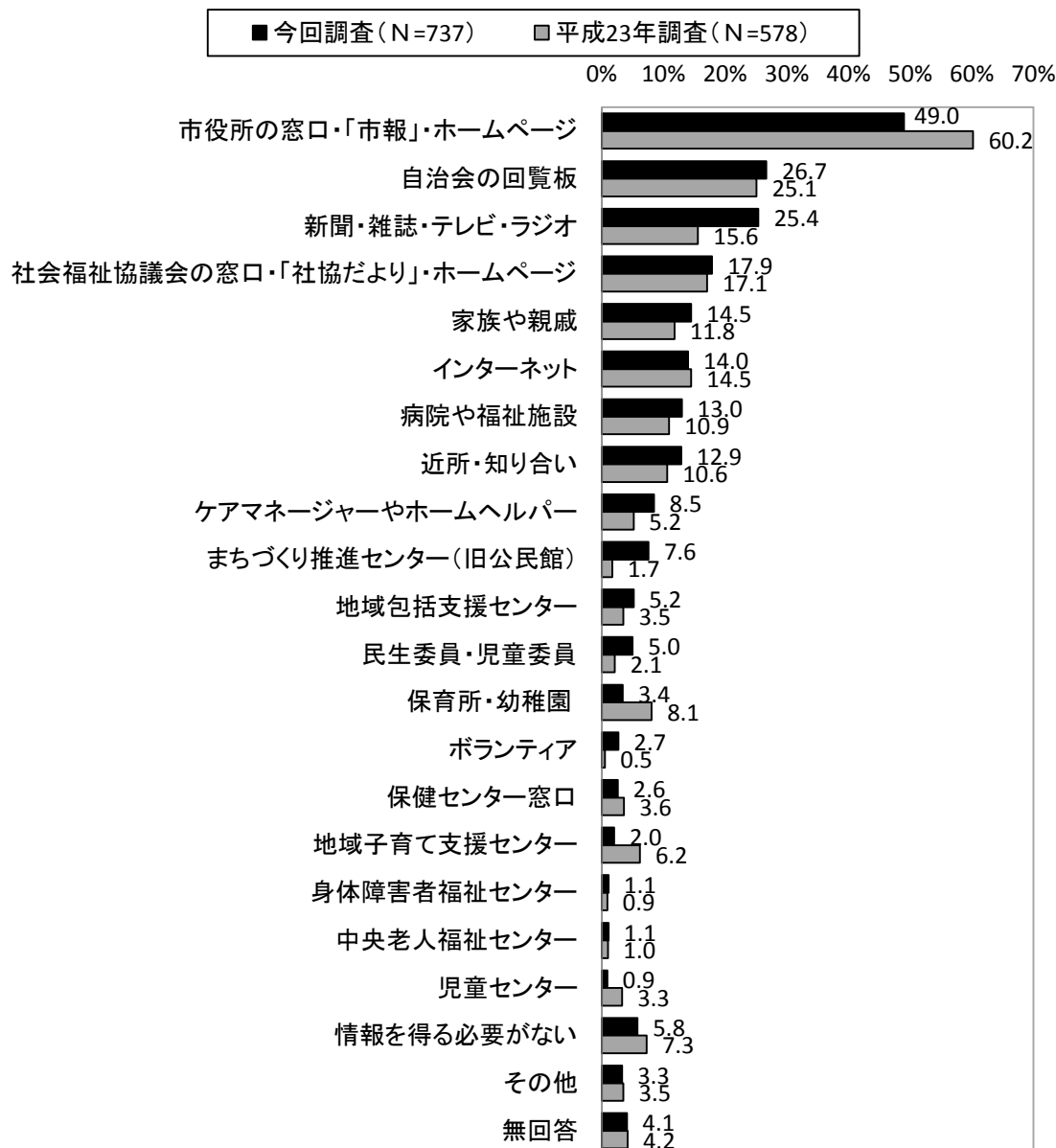
注) は全体よりも5ポイント以上低いもの、
 は全体よりも5ポイント以上高いものを示す

(4) 「福祉サービス」情報の主な入手先

・「福祉サービス」情報の主な入手先は、『市役所の窓口・「市報」・ホームページ』(49.0%)の割合が最も高いが、前回調査と比較して約10ポイント減少している。「新聞・雑誌・テレビ・ラジオ」は前回調査と比較して約10ポイント上昇している。

問8 あなたは、「福祉サービス」に関する情報を主にどこから(どのようにして)入手していますか。(あてはまるものすべてに○)

図表2-14 「福祉サービス」情報の主な入手先



「福祉サービス」情報の主な入手先は、『市役所の窓口・「市報」・ホームページ』(49.0%)の割合が最も高く、次いで「自治会の回覧板」(26.7%)、「新聞・雑誌・テレビ・ラジオ」(25.4%)、『社会福祉協議会の窓口・「社協だより」・ホームページ』(17.9%)となっている。

第3章. 地域福祉計画・地域福祉活動計画に関する調査結果

年齢別にみると、16～29歳では他の年代に比べて『市役所の窓口・「市報」・ホームページ』と『社会福祉協議会の窓口・「社協だより」・ホームページ』の割合が低い。また、39歳以下では他の年代に比べて「自治会の回覧板」の割合も低く、一方で「情報を得る必要がない」の割合は高くなっている。

図表2-15 年齢別 「福祉サービス」情報の主な入手先（％）

	調査数（人）	ム市役所の窓口・ホームページ	ムだの窓口に社会福祉協議会	口保健センター窓	委員民生委員・児童	ボランティア	ヘルパーやホーム	ケアマネー	家族や親戚	近所・知り合い	自治会の回覧板	新聞・雑誌・テレビ	インターネット
		ム市役所の窓口・ホームページ	ムだの窓口に社会福祉協議会	口保健センター窓	委員民生委員・児童	ボランティア	ヘルパーやホーム	ケアマネー	家族や親戚	近所・知り合い	自治会の回覧板	新聞・雑誌・テレビ	インターネット
全体	737	49.0	17.9	2.6	5.0	2.7	8.5	14.5	12.9	26.7	25.4	14.0	
年齢別	16～29歳	50	32.0	6.0	2.0	-	4.0	18.0	6.0	10.0	22.0	18.0	
	30～39歳	90	48.9	13.3	1.1	-	2.2	10.0	13.3	15.6	13.3	25.6	
	40～49歳	118	52.5	14.4	1.7	1.7	0.8	5.1	17.8	9.3	23.7	23.7	
	50～59歳	111	54.1	24.3	1.8	1.8	0.9	7.2	19.8	10.8	30.6	21.6	
	60～69歳	196	51.5	20.4	4.1	4.1	2.0	10.2	15.3	14.3	31.1	8.7	
	70～79歳	122	46.7	21.3	3.3	12.3	9.0	13.9	5.7	14.8	32.8	1.6	
	80歳以上	47	44.7	14.9	2.1	17.0	6.4	17.0	19.1	23.4	31.9	-	
	無回答	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	調査数（人）	身体障害者福祉セ	児童センター	まちづくり推進セ	中央老人福祉セン	地域子育て支援セ	地域包括支援セン	病院や福祉施設	保育所・幼稚園	情報を得る必要がない	その他	無回答	
		身体障害者福祉セ	児童センター	まちづくり推進セ	中央老人福祉セン	地域子育て支援セ	地域包括支援セン	病院や福祉施設	保育所・幼稚園	情報を得る必要がない	その他	無回答	
全体	737	1.1	0.9	7.6	1.1	2.0	5.2	13.0	3.4	5.8	3.3	4.1	
年齢別	16～29歳	50	-	-	-	4.0	-	12.0	4.0	20.0	10.0	2.0	
	30～39歳	90	1.1	2.2	6.7	1.1	7.8	1.1	10.0	12.2	15.6	2.2	
	40～49歳	118	1.7	4.2	3.4	0.8	3.4	4.2	12.7	4.2	4.2	4.2	
	50～59歳	111	-	-	2.7	-	0.9	1.8	15.3	1.8	2.7	3.6	
	60～69歳	196	0.5	-	9.7	1.0	0.5	5.1	11.7	2.0	4.1	5.1	
	70～79歳	122	1.6	-	15.6	1.6	-	9.8	16.4	0.8	2.5	1.6	
	80歳以上	47	4.3	-	10.6	4.3	-	17.0	12.8	-	-	6.4	
	無回答	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0

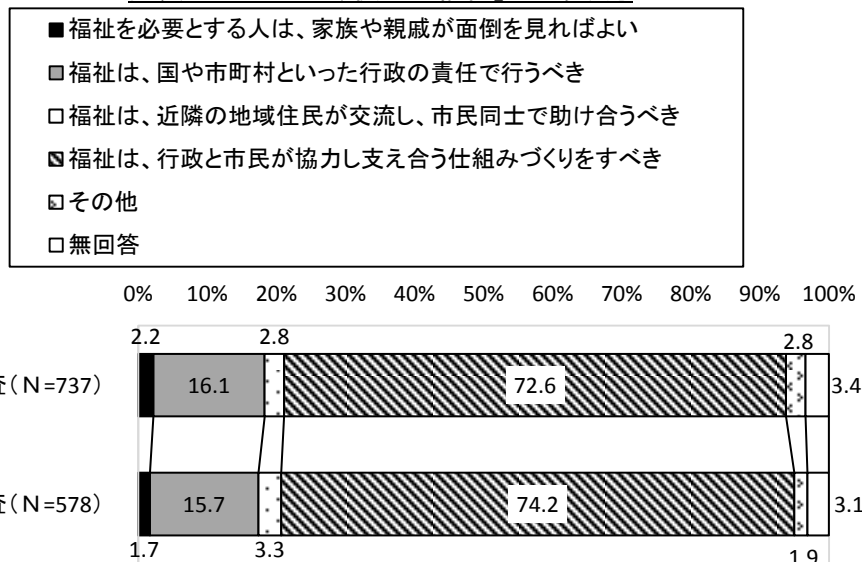
注) は全体よりも5ポイント以上低いもの、
 は全体よりも5ポイント以上高いものを示す

(5) 今後の「福祉」のあり方

・今後の「福祉」のあり方は、「福祉は、行政と市民が協力し合う仕組みづくりをすべき」(72.6%)の割合が最も高い。

問9 今後、「福祉」のあり方は、どのようにあるべきだと思いますか。(1つだけ○)

図表2-16 今後の「福祉」のあり方



今後の「福祉」のあり方は、「福祉は、行政と市民が協力し支え合う仕組みづくりをすべき」(72.6%)の割合が最も高く、以下「福祉は、国や市町村といった行政の責任で行うべき」(16.1%)、「福祉は、近隣の地域住民が交流し、市民同士で助け合うべき」(2.8%)、「福祉を必要とする人は、家族や親戚が面倒を見ればよい」(2.2%)となっている。また、前回調査と比較しても、概ね同様の結果を示している。

家族構成別にみると、単身(ひとり暮らし)では他の家族構成に比べて「福祉は、行政と市民が協力し支え合う仕組みづくりをすべき」の割合が低い。

図表2-17 家族構成別 今後の「福祉」のあり方(%)

		調査数(人)	い人が福 面は社 倒、を を家必 見族要 れやと ば親す よ戚る	責村福 任と社 でいは 行つ、 うた国 べき行や き政市 の町	う市域福 べき民住社 き同民は 士が、 で交近 助流隣 けし 合、地	すう民福 べき仕が社 き組協は み力、 づく支政 りえと を合市	その他	無回答
全体		737	2.2	16.1	2.8	72.6	2.8	3.4
家族構成別	単身(ひとり暮らし)	131	3.8	16.0	5.3	64.9	5.3	4.6
	夫婦のみ	195	2.1	13.3	1.0	76.4	3.1	4.1
	二世帯世帯(親と子)	307	2.0	19.9	3.6	71.7	1.6	1.3
	三世帯世帯(親と子と孫)	61	1.6	6.6	1.6	83.6	1.6	4.9
	その他	36	-	16.7	-	66.7	5.6	11.1
	無回答	7	-	14.3	-	85.7	-	-

注) は全体よりも5ポイント以上低いもの、
 は全体よりも5ポイント以上高いものを示す

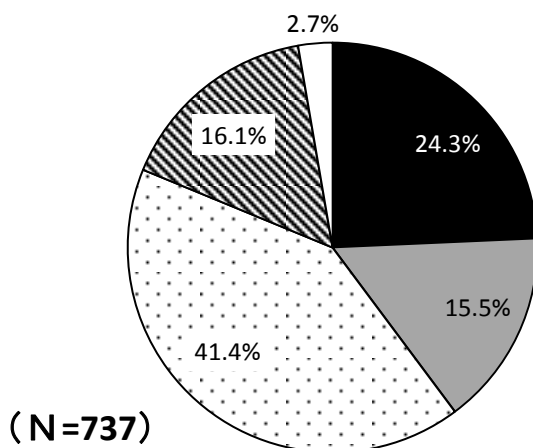
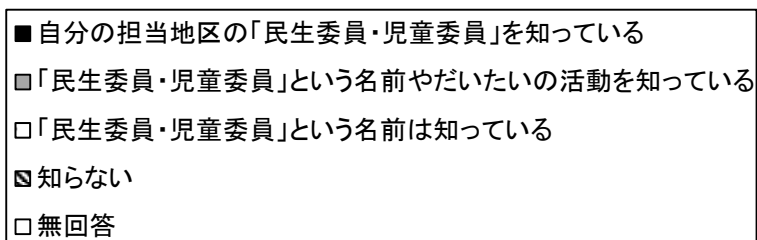
(6) 「民生委員・児童委員」の認知度

・「民生委員・児童委員」の認知度は、『「民生委員・児童委員」という名前は知っている』(41.4%)の割合が最も高い。

問10 あなたは「民生委員・児童委員」をご存知ですか。

※民生委員は児童委員を兼ねています。(1つだけ○)

図表2-18 「民生委員・児童委員」の認知度



「民生委員・児童委員」の認知度は、『「民生委員・児童委員」という名前は知っている』(41.4%)の割合が最も高く、以下『自分の担当地区の「民生委員・児童委員」を知っている』(24.3%)、「知らない」(16.1%)、『「民生委員・児童委員」という名前やだいたいの活動を知っている』(15.5%)となっている。

年齢別にみると、49歳以下では他の年代に比べて『自分の担当地区の「民生委員・児童委員」を知っている』の割合が低い。また、39歳以下では他の年代に比べて「知らない」の割合が高くなっている。

居住地区別にみると、鳥栖地区・鳥栖北地区・弥生が丘地区では他の地区に比べて『自分の担当地区の「民生委員・児童委員」を知っている』の割合が低い。また、鳥栖地区では他の地区に比べて「知らない」の割合も高い。

図表2-19 年齢別・居住地区別 「民生委員・児童委員」の認知度(%)

		調査数 (人)	「民生委員・児童委員」を知っている人の割合	「民生委員・児童委員」を知っている人の割合	「民生委員・児童委員」を知っている人の割合	知らない	無回答
全体		737	24.3	15.5	41.4	16.1	2.7
年齢別	16～29歳	50	4.0	8.0	40.0	48.0	-
	30～39歳	90	5.6	18.9	46.7	28.9	-
	40～49歳	118	12.7	17.8	52.5	16.1	0.8
	50～59歳	111	17.1	16.2	48.6	16.2	1.8
	60～69歳	196	31.1	12.8	44.4	10.2	1.5
	70～79歳	122	44.3	20.5	18.9	7.4	9.0
	80歳以上	47	48.9	8.5	34.0	4.3	4.3
	無回答	3	-	-	33.3	33.3	33.3
居住地区別	鳥栖地区	206	15.0	17.0	45.1	21.4	1.5
	鳥栖北地区	88	13.6	15.9	55.7	13.6	1.1
	田代地区	80	35.0	15.0	33.8	11.3	5.0
	弥生が丘地区	51	9.8	21.6	51.0	17.6	-
	若葉地区	48	39.6	18.8	33.3	6.3	2.1
	基里地区	79	35.4	10.1	36.7	12.7	5.1
	麓地区	70	35.7	14.3	41.4	7.1	1.4
	旭地区	107	28.0	14.0	31.8	21.5	4.7
	無回答	8	12.5	-	25.0	50.0	12.5

注) は全体よりも5ポイント以上低いもの、
 は全体よりも5ポイント以上高いものを示す

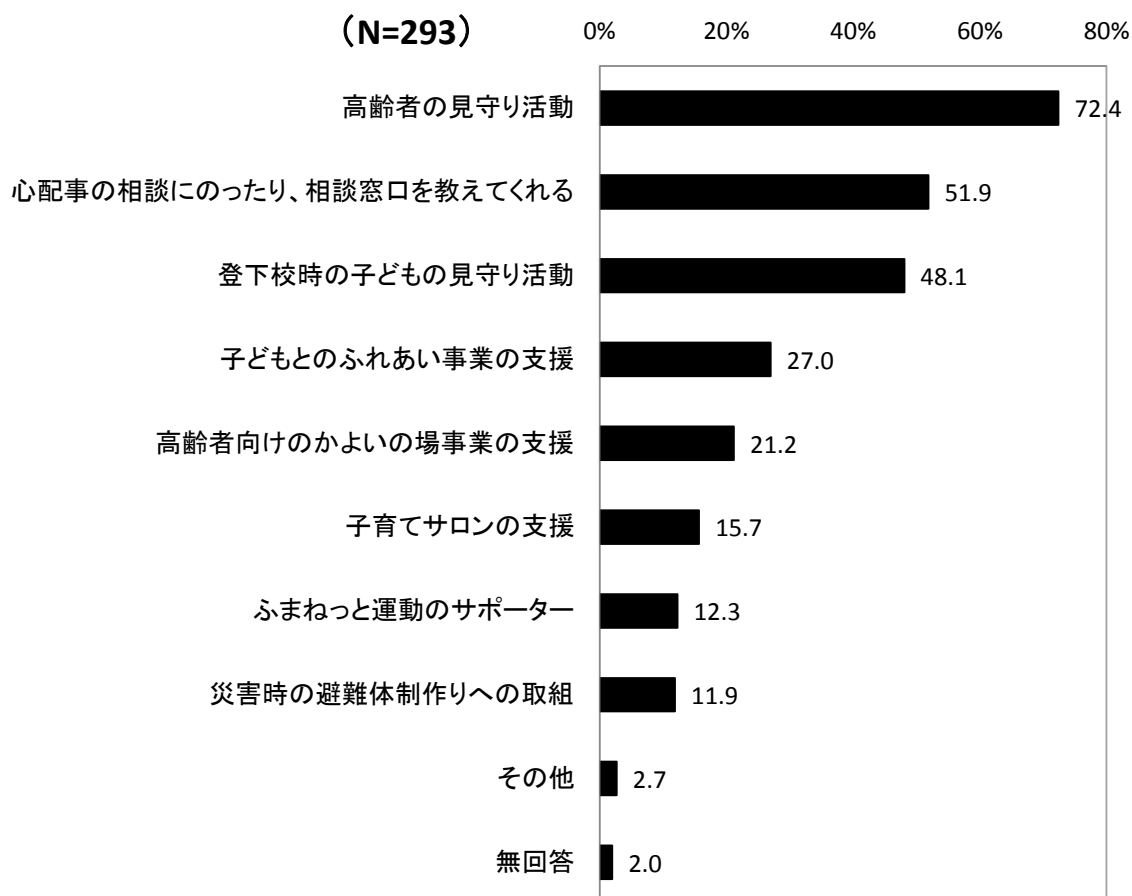
(7) 「民生委員・児童委員」の活動内容の認知度

・「民生委員・児童委員」の活動内容の認知は、「高齢者の見守り活動」(72.4%)の割合が最も高い。

問10で「1」「2」を選んだ人だけにおたずねします。

問10-1 「民生委員・児童委員」の活動内容のうち、どのような活動をご存知ですか。(あてはまるものすべてに○)

図表2-20 「民生委員・児童委員」の活動内容の認知度



「民生委員・児童委員」の活動内容の認知は、「高齢者の見守り活動」(72.4%)の割合が最も高く、次いで「心配事の相談にのったり、相談窓口を教えてくれる」(51.9%)、「登下校時の子どもの見守り活動」(48.1%)となっている。

居住地区別にみると、鳥栖北地区では他の地区に比べて「災害時の避難体制作りへの取組」の割合が低い。また、弥生が丘地区では他の地区に比べて「心配事の相談にのったり、相談窓口を教えてくれる」の割合が低くなっている。

図表2-21 居住地区別 「民生委員・児童委員」の認知度(%)

	調査数(人)	子ども事業の支援	子育てサロンの支援	登下校時の活動	高齢者の見守り活動	高齢者向けの支援	ふまねつと運動のサポート	災害時の避難体制	心のケア、相談	その他	無回答	
全体	293	27.0	15.7	48.1	72.4	21.2	12.3	11.9	51.9	2.7	2.0	
居住地区別	鳥栖地区	66	25.8	16.7	42.4	69.7	22.7	9.1	13.6	54.5	3.0	-
	鳥栖北地区	26	30.8	23.1	34.6	88.5	23.1	7.7	3.8	73.1	-	-
	田代地区	40	25.0	25.0	65.0	70.0	15.0	10.0	5.0	42.5	2.5	2.5
	弥生が丘地区	16	31.3	25.0	56.3	68.8	18.8	6.3	6.3	37.5	6.3	6.3
	若葉地区	28	32.1	14.3	50.0	60.7	32.1	14.3	10.7	46.4	3.6	7.1
	基里地区	36	22.2	2.8	41.7	80.6	16.7	8.3	11.1	41.7	2.8	2.8
	麓地区	35	40.0	8.6	68.6	74.3	17.1	20.0	22.9	65.7	5.7	-
	旭地区	45	17.8	15.6	35.6	71.1	24.4	20.0	15.6	51.1	-	-
	無回答	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0

注) は全体よりも5ポイント以上低いもの、
 は全体よりも5ポイント以上高いものを示す

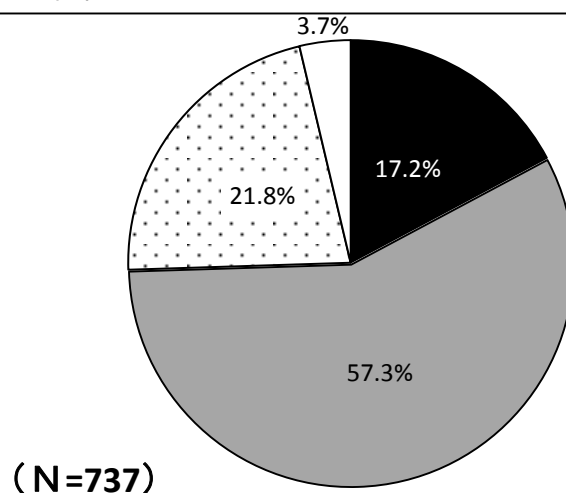
(8) 「社会福祉協議会」の認知度

・「社会福祉協議会」の認知は、「名前は聞いたことがあるが、活動内容はよく知らない」(57.3%)の割合が最も高い。

問11 あなたは、「社会福祉協議会」をご存知ですか。(1つだけ○)

図表2-22 「社会福祉協議会」の認知度

- 名前も知っているし、活動内容もだいたい知っている
- 名前は聞いたことがあるが、活動内容はよく知らない
- 名前も活動内容も知らない
- 無回答



「社会福祉協議会」の認知は、「名前は聞いたことがあるが、活動内容はよく知らない」(57.3%)の割合が最も高く、以下「名前も活動内容も知らない」(21.8%)、「名前も知っているし、活動内容もだいたい知っている」(17.2%)となっている。

年齢別にみると、39歳以下では他の年代に比べて「名前も活動内容も知らない」の割合が高く、40～49歳では「名前も知っているし、活動内容もだいたい知っている」の割合が低くなっている。

居住地区別にみると、弥生が丘地区と旭地区では他の地区に比べて「名前も活動内容も知らない」の割合が高い。

図表2-23 年齢別、居住地区別 「社会福祉協議会」の認知度(%)

		調査数 (人)	いし名 た、前 い活も 知動知 つ内っ て容て いるも るだる	容が名 はあ前 よるは くが聞 ら活、い な動た い内こ と	知名 ら前 ないも い活 動内 容も	無 回 答
全体		737	17.2	57.3	21.8	3.7
年齢別	16~29歳	50	-	44.0	56.0	-
	30~39歳	90	12.2	46.7	41.1	-
	40~49歳	118	10.2	62.7	25.4	1.7
	50~59歳	111	17.1	59.5	21.6	1.8
	60~69歳	196	14.8	68.9	11.7	4.6
	70~79歳	122	35.2	41.0	13.9	9.8
	80歳以上	47	25.5	66.0	4.3	4.3
	無回答	3	33.3	66.7	-	-
居住地区別	鳥栖地区	206	14.1	56.3	26.7	2.9
	鳥栖北地区	88	14.8	63.6	19.3	2.3
	田代地区	80	20.0	57.5	16.3	6.3
	弥生が丘地区	51	9.8	58.8	29.4	2.0
	若葉地区	48	22.9	60.4	14.6	2.1
	基里地区	79	21.5	55.7	17.7	5.1
	麓地区	70	31.4	61.4	5.7	1.4
	旭地区	107	11.2	51.4	30.8	6.5
	無回答	8	25.0	37.5	37.5	-

注) は全体よりも5ポイント以上低いもの、
 は全体よりも5ポイント以上高いものを示す

(9) 「社会福祉協議会」に期待する取り組み

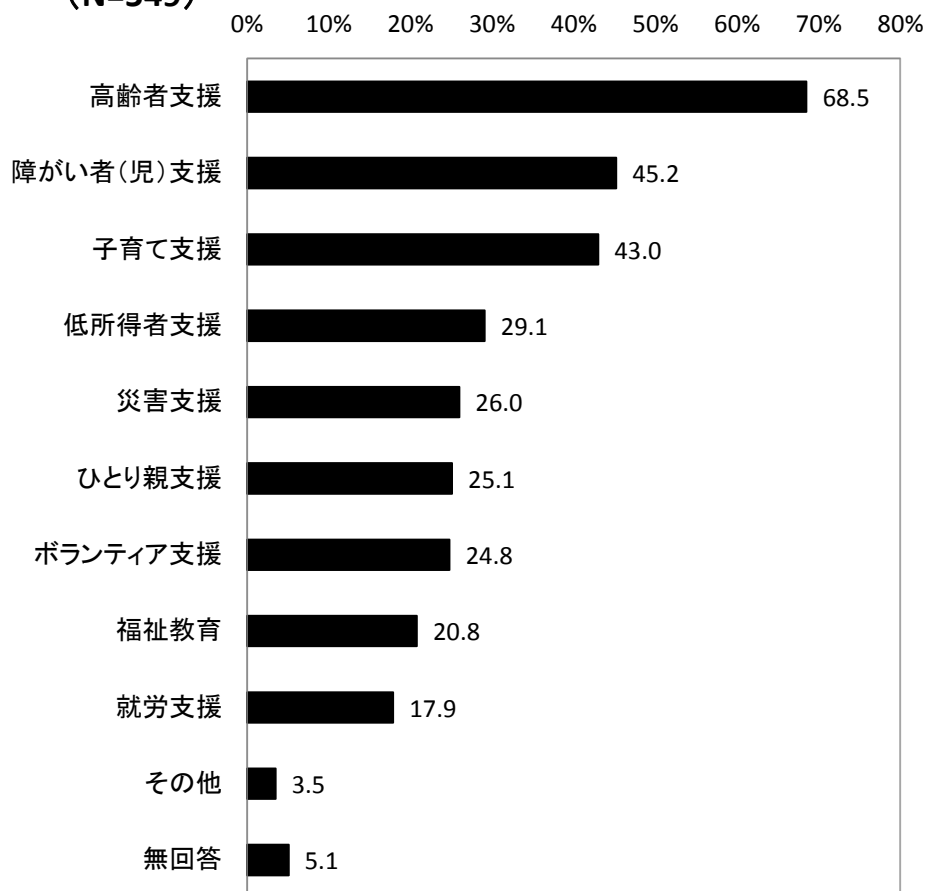
・「社会福祉協議会」に期待する取り組みは、「高齢者支援」(68.5%)の割合が最も高い。

問11で「1」「2」を選んだ人だけにおたずねします。

問11-1 「社会福祉協議会」に期待する取り組みはありますか。(あてはまるものすべてに○)

図表2-24 「社会福祉協議会」に期待する取り組み

(N=549)



「社会福祉協議会」に期待する取り組みは、「高齢者支援」(68.5%)の割合が最も高く、次いで「障がい者(児)支援」(45.2%)、「子育て支援」(43.0%)となっている。

年齢別にみると、16~29歳、50~59歳ではその他の年代に比べて「就労支援」の割合が高い。30~49歳では、その他の年代に比べて「子育て支援」の割合が高い。

居住地区別にみると、若葉地区・麓地区では、他の地区に比べて「福祉教育」の割合が高い。また、麓地区では「ボランティア支援」の割合も高くなっている。

家族構成別にみると、二世帯世帯(親と子)では、他の家族構成に比べて「子育て支援」の割合が高く、三世帯世帯(親と子と孫)では「ひとり親支援」の割合が高い。

図表2-25 年齢別・居住地区別・家族構成別 「社会福祉協議会」に期待する取り組み（%）

		調査数（人）	高齢者支援	障がい者（児）支援	子育て支援	低所得者支援	ひとり親支援	就労支援	ボランティア支援	災害支援	福祉教育	その他	無回答
全体		549	68.5	45.2	43.0	29.1	25.1	17.9	24.8	26.0	20.8	3.5	5.1
年齢別	16～29歳	22	31.8	31.8	45.5	36.4	31.8	54.5	31.8	27.3	22.7	13.6	4.5
	30～39歳	53	58.5	54.7	66.0	28.3	35.8	17.0	28.3	20.8	18.9	-	3.8
	40～49歳	86	67.4	48.8	54.7	29.1	25.6	25.6	20.9	30.2	12.8	2.3	3.5
	50～59歳	85	74.1	48.2	48.2	32.9	21.2	29.4	31.8	28.2	28.2	-	4.7
	60～69歳	164	67.1	40.2	37.8	27.4	23.8	9.8	20.1	28.0	24.4	3.7	4.9
	70～79歳	93	78.5	49.5	33.3	32.3	25.8	15.1	30.1	20.4	22.6	5.4	7.5
	80歳以上	43	74.4	34.9	20.9	18.6	18.6	-	14.0	23.3	7.0	7.0	7.0
	無回答	3	66.7	66.7	33.3	33.3	33.3	-	66.7	33.3	-	-	-
居住地区別	鳥栖地区	145	66.2	43.4	46.9	25.5	21.4	17.2	22.8	25.5	14.5	4.1	4.8
	鳥栖北地区	69	71.0	52.2	49.3	31.9	30.4	21.7	18.8	24.6	18.8	4.3	2.9
	田代地区	62	67.7	45.2	41.9	29.0	21.0	12.9	22.6	22.6	14.5	3.2	8.1
	弥生が丘地区	35	80.0	45.7	40.0	31.4	31.4	17.1	31.4	28.6	20.0	-	-
	若葉地区	40	70.0	52.5	50.0	35.0	27.5	22.5	32.5	27.5	35.0	7.5	2.5
	基里地区	61	75.4	37.7	27.9	21.3	23.0	11.5	21.3	19.7	26.2	4.9	1.6
	麓地区	65	63.1	46.2	40.0	33.8	27.7	24.6	35.4	30.8	32.3	1.5	7.7
	旭地区	67	62.7	41.8	44.8	31.3	25.4	17.9	19.4	31.3	19.4	1.5	10.4
	無回答	5	80.0	60.0	20.0	40.0	40.0	-	60.0	20.0	-	-	-
家族構成別	単身（ひとり暮らし）	91	65.9	31.9	34.1	26.4	17.6	8.8	28.6	22	14.3	7.7	6.6
	夫婦のみ	149	73.2	43	39.6	24.2	24.8	13.4	24.8	28.2	20.8	2.7	4.7
	二世帯世帯（親と子）	229	66.8	49.3	49.8	31.9	24	21.4	22.3	27.1	21.4	2.2	4.4
	三世帯世帯（親と子と孫）	49	69.4	55.1	44.9	36.7	42.9	28.6	28.6	24.5	28.6	4.1	8.2
	その他	25	64	52	36	32	32	28	24	20	28	4	4
	無回答	6	66.7	33.3	16.7	16.7	16.7	-	33.3	33.3	-	-	-

注) は全体よりも5ポイント以上低いもの、
 は全体よりも5ポイント以上高いものを示す

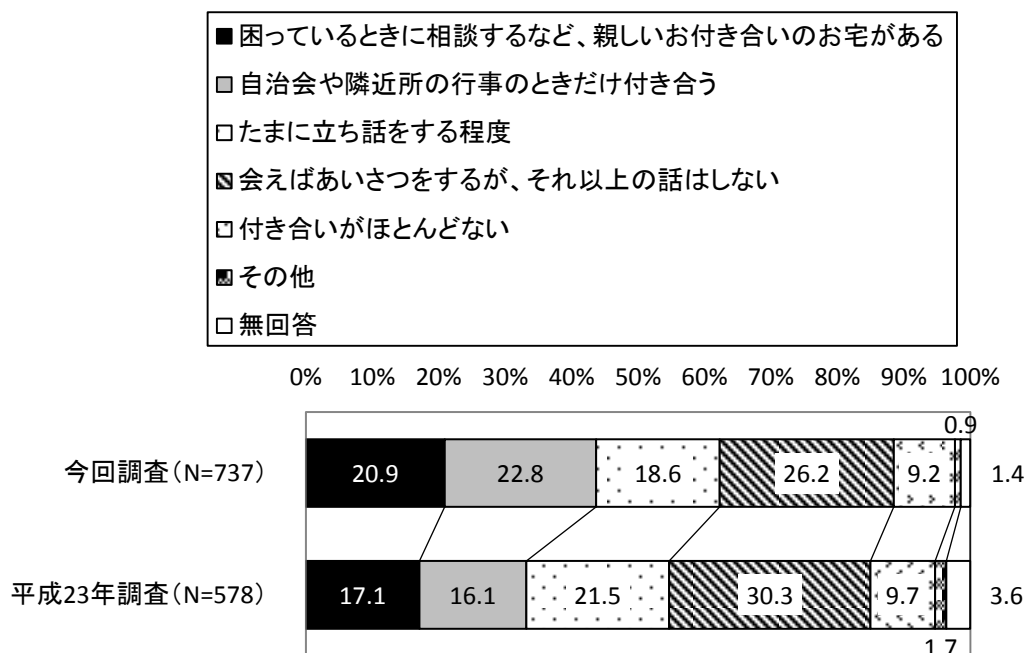
3. 「地域」について

(1) ふだんの近所付き合いの程度

・ふだんの近所付き合いの程度は、「会えばあいさつをするが、それ以上の話ほしない」(26.2%)の割合が最も高い。

問12 あなたは、ふだん近所の人とどの程度の付き合いをされていますか。(1つだけ○)

図表2-26 ふだんの近所付き合いの程度



ふだんの近所付き合いの程度は、「会えばあいさつをするが、それ以上の話ほしない」(26.2%)の割合が最も高く、以下「自治会や隣近所の行事のときだけ付き合い」(22.8%)、「困っているときに相談するなど、親しいお付き合いのお宅がある」(20.9%)、「たまに立ち話をする程度」(18.6%)、「付き合いがほとんどない」(9.2%)となっている。また、前回調査と比較しても、概ね同様の結果を示している。

年齢別にみると、49歳以下では他の年代に比べて「会えばあいさつをするが、それ以上の話ほしない」の割合が高く、39歳以下では「付き合いがほとんどない」の割合も高くなっている。

家族構成別にみると、単身(ひとり暮らし)では他の家族構成に比べて「付き合いがほとんどない」の割合が高く、二世帯世帯(親と子)では「困っているときに相談するなど、親しいお付き合いのお宅がある」の割合が低くなっている。

図表2-27 年齢別・家族構成別 ふだんの近所付き合いの程度（％）

		調査数（人）	おし相困 宅い談っ があおす 付るな き合いと い、き の親に	き行自 合事の うのや 隣 近 所 付の	るた まに 立 ち 話 を す	のす会 話るが はし、あ し、そい ないそれ 以上つ を	ど付 なき 合 い が ほ と ん	そ の 他	無 回 答
全体		737	20.9	22.8	18.6	26.2	9.2	0.9	1.4
年齢別	16～29歳	50	8.0	4.0	10.0	44.0	32.0	2.0	-
	30～39歳	90	17.8	7.8	10.0	45.6	17.8	1.1	-
	40～49歳	118	13.6	21.2	13.6	40.7	11.0	-	-
	50～59歳	111	10.8	30.6	20.7	28.8	7.2	-	1.8
	60～69歳	196	19.9	33.2	24.5	16.3	4.1	1.0	1.0
	70～79歳	122	40.2	23.0	21.3	8.2	2.5	1.6	3.3
	80歳以上	47	38.3	14.9	21.3	14.9	6.4	2.1	2.1
	無回答	3	-	-	-	33.3	33.3	-	33.3
家族構成別	単身（ひとり暮らし）	131	22.1	16.8	11.5	22.9	24.4	0.8	1.5
	夫婦のみ	195	24.6	24.1	19.0	22.1	6.2	2.1	2.1
	二世世代世帯（親と子）	307	16.0	26.4	21.8	30.6	4.2	0.7	0.3
	三世世代世帯（親と子と孫）	61	34.4	21.3	11.5	19.7	9.8	-	3.3
	その他	36	19.4	11.1	27.8	30.6	11.1	-	-
	無回答	7	-	14.3	14.3	42.9	14.3	-	14.3

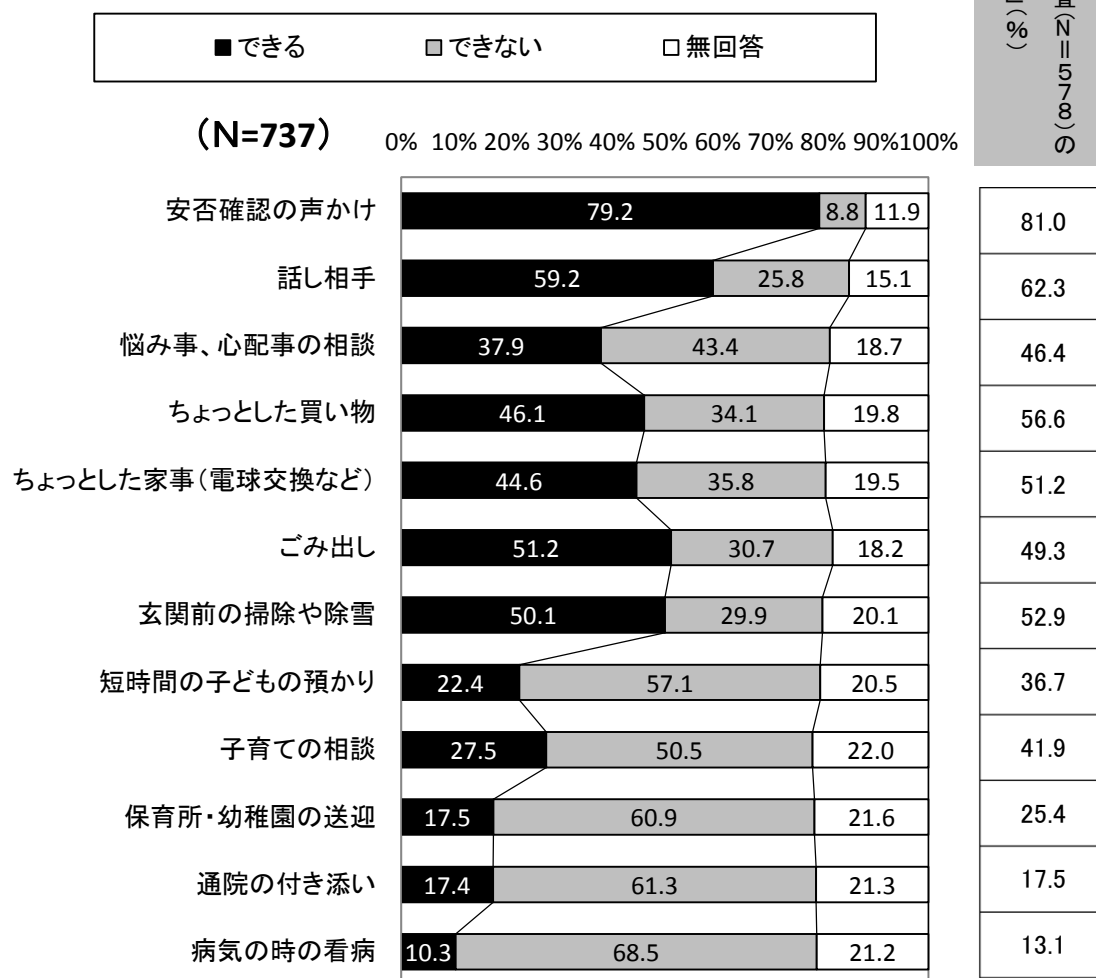
注) は全体よりも5ポイント以上低いもの、
 は全体よりも5ポイント以上高いものを示す

(2) 隣近所で困っている世帯に手助けできること

・隣近所で困っている世帯に手助けできることについて、「できる」の割合をみると、「安否確認の声かけ」(79.2%)の割合が最も高い。前回調査と比較すると、「短時間の子どもの預かり」や「子育ての相談」は約15ポイント減少している。

問13 (A) 隣近所で困っている世帯があった場合、あなたができることは何ですか。(1つだけ)

図表2-28 隣近所で困っている世帯に手助けできること



隣近所で困っている世帯に手助けできることについて、「できる」の割合をみると、「安否確認の声かけ」(79.2%)の割合が最も高く、次いで「話し相手」(59.2%)、「ごみ出し」(51.2%)、「玄関前の掃除や除雪」(50.1%)となっている。前回調査と比較すると、「短時間の子どもの預かり」や「子育ての相談」は約15ポイント減少している。

年齢別にみると、16～29歳では他の年代に比べて「玄関前の掃除や除雪」の割合が高い。30～39歳では他の年代に比べて「短時間の子どもの預かり」や「子育ての相談」の割合が高く、40～49歳では「ちょっとした家事(電球交換など)」、50～59歳では「安否確認の声かけ」「ちょっとした買い物」「玄関前の掃除や除雪」の割合が高くなっている。

図表2-29 年齢別 隣近所で困っている世帯に手助けできること【「できる」の割合】(%)

	調査数(人)	け安否確認の声か	話し相手	の悩み事、心配事	い物よっとした買	ど事ちよっとした家	ごみ出し	除雪	玄関前の掃除や	の短預かりの子ども	子育ての相談	の保育所・幼稚園	通院の付き添い	病気の時の看病
全体	737	79.2	59.2	37.9	46.1	44.6	51.2	50.1	22.4	27.5	17.5	17.4	10.3	
年齢別	16～29歳	50	82.0	58.0	44.0	40.0	44.0	56.0	68.0	22.0	20.0	12.0	10.0	8.0
	30～39歳	90	86.7	58.9	42.2	47.8	43.3	46.7	58.9	35.6	50.0	24.4	20.0	14.4
	40～49歳	118	83.9	61.0	37.3	51.7	54.2	47.5	45.8	28.0	32.2	16.9	12.7	3.4
	50～59歳	111	87.4	64.0	37.8	56.8	53.2	59.5	61.3	22.5	32.4	21.6	19.8	10.8
	60～69歳	196	77.0	57.7	37.8	48.5	47.4	54.1	46.4	19.4	23.0	18.9	22.4	12.8
	70～79歳	122	76.2	63.1	40.2	42.6	39.3	57.4	46.7	19.7	19.7	15.6	18.0	13.9
	80歳以上	47	53.2	44.7	21.3	12.8	8.5	19.1	25.5	4.3	10.6	2.1	4.3	2.1
	無回答	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

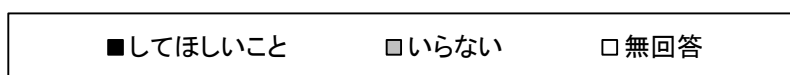
注) は全体よりも5ポイント以上低いもの、
 は全体よりも5ポイント以上高いものを示す

(3) 隣近所に手助けしてほしいこと

・隣近所に手助けしてほしいことについて、「してほしい」の割合をみると、「安否確認の声かけ」(51.2%)の割合が最も高い。前回調査と比較すると、「短時間の子どもの預かり」や「子育ての相談」「保育所・幼稚園の送迎」は約15~18ポイント減少している。

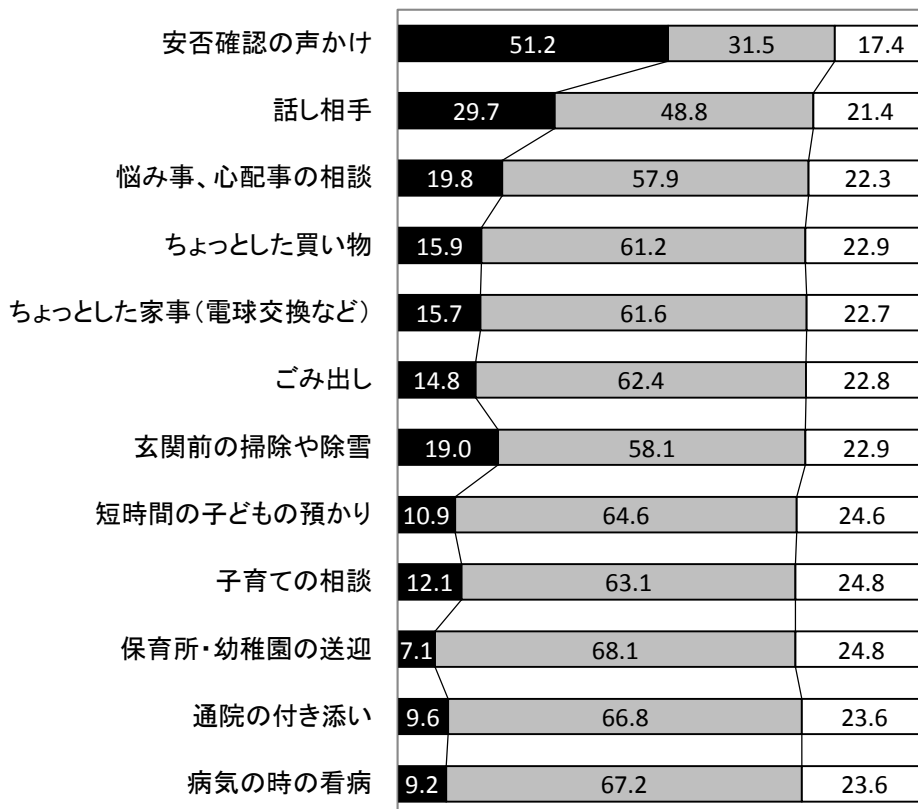
問13 (B) 隣近所の人に手助けしてもらおうとしたら、どんなことをしてほしいですか。(1つだけ○)

図表2-30 隣近所に手助けしてほしいこと



(N=737)

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90%100%



前回調査(N=578)の「してほしい」の割合 (%)

51.0
37.9
30.6
23.9
17.8
16.6
20.2
27.2
29.9
21.8
10.4
10.6

隣近所に手助けしてほしいことについて、「してほしい」の割合をみると、「安否確認の声かけ」(51.2%)の割合が最も高く、次いで「話し相手」(29.7%)、「悩み事、心配事の相談」(19.8%)、「玄関前の掃除や除雪」(19.0%)となっている。前回調査と比較すると、「短時間の子どもの預かり」や「子育ての相談」「保育所・幼稚園の送迎」は約15~18ポイント減少している。

年齢別にみると、16~29歳では他の年代に比べて「玄関前の掃除や除雪」や「安否確認の声かけ」の割合が高い。30~39歳では他の年代に比べて「悩み事、心配事の相談」「玄関前の掃除や除雪」「短時間の子どもの預かり」「子育ての相談」「保育所・幼稚園の送迎」の割合が高く、40~49歳では「短時間の子どもの預かり」「子育ての相談」の割合が高くなっている。

第3章. 地域福祉計画・地域福祉活動計画に関する調査結果

家族構成別にみると、単身（ひとり暮らし）は他の家族構成に比べて「病気の時の看病」の割合が高く、二世帯世帯（親と子）では「短時間の子どもの預かり」や「子育ての相談」の割合が高くなっている。

図表2-31 年齢別・家族構成別 隣近所で困っている世帯に手助けしてほしいこと（％）

		調査数（人）	け安否確認の声か	話し相手	の悩み事、心配事	い物ちよっとした買	ど事（電球交換した家	ちよっとした家	ごみ出し	除雪関前の掃除や	の短時間の子どもの	子育ての相談	の保育所・幼稚園	通院の付き添い	病気の時の看病
全体		737	51.2	29.7	19.8	15.9	15.7	14.8	19.0	10.9	12.1	7.1	9.6	9.2	
年齢別	16～29歳	50	72.0	32.0	22.0	20.0	24.0	22.0	38.0	12.0	18.0	6.0	6.0	12.0	
	30～39歳	90	62.2	31.1	31.1	20.0	12.2	20.0	28.9	26.7	35.6	21.1	8.9	10.0	
	40～49歳	118	58.5	22.9	16.9	14.4	13.6	12.7	17.8	17.8	22.0	5.9	8.5	5.9	
	50～59歳	111	54.1	34.2	19.8	21.6	18.9	17.1	24.3	10.8	7.2	7.2	13.5	9.9	
	60～69歳	196	43.4	28.6	15.3	10.7	13.8	13.8	14.8	6.1	4.6	6.1	9.7	9.2	
	70～79歳	122	43.4	31.1	22.1	16.4	20.5	13.1	11.5	3.3	4.1	2.5	10.7	10.7	
	80歳以上	47	38.3	34.0	17.0	14.9	8.5	6.4	8.5	2.1	-	-	4.3	8.5	
	無回答	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	33.3	-
家族構成別	単身（ひとり暮らし）	131	48.9	24.4	19.1	15.3	19.1	16.0	15.3	5.3	4.6	3.8	12.2	15.3	
	夫婦のみ	195	52.3	32.3	22.1	17.4	16.9	16.4	18.5	7.7	8.7	6.7	11.3	11.8	
	二世帯世帯（親と子）	307	54.7	31.6	20.8	15.3	13.4	14.3	22.1	16.0	19.2	9.8	8.8	6.2	
	三世帯世帯（親と子と孫）	61	50.8	31.1	14.8	19.7	19.7	13.1	19.7	13.1	9.8	4.9	3.3	4.9	
	その他	36	30.6	19.4	11.1	8.3	8.3	11.1	11.1	2.8	2.8	2.8	8.3	8.3	
	無回答	7	14.3	14.3	14.3	14.3	28.6	-	-	-	-	-	-	14.3	-

注) は全体よりも5ポイント以上低いもの、

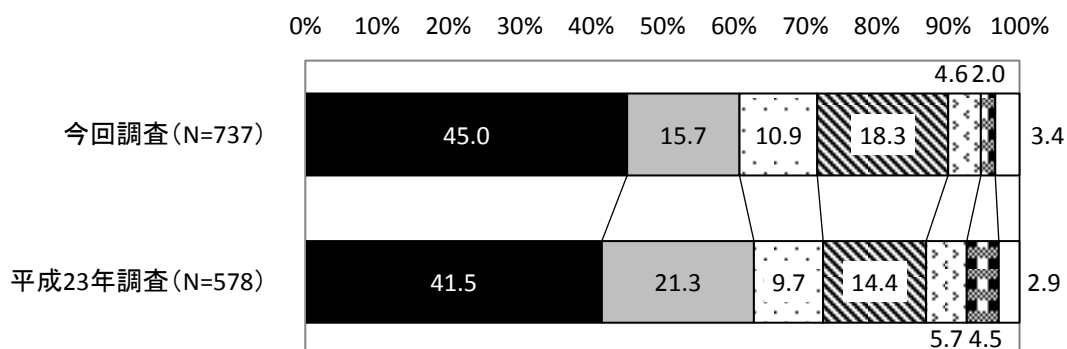
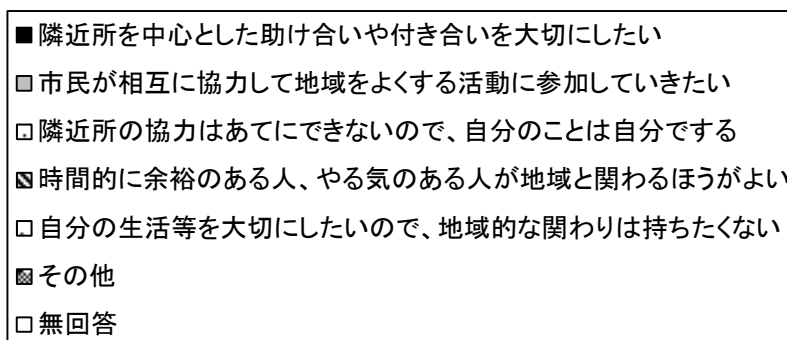
 は全体よりも5ポイント以上高いものを示す

(4) 地域の人との関わり方の意向

・地域での人と人との関わり方の意向は、「隣近所を中心とした助け合いや付き合いを大切にしたい」(45.0%)の割合が最も高い。

問14 地域での人と人との関わりについて、あなたのお考えに近いものは何ですか。(1つだけ○)

図表2-32 地域の人との関わり方の意向



地域での人と人との関わり方の意向は、「隣近所を中心とした助け合いや付き合いを大切にしたい」(45.0%)の割合が最も高く、以下「時間的に余裕のある人、やる気のある人が地域と関わる方がよい」(18.3%)、「市民が相互に協力して地域をよくする活動に参加していきたい」(15.7%)、「隣近所の協力はあてにできないので、自分のことは自分です」(10.9%)、「自分の生活等を大切にしたいので、地域的な関わりは持ちたくない」(4.6%)となっている。また、前回調査と比較しても、概ね同様の結果を示している。

年齢別にみると、30～49歳では他の年代に比べて「隣近所を中心とした助け合いや付き合いを大切にしたい」の割合が低い。また、40～59歳では「時間的に余裕のある人、やる気のある人が地域と関わるほうがよい」の割合が高く、40～49歳では「自分の生活等を大切にしたいので、地域的な関わりは持ちたくない」の割合も高い。

図表2-33 年齢別 地域の人との関わり方の意向 (%)

	調査数 (人)	い合た隣 い助近 をけ所 大合を 切い中 にや心 し付と たきし	いるし市 き活て民 た動地が いに域相 参を互 加よに しく協 てす力	自でて隣 分、に近 で自で所 す分きの るのな協 こい力 とのは はあ	るるる時 ほ人人間 うが、に が地や余 よ域る裕 いと気の 関のあ	持地切自 ち域に分 た的しの くなた生 な関い活 いわの等 りでを は、大	そ 他	無 回 答	
全体	737	45.0	15.7	10.9	18.3	4.6	2.0	3.4	
年齢別	16～29歳	50	34.0	20.0	12.0	20.0	10.0	4.0	-
	30～39歳	90	31.1	23.3	11.1	18.9	7.8	4.4	3.3
	40～49歳	118	30.5	21.2	8.5	25.4	9.3	3.4	1.7
	50～59歳	111	38.7	18.9	10.8	26.1	1.8	1.8	1.8
	60～69歳	196	50.0	12.2	11.7	18.4	3.6	1.5	2.6
	70～79歳	122	62.3	11.5	13.1	5.7	1.6	-	5.7
	80歳以上	47	70.2	-	6.4	10.6	-	-	12.8
	無回答	3	33.3	33.3	-	33.3	-	-	-

注) は全体よりも5ポイント以上低いもの、

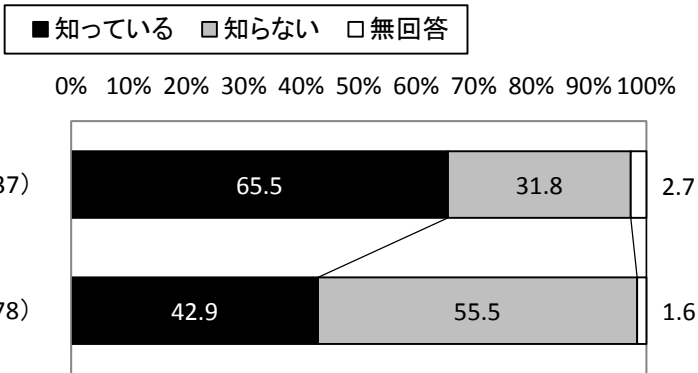
 は全体よりも5ポイント以上高いものを示す

(5) 災害時の避難場所の認知度

・災害時の避難場所の認知度は、「知っている」の割合が過半数を占めている。前回調査と比較すると、「知っている」が約23ポイント上昇している。

問15 災害時のあなたの地区の避難場所を知っていますか。(1つだけ○)

図表2-34 災害時の避難場所の認知度



災害時の避難場所の認知度は、「知っている」の割合が65.5%となっている。前回調査と比較すると、「知っている」が約23ポイント上昇している。

年齢別にみると、16～29歳では他の年代に比べて「知らない」の割合が高くなっている。

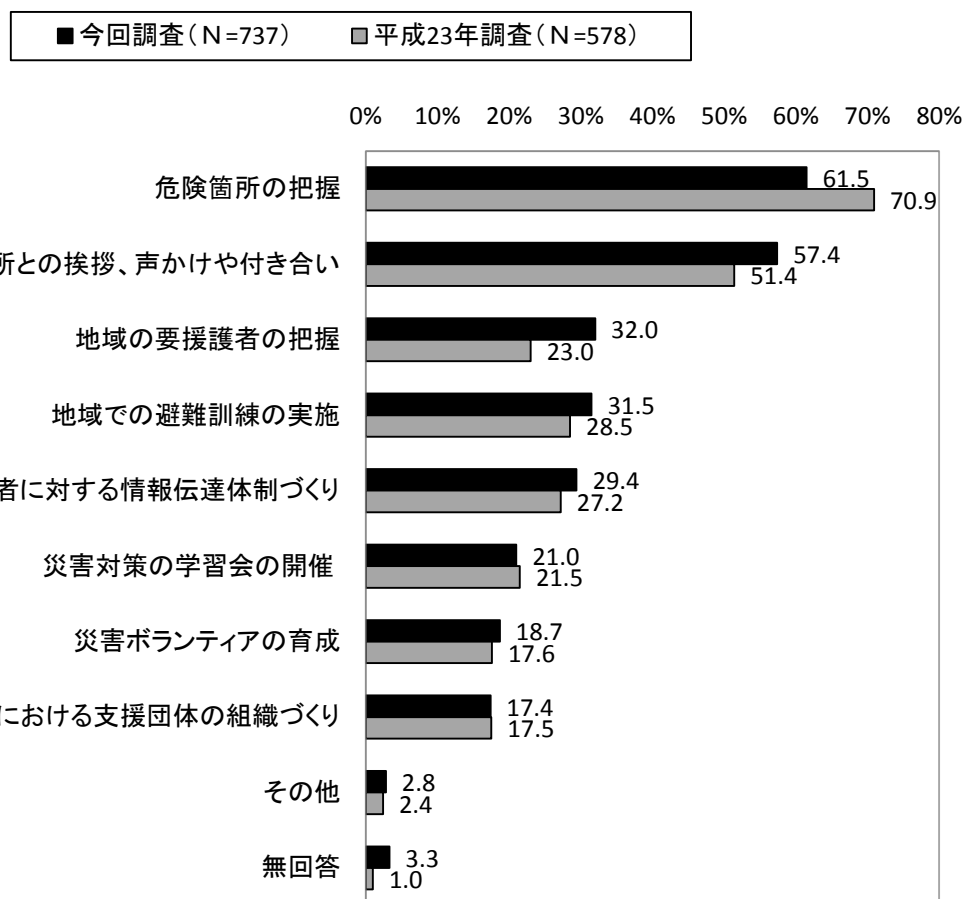
家族構成別にみると、単身（一人暮らし）では他の家族構成に比べて「知らない」の割合が高くなっている。

(6) 地震や台風などの災害発生時の備えとして重要なこと

・災害発生時の備えとして重要なことは、「危険個所の把握」(61.5%)の割合が最も高い。前回調査と比較すると、「地域の要援護者の把握」が9ポイント上昇している。

問16 地震や台風などの災害発生時の備えとして、どのようなことが重要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

図表2-36 地震や台風などの災害発生時の備えとして重要なこと



災害発生時の備えとして重要なことは、「危険個所の把握」(61.5%)の割合が最も高く、次いで「日ごろからの隣近所との挨拶、声かけや付き合い」(57.4%)、「地域の要援護者の把握」(32.0%)、「地域での避難訓練の実施」(31.5%)となっている。前回調査と比較すると、「地域の要援護者の把握」が9ポイント上昇している。

居住地区別にみると、鳥栖北地区では他の地区に比べて「危険個所の把握」の割合が高く、田代地区では「日ごろからの隣近所との挨拶、声かけや付き合い」、麓地区では「地域での避難訓練の実施」の割合が高くなっている。

図表2-37 居住地区別 地震や台風などの災害発生時の備えとして重要なこと(%)

	調査数(人)	の災害 開催 対策 の学 習会	け所日 やとご 付のろ き挨 合拶、 声の か隣 近	の地 実域 施で の避 難訓 練	危 険 箇 所 の 把 握	団地 域に お け る 支 援	把地 域の 要 援 護 者 の	り情要 報援 伝護 達者 に 制 づ く る	の災 害 成 ボ ラ ン テ ィ ア	そ の 他	無 回 答	
全体	737	21.0	57.4	31.5	61.5	17.4	32.0	29.4	18.7	2.8	3.3	
居住地区別	鳥栖地区	206	22.3	54.4	27.7	65.5	15.0	33.0	29.6	18.9	3.4	4.4
	鳥栖北地区	88	17.0	53.4	26.1	72.7	13.6	34.1	29.5	15.9	4.5	2.3
	田代地区	80	22.5	68.8	28.8	60.0	12.5	27.5	27.5	16.3	-	2.5
	弥生が丘地区	51	17.6	52.9	33.3	68.6	27.5	29.4	33.3	23.5	5.9	3.9
	若葉地区	48	31.3	64.6	33.3	56.3	18.8	35.4	35.4	20.8	4.2	-
	基里地区	79	12.7	50.6	32.9	51.9	17.7	30.4	19.0	12.7	-	6.3
	麓地区	70	24.3	68.6	44.3	54.3	22.9	34.3	28.6	15.7	4.3	2.9
	旭地区	107	22.4	57.0	34.6	56.1	18.7	32.7	33.6	23.4	1.9	1.9
	無回答	8	12.5	25.0	25.0	62.5	25.0	12.5	37.5	50.0	-	-

注) は全体よりも5ポイント以上低いもの、
 は全体よりも5ポイント以上高いものを示す

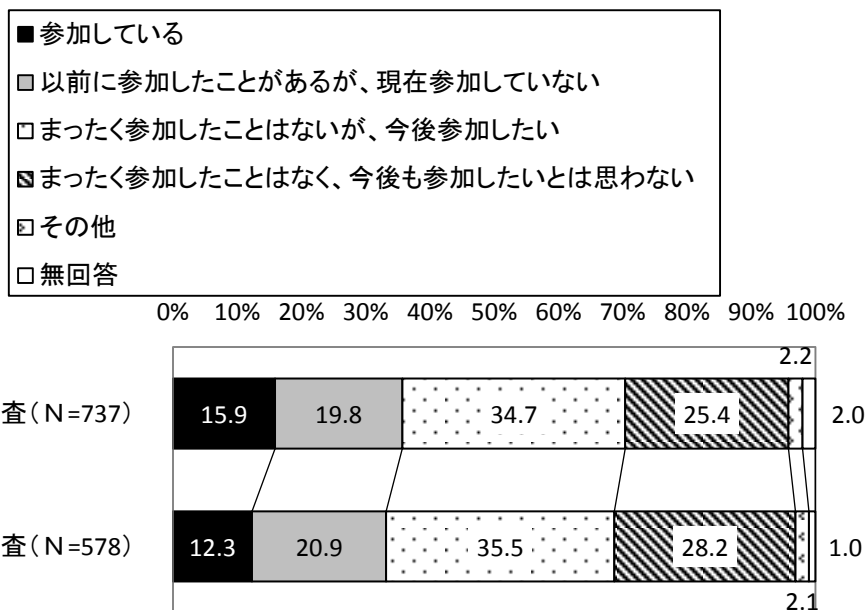
4. ボランティア活動や地域活動について

(1) ボランティア活動への参加意向

・ボランティア活動への参加意向は、「まったく参加したことはないが、今後参加したい」(34.7%)の割合が最も高い。

問17 あなたは現在、ボランティア活動に参加していますか。(1つだけ○)

図表2-38 ボランティア活動への参加意向



ボランティア活動への参加意向は、「まったく参加したことはないが、今後参加したい」(34.7%)の割合が最も高く、以下「まったく参加したことがなく、今後も参加したいとは思わない」(25.4%)、「以前に参加したことがあるが、現在参加していない」(19.8%)、「参加している」(15.9%)となっている。また、前回調査と比較しても、概ね同様の結果を示している。

年齢別にみると、30～49歳では他の年代に比べて「参加している」の割合が低い。30～39歳、50～59歳では他の年代に比べて「まったく参加したことはないが、今後参加したい」の割合が高い。

居住地区別にみると、鳥栖地区では他の地区に比べて「参加している」の割合が低く、「まったく参加したことはないが、今後参加したい」の割合が高くなっている。

図表2-39 年齢別・居住地区別 ボランティア活動への参加意向(%)

	調査数(人)	参加している	参加してはいるが、現在	以前に参加した	後、参加したいが、今	ま、参加したいが、今	も、参加したい、今	その他	無回答
全体	737	15.9	19.8	34.7	25.4	2.2	2.0		
年齢別	16～29歳	50	6.0	26.0	46.0	20.0	2.0	-	
	30～39歳	90	4.4	18.9	50.0	26.7	-	-	
	40～49歳	118	8.5	21.2	41.5	28.0	-	0.8	
	50～59歳	111	13.5	12.6	50.5	20.7	1.8	0.9	
	60～69歳	196	19.9	15.8	30.6	28.6	3.6	1.5	
	70～79歳	122	33.6	27.0	13.1	21.3	0.8	4.1	
	80歳以上	47	8.5	27.7	12.8	31.9	10.6	8.5	
	無回答	3	33.3	-	33.3	-	-	33.3	
居住地区別	鳥栖地区	206	10.2	17.5	41.3	25.2	2.4	3.4	
	鳥栖北地区	88	14.8	21.6	25.0	33.0	3.4	2.3	
	田代地区	80	21.3	15.0	32.5	26.3	5.0	-	
	弥生が丘地区	51	9.8	23.5	45.1	19.6	-	2.0	
	若葉地区	48	25.0	20.8	37.5	16.7	-	-	
	基里地区	79	22.8	20.3	25.3	26.6	2.5	2.5	
	麓地区	70	15.7	28.6	31.4	22.9	-	1.4	
	旭地区	107	17.8	17.8	34.6	27.1	1.9	0.9	
	無回答	8	12.5	25.0	37.5	12.5	-	12.5	

注) は全体よりも5ポイント以上低いもの、
 は全体よりも5ポイント以上高いものを示す

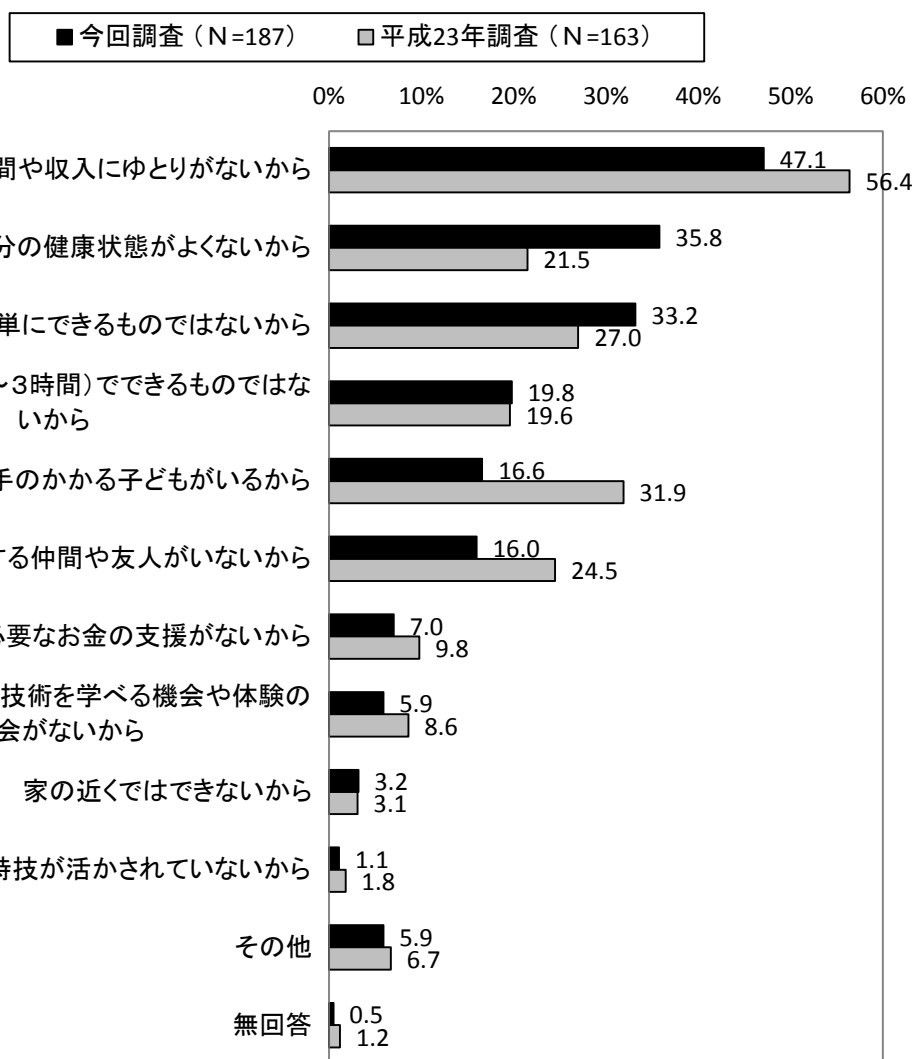
(2) ボランティアに参加したいと思わない理由

・ボランティアに参加したいと思わない理由は、「時間や収入にゆとりがないから」(47.1%)の割合が最も高い。

問17で「4」を選んだ人だけにおたずねします。

問17-1 ボランティア活動に参加したいと思わないのはなぜですか。(あてはまるものすべてに○)

図表2-40 ボランティアに参加したいと思わない理由



ボランティアに参加したいと思わない理由は、「時間や収入にゆとりがないから」(47.1%)の割合が最も高く、以下「自分の健康状態がよくないから」(35.8%)、「誰にでも簡単にできるものではないから」(33.2%)、「わずかな時間(2~3時間)でできるものではないから」(19.8%)となっている。

前回調査と比較して、「時間や収入にゆとりがないから」の割合は10ポイント近く減ったものの、依然としてボランティアに参加しない理由として、最も高い割合を占める。また、「自分の健康状態がよくないから」は約14ポイント上昇、「家族に病人や手のかかる子どもがいるから」は約15ポイント減少している。

年齢別にみると、16～29歳、40～59歳では他の年代に比べて「時間や収入にゆとりがないから」の割合が高い。30～39歳では他の年代に比べて「家族に病人や、手のかかる子どもがいるから」や「ともに活動する仲間や友人がいないから」の割合が高く、70歳以上では「自分の健康状態がよくないから」の割合が高くなっている。

図表2-41 年齢別 ボランティアに参加したいと思わない理由（％）

	調査数（人）	が時間や収入にゆとり	か家族に病人や、手のかかる子どものいる	く自分の健康状態がよくない	や友人が活動する仲間	れ趣味や特技が活かさ	る誰のでも簡単なから	い家の近くではできない	の3時間かできない（2時間）	わずかな時間（2時間）	支活動に必要なお金の	験の機会がないから	講座など、知識や技術	その他	無回答
全体	187	47.1	16.6	35.8	16.0	1.1	33.2	3.2	19.8	7.0	5.9	5.9	0.5		
年齢別	16～29歳	10	80.0	20.0	10.0	-	10.0	20.0	-	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	-
	30～39歳	24	54.2	33.3	8.3	33.3	-	29.2	-	20.8	8.3	8.3	8.3	8.3	-
	40～49歳	33	75.8	24.2	9.1	15.2	-	39.4	3.0	12.1	12.1	3.0	3.0	3.0	-
	50～59歳	23	73.9	17.4	39.1	21.7	4.3	34.8	4.3	17.4	8.7	4.3	-	-	-
	60～69歳	56	30.4	12.5	42.9	14.3	-	37.5	5.4	30.4	3.6	10.7	1.8	1.8	1.8
	70～79歳	26	30.8	3.8	61.5	11.5	-	26.9	-	19.2	7.7	-	11.5	11.5	-
	80歳以上	15	-	6.7	80.0	6.7	-	26.7	6.7	6.7	-	-	20.0	20.0	-
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

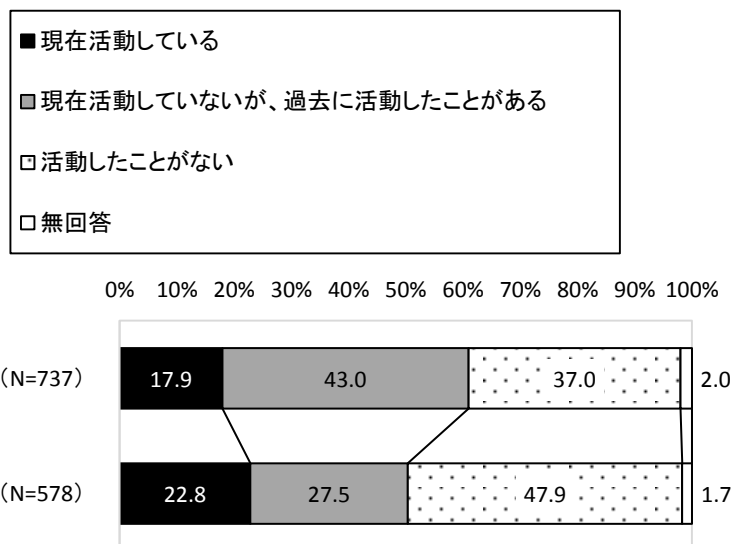
注) は全体よりも5ポイント以上低いもの、
 は全体よりも5ポイント以上高いものを示す

(3) 自治会やPTAなどの地域活動の参加状況

・自治会やPTAなどの地域活動の参加状況は、「現在活動していないが、過去に活動したことがある」(43.0%)の割合が最も高く、前回調査と比較すると約15ポイント上昇している。

問18 あなたは現在、自治会や子どもクラブ、PTAなどの地域活動をしていますか。(1つだけ○)

図表2-42 自治会やPTAなどの地域活動の参加状況



自治会やPTAなどの地域活動の参加状況は、「現在活動していないが、過去に活動したことがある」(43.0%)の割合が最も高く、以下「活動したことがない」(37.0%)、「現在活動している」(17.9%)となっている。前回調査と比較すると、「現在活動していないが、過去に活動したことがある」は約15ポイント上昇している。

年齢別にみると、39歳以下では「活動したことがない」の割合が高い。

居住地区別にみると、鳥栖地区では他の地区に比べて「活動したことがない」の割合が高い。

図表2-43 年齢別・居住地区別 自治会やPTAなどの地域活動の参加状況(%)

		調査数(人)	現在活動している	現在活動していないが、過去に活動したことがある	活動したことがない	無回答
全体		737	17.9	43.0	37.0	2.0
年齢別	16～29歳	50	4.0	26.0	70.0	-
	30～39歳	90	22.2	21.1	56.7	-
	40～49歳	118	27.1	34.7	37.3	0.8
	50～59歳	111	12.6	59.5	27.0	0.9
	60～69歳	196	17.9	51.0	29.6	1.5
	70～79歳	122	22.1	49.2	25.4	3.3
	80歳以上	47	4.3	34.0	51.1	10.6
	無回答	3	-	66.7	-	33.3
居住地区別	鳥栖地区	206	17.0	32.5	48.1	2.4
	鳥栖北地区	88	12.5	44.3	42.0	1.1
	田代地区	80	20.0	47.5	31.3	1.3
	弥生が丘地区	51	13.7	54.9	31.4	-
	若葉地区	48	25.0	39.6	31.3	4.2
	基里地区	79	19.0	46.8	31.6	2.5
	麓地区	70	24.3	50.0	24.3	1.4
	旭地区	107	17.8	47.7	32.7	1.9
	無回答	8	-	37.5	50.0	12.5

注) は全体よりも5ポイント以上低いもの、
 は全体よりも5ポイント以上高いものを示す

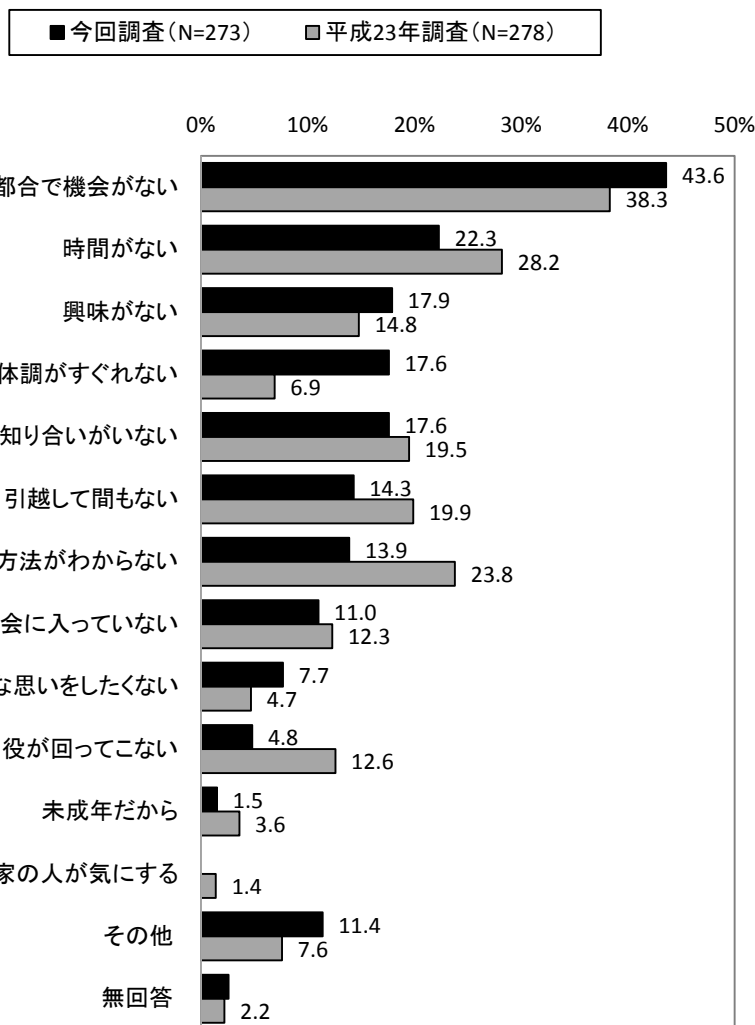
(4) 地域活動に参加していない理由

・地域活動に参加していない理由は、「勤務などの都合で機会がない」(43.6%)の割合が最も高い。前回調査と比較すると、「参加方法がわからない」は約10ポイント減少している。

問18で「3」を選んだ人だけにおたずねします。

問18-1 地域活動に参加していない理由はなんですか。(あてはまるものすべてに○)

図表2-44 地域活動に参加していない理由



地域活動に参加していない理由は、「勤務などの都合で機会がない」(43.6%)の割合が最も高く、次いで「時間がない」(22.3%)、「興味がない」(17.9%)、「体調がすぐれない」「知り合いがいない」(17.6%)となっている。前回調査と比較すると、「参加方法がわからない」は約10ポイント減少している。

年齢別にみると、40～59歳では他の年代に比べて「勤務などの都合で機会がない」の割合が高く、50～59歳では「時間がない」の割合も高くなっている。

図表2-45 年齢別 地域活動に参加していない理由(%)

	調査数 (人)	機会がない 勤務などの都合で	引越して間もない	参加方法がわからない	時間がない	興味がない	家の人が気にする	体調がすぐれない	知り合いがいない	くいやな思いをした	役が回ってこない	自治会に入っていない	未成年だから	その他	無回答	
全体	273	43.6	14.3	13.9	22.3	17.9	0.0	17.6	17.6	7.7	4.8	11.0	1.5	11.4	2.6	
年齢別	16～29歳	35	31.4	22.9	20.0	25.7	31.4	-	2.9	28.6	-	2.9	8.6	11.4	17.1	2.9
	30～39歳	51	45.1	27.5	21.6	19.6	21.6	-	3.9	25.5	5.9	13.7	11.8	-	7.8	-
	40～49歳	44	68.2	13.6	13.6	29.5	15.9	-	4.5	6.8	13.6	2.3	11.4	-	11.4	-
	50～59歳	30	70.0	13.3	3.3	43.3	6.7	-	16.7	26.7	6.7	3.3	16.7	-	10.0	3.3
	60～69歳	58	39.7	6.9	12.1	24.1	24.1	-	20.7	10.3	12.1	3.4	13.8	-	8.6	3.4
	70～79歳	31	29.0	9.7	16.1	6.5	12.9	-	35.5	19.4	9.7	-	6.5	-	3.2	6.5
	80歳以上	24	8.3	-	4.2	-	-	-	62.5	8.3	-	4.2	4.2	-	29.2	4.2
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

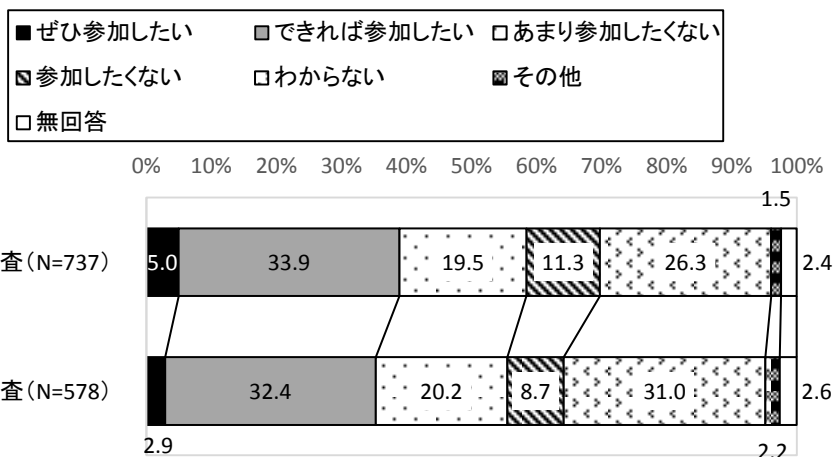
注) は全体よりも5ポイント以上低いもの、
 は全体よりも5ポイント以上高いものを示す

(5) 「まちづくり」についての話し合いへの参加意向

・「まちづくり」についての話し合いへの参加意向は、「できれば参加したい」(33.9%)の割合が最も高い。

問19 地域において「まちづくり」について話し合う場を開催した場合、参加したいと思いますか。
(1つだけ○)

図表2-46 「まちづくり」についての話し合いへの参加意向



「まちづくり」についての話し合いへの参加意向は、「できれば参加したい」(33.9%)の割合が最も高く、以下「あまり参加したくない」(19.5%)、「参加したくない」(11.3%)、「ぜひ参加したい」(5.0%)となっている。また、前回調査と比較しても、概ね同様の結果を示している。

年齢別にみると、16～29歳、40～49歳では他の年代に比べて「できれば参加したい」の割合が低い。

図表2-47 年齢別 「まちづくり」についての話し合いへの参加意向（％）

		調査数 (人)	ぜひ 参加 したい	い でき れば 参加 した	な あ ま り 参 加 し た く	参 加 し た く な い	わ か ら な い	そ の 他	無 回 答
全体		737	5.0	33.9	19.5	11.3	26.3	1.5	2.4
年 齢 別	16～29歳	50	2.0	18.0	14.0	14.0	50.0	2.0	-
	30～39歳	90	2.2	26.7	21.1	17.8	31.1	-	1.1
	40～49歳	118	2.5	23.7	26.3	11.0	33.1	1.7	1.7
	50～59歳	111	6.3	34.2	19.8	7.2	30.6	-	1.8
	60～69歳	196	6.6	35.2	19.4	11.7	22.4	1.5	3.1
	70～79歳	122	6.6	57.4	11.5	6.6	13.1	2.5	2.5
	80歳以上	47	6.4	23.4	23.4	17.0	17.0	4.3	8.5
	無回答	3	-	33.3	66.7	-	-	-	-

注) は全体よりも5ポイント以上低いもの、

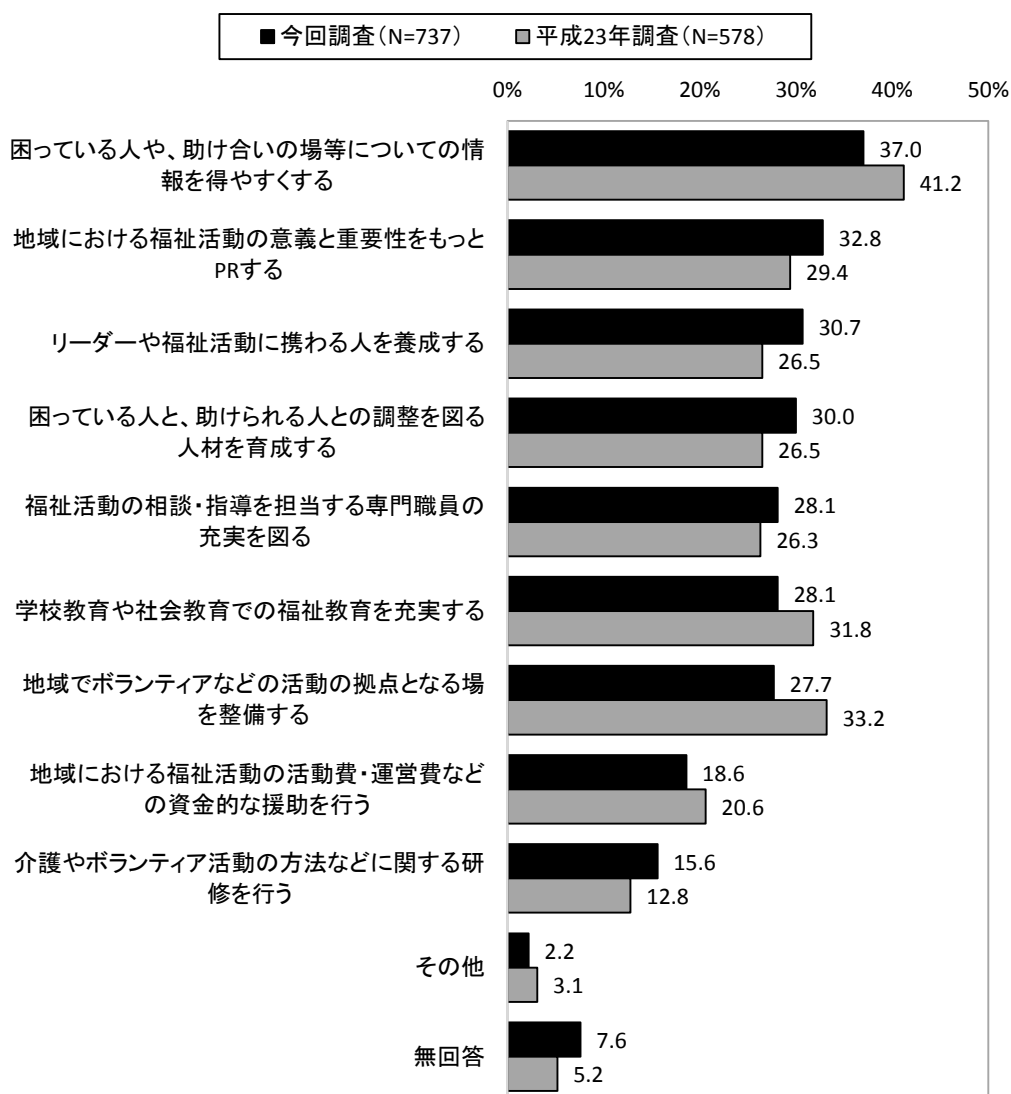
 は全体よりも5ポイント以上高いものを示す

(6) 地域の助け合い活動等を活発にするために重要なこと

・地域の助け合い活動等を活発にするために重要なことは、「困っている人や、助け合いの場等についての情報を得やすくする」(37.0%)の割合が最も高い。前回調査と比較すると、「地域における福祉活動の意義と重要性をもっとPRする」「リーダーや福祉活動に携わる人を養成する」は約3~4ポイント上昇し、2・3番目に高い割合を示している。

問20 地域における助け合い、支え合い活動を活発にするためには、どのようなことが重要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

図表2-48 地域の助け合い活動等を活発にするために重要なこと



地域の助け合い活動等を活発にするために重要なことは、「困っている人や、助け合いの場等についての情報を得やすくする」(37.0%)の割合が最も高く、次いで「地域における福祉活動の意義と重要性をもっとPRする」(32.8%)、「リーダーや福祉活動に携わる人を養成する」(30.7%)、「困っている人、助けられる人との調整を図る人材を育成する」(30.0%)となっている。

また、前回調査と比較すると、前回2・3番目に割合の高かった「地域でボランティアなどの活動の

第3章. 地域福祉計画・地域福祉活動計画に関する調査結果

拠点となる場を整備する」「学校教育や社会教育での福祉教育を充実する」は約3～6ポイント減少している。一方で「地域における福祉活動の意義と重要性をもっとPRする」「リーダーや福祉活動に携わる人を養成する」は約3～4ポイント上昇し、今回調査では2・3番目に高い割合を示している。

年齢別にみると、16～29歳では他の年代に比べて「学校教育や社会教育での福祉教育を充実する」の割合が高く、40～49歳では「福祉活動の相談・指導を担当する専門職員の充実を図る」、50～59歳では「困っている人、助けられる人との調整を図る人材を育成する」の割合が高くなっている。

図表2-49 年齢別 地域の助け合い活動等を活発にするために重要なこと（%）

	調査数（人）	義地	活地	な動地	るリ	る当	育困	やの	う介	社学	そ	無	
		域と重	動の	費に	リー	当活	る困	やの	う介	社学	そ	無	
全体	737	32.8	27.7	18.6	30.7	28.1	30.0	37.0	15.6	28.1	2.2	7.6	
年齢別	16～29歳	50	26.0	34.0	24.0	26.0	30.0	46.0	12.0	44.0	2.0	4.0	
	30～39歳	90	26.7	30.0	15.6	15.6	26.7	26.7	40.0	14.4	-	3.3	
	40～49歳	118	31.4	26.3	23.7	31.4	36.4	35.6	37.3	15.3	4.2	3.4	
	50～59歳	111	38.7	35.1	23.4	36.0	34.2	41.4	19.8	36.0	-	3.6	
	60～69歳	196	34.7	27.0	15.8	33.2	25.0	26.5	34.7	15.8	22.4	2.0	7.7
	70～79歳	122	34.4	22.1	16.4	37.7	27.9	24.6	32.0	17.2	20.5	3.3	13.1
	80歳以上	47	31.9	21.3	12.8	23.4	12.8	21.3	31.9	8.5	17.0	4.3	23.4
無回答	3	-	-	-	-	-	66.7	66.7	-	33.3	-	33.3	

注) は全体よりも5ポイント以上低いもの、
 は全体よりも5ポイント以上高いものを示す

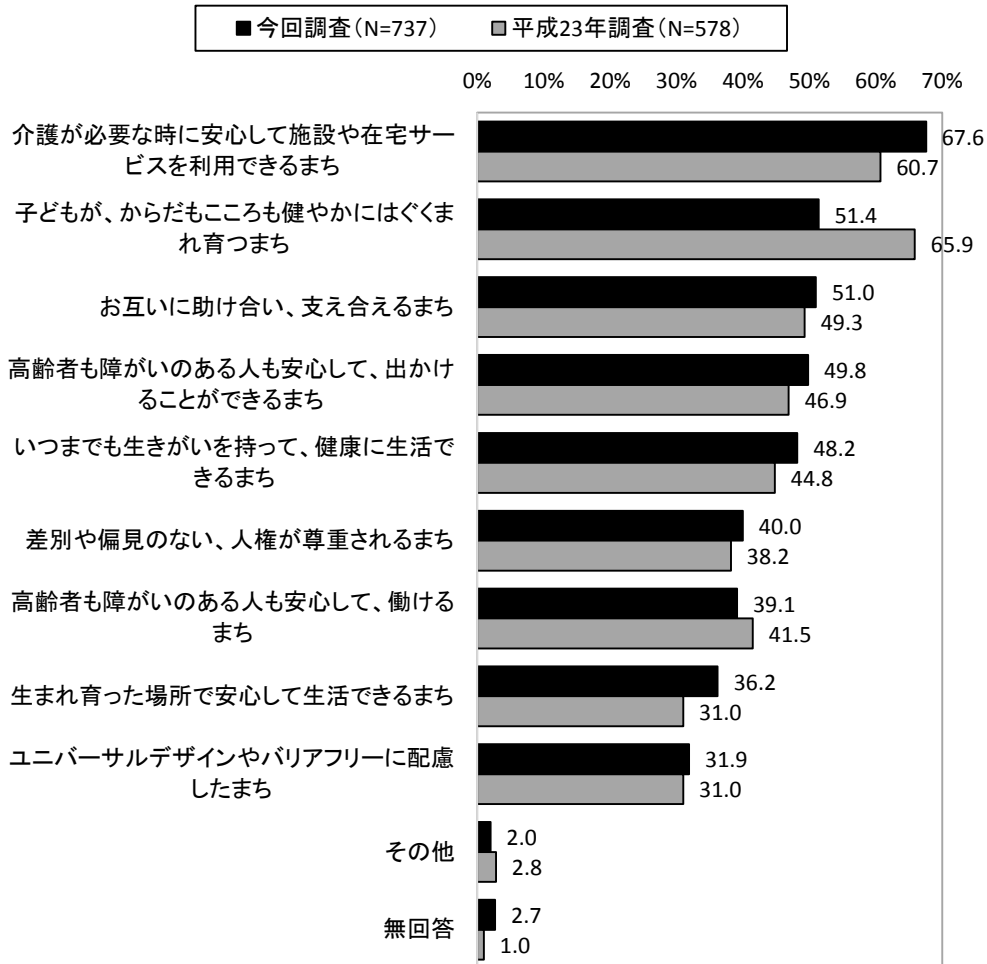
5. これからの鳥栖市の福祉のあり方

(1) 福祉のまちとして望むこと

・福祉のまちとして望むことは、「介護が必要な時に安心して施設や住宅サービスを利用できるまち」(67.6%)の割合が最も高い。前回調査と比較すると、「子どもが、からだも心も健やかにはぐくまれ育つまち」は約15ポイント減少している。

問21 あなたは鳥栖市をどのような福祉のまちにしたいですか。(あてはまるものすべてに○)

図表2-50 福祉のまちとして望むこと



福祉のまちとして望むことは、「介護が必要な時に安心して施設や住宅サービスを利用できるまち」(67.6%)の割合が最も高く、次いで「子どもが、からだも心も健やかにはぐくまれ育つまち」(51.4%)、「お互いに助け合い、支え合えるまち」(51.0%)、「高齢者も障がいのある人も安心して、出かけることができるまち」(49.8%)となっている。前回調査と比較すると、「子どもが、からだも心も健やかにはぐくまれ育つまち」は約15ポイント減少している。

年齢別にみると、16～29歳と40～49歳では他の年代に比べて「ユニバーサルデザインやバリアフリーに配慮したまち」の割合が高く、16～29歳では「生まれ育った場所で安心して生活できるまち」の割

第3章 地域福祉計画・地域福祉活動計画に関する調査結果

合も高くなっている。また、30～49歳では他の年代に比べて「子どもが、からだもこころも健やかにはぐくまれ育つまち」の割合が高い。60～69歳では他の年代に比べて「いつまでも生きがいを持って、健康に生活できるまち」の割合が高く、70～79歳では「お互いに助け合い、支え合えるまち」の割合が高くなっている。

家族構成別にみると、二世帯世帯（親と子）では他の家族構成に比べて「子どもが、からだもこころも健やかにはぐくまれ育つまち」や「生まれ育った場所で安心して生活できるまち」の割合が高くなっている。

図表2-51 年齢別・家族構成別 福祉のまちとして望むこと（％）

	調査数（人）	えお	権差	しや	ユニ	まこ	子ど	ま	高	人	高	心	生	ス	介	き	持	い	つ	ま	そ	無
		合え	が別	やバ	ニ	れ	も	ち	も	も	も	も	生	し	を	護	る	つ	つ	ま	の	回
		い	や偏	リ	ま	も	が	も	も	も	も	ま	ま	を	が	ま	ま	ま	ま	ま	た	答
		る	見の	アル	チ	か	か	障	障	障	障	生	生	宅	な	ち	ち	ち	ち	ち	ち	
		ま	ない、	デー	に	ら	ら	が	が	が	が	が	が	サ	時	に	に	に	に	に	に	
		け	まい、	にザ	配	は	は	い	い	い	い	い	い	ア	安	安	安	安	安	安	安	
		合	人	イ	ン	だ	だ	働	働	働	働	働	働	ビ	心	心	心	心	心	心	心	
		い		合		も	も	の	の	の	の	の	の	ン	ビ	ビ	ビ	ビ	ビ	ビ	ビ	
		ま		け		こ	こ	あ	あ	あ	あ	あ	あ	ン	ン	ン	ン	ン	ン	ン	ン	
		支		え		く	く	る	る	る	る	る	る	ン	ン	ン	ン	ン	ン	ン	ン	
全体	737	51.0	40.0	31.9	51.4	39.1	49.8	36.2	67.6	48.2	2.0	2.7										
年齢別	16～29歳	50	52.0	38.0	52.0	54.0	34.0	50.0	48.0	36.0	6.0	2.0										
	30～39歳	90	41.1	41.1	36.7	65.6	43.3	41.1	58.9	43.3	2.2	-										
	40～49歳	118	48.3	44.1	44.9	61.9	40.7	50.8	67.8	40.7	2.5	0.8										
	50～59歳	111	48.6	43.2	30.6	49.5	45.0	54.1	74.8	44.1	-	1.8										
	60～69歳	196	50.5	41.8	27.0	44.4	40.8	51.0	70.4	57.7	2.6	3.6										
	70～79歳	122	63.1	33.6	20.5	42.6	32.0	48.4	68.9	52.5	0.8	4.9										
	80歳以上	47	55.3	31.9	21.3	55.3	29.8	55.3	74.5	48.9	2.1	4.3										
	無回答	3	-	33.3	33.3	-	33.3	-	-	33.3	33.3	-	33.3									
家族構成別	単身（ひとり暮らし）	131	53.4	39.7	29.0	45.8	30.5	46.6	61.1	48.1	3.1	3.1										
	夫婦のみ	195	51.8	36.4	24.6	43.1	39.0	48.2	69.7	54.4	2.1	3.6										
	二世帯世帯（親と子）	307	52.1	42.0	36.2	58.0	43.0	53.4	68.7	45.0	1.3	1.6										
	三世帯世帯（親と子と孫）	61	45.9	41.0	39.3	55.7	41.0	49.2	75.4	42.6	1.6	1.6										
	その他	36	44.4	41.7	36.1	61.1	36.1	47.2	61.1	52.8	5.6	5.6										
	無回答	7	14.3	42.9	14.3	14.3	28.6	14.3	42.9	42.9	42.9	-	14.3									

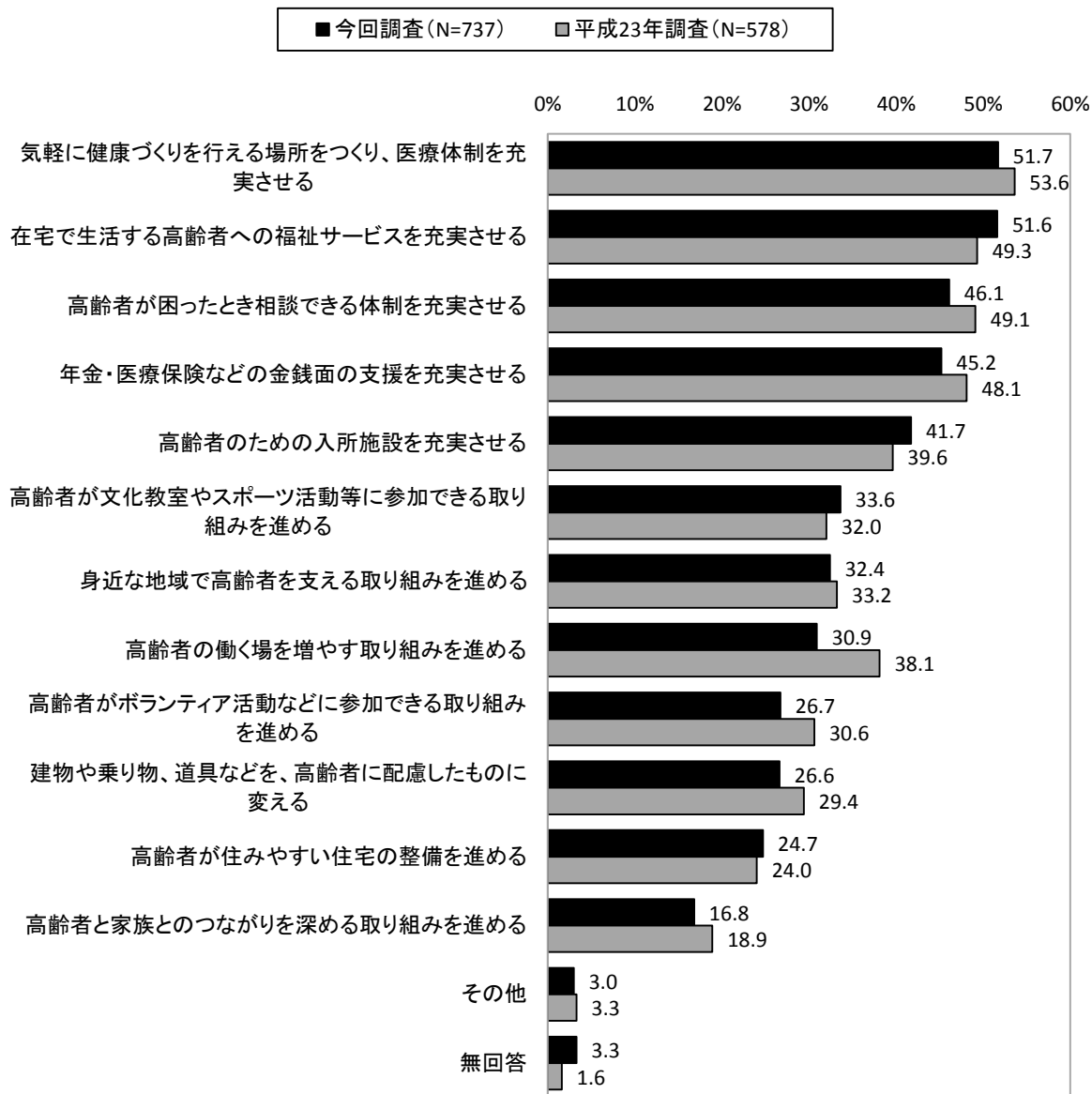
注) は全体よりも5ポイント以上低いもの、
 は全体よりも5ポイント以上高いものを示す

(2) 高齢者が住みよいまちをつくるために重要なこと

・高齢者が住みよいまちをつくるために重要なことは、「気軽に健康づくりを行える場所をつくり、医療体制を充実させる」(51.7%)の割合が最も高い。

問2 2 高齢者が住みよいまちをつくるために、今後、鳥栖市においてはどのようなことが重要だと考えますか。(あてはまるものすべてに○)

図表2-52 高齢者が住みよいまちをつくるために重要なこと



高齢者が住みよいまちをつくるために重要なことは、「気軽に健康づくりを行える場所をつくり、医療体制を充実させる」(51.7%)の割合が最も高く、次いで「在宅で生活する高齢者への福祉サービスを充実させる」(51.6%)、「高齢者が困ったとき相談できる体制を充実させる」(46.1%)、「年金・医療保険などの金銭面の支援を充実させる」(45.2%)となっている。また、前回調査と比較しても、概ね同様の結果を示している。

第3章 地域福祉計画・地域福祉活動計画に関する調査結果

年齢別にみると、30～39歳では他の年代に比べて「高齢者が困ったとき相談できる体制を充実させる」や「高齢者と家族とのつながりを深める取り組みを進める」の割合が高い。

40～49歳では他の年代に比べて「高齢者の働く場を増やす取り組みを進める」の割合が高く、50～59歳では「在宅で生活する高齢者への福祉サービスを充実させる」、70～79歳では「身近な地域で高齢者を支える取り組みを進める」の割合が高くなっている。

居住地区別にみると、鳥栖地区では他の地区に比べて「高齢者が住みやすい住宅の整備を進める」の割合が高く、弥生が丘地区では「在宅で生活する高齢者への福祉サービスを充実させる」の割合が高くなっている。若葉地区では他の地区に比べて「気軽に健康づくりを行える場所をつくり、医療体制を充実させる」や「高齢者が文化教室やスポーツ活動に参加できる取り組みを進める」の割合が高い。

図表2-53 年齢別・居住地区別 高齢者が住みよいまちをつくるために重要なこと(%)

	調査数(人)	充実させる	気軽に健康づくりに取り組む	在宅で生活する高齢者への福祉サービスを充実させる	高齢者が住みやすい住宅の整備を進める	在宅で生活する高齢者への福祉サービスを充実させる	高齢者の働く場を増やす取り組みを進める	高齢者がボランティア活動に参加できる取り組みを進める	高齢者が文化教室やスポーツ活動に参加できる取り組みを進める	年金・医療保険などの面	高齢者が困ったとき相談できる体制を充実させる	高齢者と家族とのつながりを深める	身近な地域で高齢者を支える	その他	無回答	
		51.7	26.6	24.7	51.6	41.7	30.9	26.7	33.6	45.2	46.1	16.8	32.4	3.0	3.3	
全体	737	51.7	26.6	24.7	51.6	41.7	30.9	26.7	33.6	45.2	46.1	16.8	32.4	3.0	3.3	
年齢別	16～29歳	50	48.0	38.0	26.0	56.0	36.0	38.0	26.0	32.0	48.0	50.0	16.0	36.0	8.0	2.0
	30～39歳	90	53.3	32.2	25.6	48.9	34.4	35.6	26.7	41.1	46.7	56.7	26.7	30.0	1.1	1.1
	40～49歳	118	53.4	29.7	27.1	54.2	39.8	39.8	33.1	28.8	46.6	47.5	20.3	22.9	6.8	0.8
	50～59歳	111	52.3	27.0	32.4	61.3	47.7	36.9	25.2	29.7	53.2	50.5	18.9	28.8	2.7	0.9
	60～69歳	196	54.6	26.5	23.5	49.0	42.9	31.6	26.0	34.2	46.9	41.8	12.2	34.7	1.5	3.6
	70～79歳	122	47.5	15.6	20.5	45.1	41.0	19.7	28.7	40.2	39.3	42.6	14.8	41.8	1.6	7.4
	80歳以上	47	48.9	25.5	14.9	51.1	51.1	4.3	12.8	21.3	25.5	36.2	10.6	31.9	2.1	8.5
無回答	3	-	-	-	33.3	-	33.3	33.3	66.7	33.3	33.3	-	33.3	-	-	
居住地区別	鳥栖地区	206	48.1	31.1	31.1	46.6	41.3	30.6	26.2	29.6	48.1	43.7	17.0	30.6	5.8	2.9
	鳥栖北地区	88	51.1	28.4	21.6	51.1	47.7	37.5	34.1	36.4	40.9	46.6	18.2	29.5	5.7	-
	田代地区	80	53.8	20.0	27.5	52.5	40.0	22.5	18.8	31.3	45.0	47.5	13.8	32.5	1.3	3.8
	弥生が丘地区	51	60.8	19.6	21.6	70.6	43.1	41.2	35.3	45.1	41.2	56.9	13.7	25.5	-	3.9
	若葉地区	48	66.7	22.9	25.0	54.2	41.7	22.9	29.2	50.0	45.8	52.1	16.7	35.4	-	-
	基里地区	79	49.4	17.7	12.7	50.6	39.2	21.5	19.0	31.6	39.2	35.4	16.5	35.4	1.3	7.6
	麓地区	70	51.4	34.3	21.4	54.3	44.3	40.0	31.4	27.1	45.7	48.6	21.4	41.4	2.9	2.9
	旭地区	107	51.4	29.0	27.1	52.3	40.2	31.8	26.2	33.6	50.5	49.5	17.8	33.6	-	3.7
無回答	8	12.5	12.5	-	12.5	12.5	37.5	12.5	37.5	25.0	25.0	-	12.5	12.5	12.5	

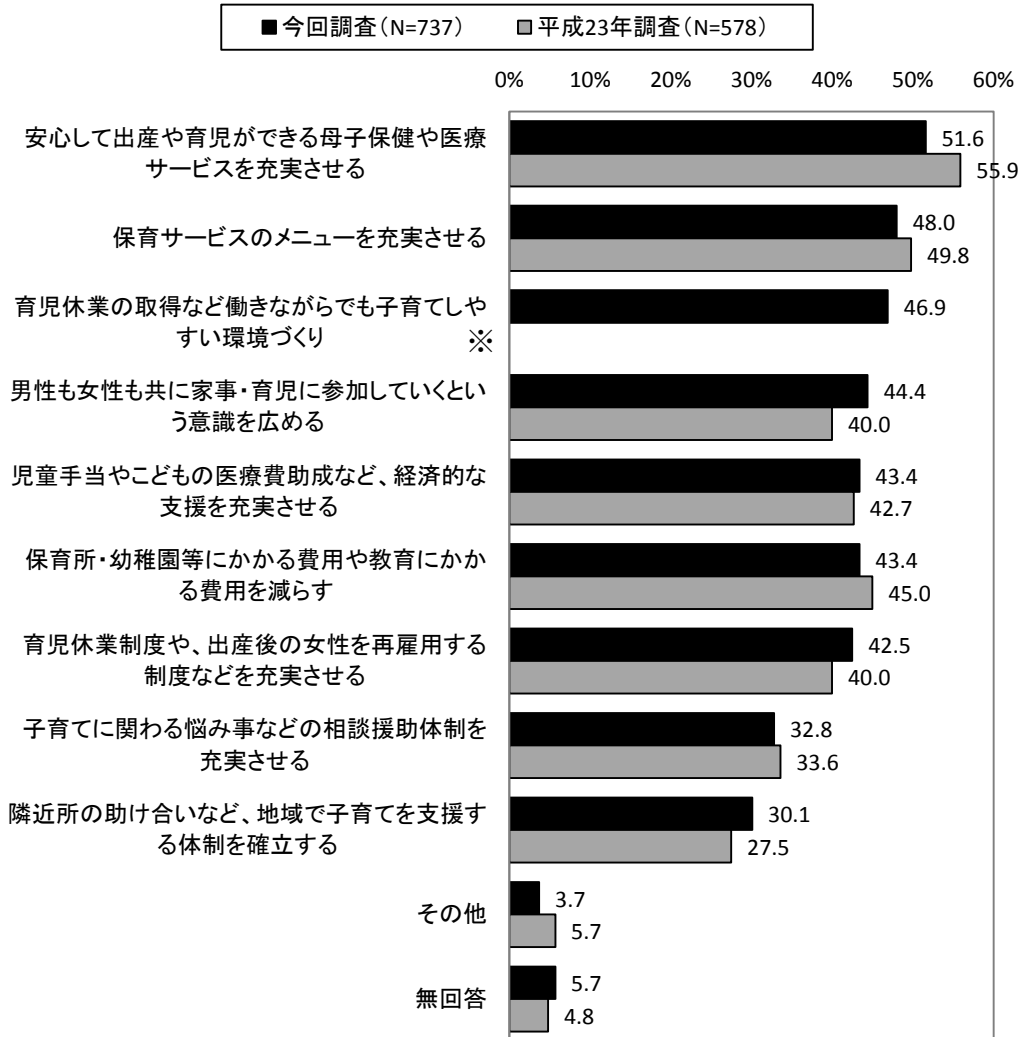
注) は全体よりも5ポイント以上低いもの、
 は全体よりも5ポイント以上高いものを示す

(3) 子どもが健やかに育つために重要なこと

・子どもが健やかに育つために鳥栖市において重要なことは、「安心して出産や育児ができる母子保健や医療サービスを充実させる」(51.6%)の割合が最も高い。

問23 子どもがいきいきと健やかに育つために、今後、鳥栖市においてはどのようなことが重要だと考えますか。(あてはまるものすべてに○)

図表2-54 子どもが健やかに育つために重要なこと



※「育児休業の取得など働きながらも子育てしやすい環境づくり」は、今回調査からの選択肢

子どもが健やかに育つために鳥栖市において重要なことは、「安心して出産や育児ができる母子保健や医療サービスを充実させる」(51.6%)の割合が最も高く、次いで「保育サービスのメニューを充実させる」(48.0%)、「育児休業の取得など働きながらも子育てしやすい環境づくり」(46.9%)となっている。また、前回調査と比較しても、概ね同様の結果を示している。

年齢別にみると、30～39歳では他の年代に比べて「安心して出産や育児ができる母子保健や医療サービスを充実させる」や「育児休業の取得など働きながらも子育てしやすい環境づくり」「保育所・幼稚園等にかかる費用や教育にかかる費用を減らす」などの割合が高くなっている。

第3章. 地域福祉計画・地域福祉活動計画に関する調査結果

居住地区別にみると、鳥栖北地区では他の地区に比べて「保育所・幼稚園等にかかる費用や教育にかかる費用を減らす」の割合が高く、田代地区では「安心して出産や育児ができる母子保健や医療サービスを充実させる」の割合が高くなっている。

図表2-55 年齢別・居住地区別 子どもが健やかに育つために重要なこと（％）

	調査数（人）	めい事男	さ医が安	ニ保	りて働	さす産	せ	済	医療	かか	保	制事	す支	隣	そ	無
		るく・性	せ療で心	ユ育	しき育	る後児	るの休	的な費	療童	かか	育	をな	をな	す支	り、近	他
		うに性	さ療で心	ーサ	やな休	るの休	な支	費助	童当	かか	育	をな	す支	り、近	他	回
		意参加	さ療で心	をーサ	すが業	るの休	な支	助や	や	かか	育	をな	す支	り、近	他	回
		を共	さ療で心	をーサ	いらの	るの休	な支	や	こ	かか	育	をな	す支	り、近	他	回
		しに家	さ療で心	をーサ	環境も	るの休	な支	こ	ど	かか	育	をな	す支	り、近	他	回
		を広	さ療で心	をーサ	づく育	るの休	な支	ど	経	かか	育	をな	す支	り、近	他	回
全体	737	44.4	51.6	48.0	46.9	42.5	43.4	43.4	32.8	30.1	3.7	5.7				
年齢別	16～29歳	50	54.0	52.0	50.0	56.0	50.0	40.0	46.0	40.0	28.0	8.0	2.0			
	30～39歳	90	54.4	70.0	63.3	67.8	53.3	56.7	64.4	27.8	23.3	4.4	1.1			
	40～49歳	118	44.1	50.8	55.1	41.5	44.1	50.8	43.2	28.0	22.9	4.2	2.5			
	50～59歳	111	37.8	58.6	50.5	46.8	45.9	40.5	48.6	41.4	28.8	-	2.7			
	60～69歳	196	41.3	51.5	48.5	50.5	40.8	45.4	39.3	36.7	35.2	4.6	5.1			
	70～79歳	122	43.4	36.1	34.4	30.3	33.6	33.6	33.6	26.2	36.9	3.3	13.1			
	80歳以上	47	44.7	44.7	27.7	42.6	29.8	27.7	31.9	29.8	29.8	2.1	17.0			
	無回答	3	66.7	-	33.3	-	66.7	33.3	33.3	-	-	-	-			
居住地区別	鳥栖地区	206	47.1	50.5	46.6	49.5	40.8	44.2	40.8	33.0	26.7	5.8	4.9			
	鳥栖北地区	88	45.5	59.1	56.8	46.6	40.9	51.1	56.8	40.9	35.2	5.7	1.1			
	田代地区	80	45.0	63.8	46.3	41.3	46.3	43.8	45.0	32.5	32.5	1.3	6.3			
	弥生が丘地区	51	39.2	56.9	49.0	51.0	49.0	37.3	43.1	43.1	25.5	3.9	5.9			
	若葉地区	48	54.2	52.1	56.3	52.1	41.7	39.6	45.8	31.3	31.3	2.1	4.2			
	基里地区	79	44.3	44.3	35.4	39.2	34.2	35.4	30.4	25.3	34.2	3.8	12.7			
	麓地区	70	45.7	52.9	48.6	45.7	47.1	48.6	48.6	34.3	34.3	1.4	5.7			
	旭地区	107	36.4	43.9	51.4	48.6	43.9	43.9	43.0	26.2	29.0	1.9	6.5			
	無回答	8	25.0	-	25.0	50.0	50.0	25.0	25.0	37.5	-	-	-			

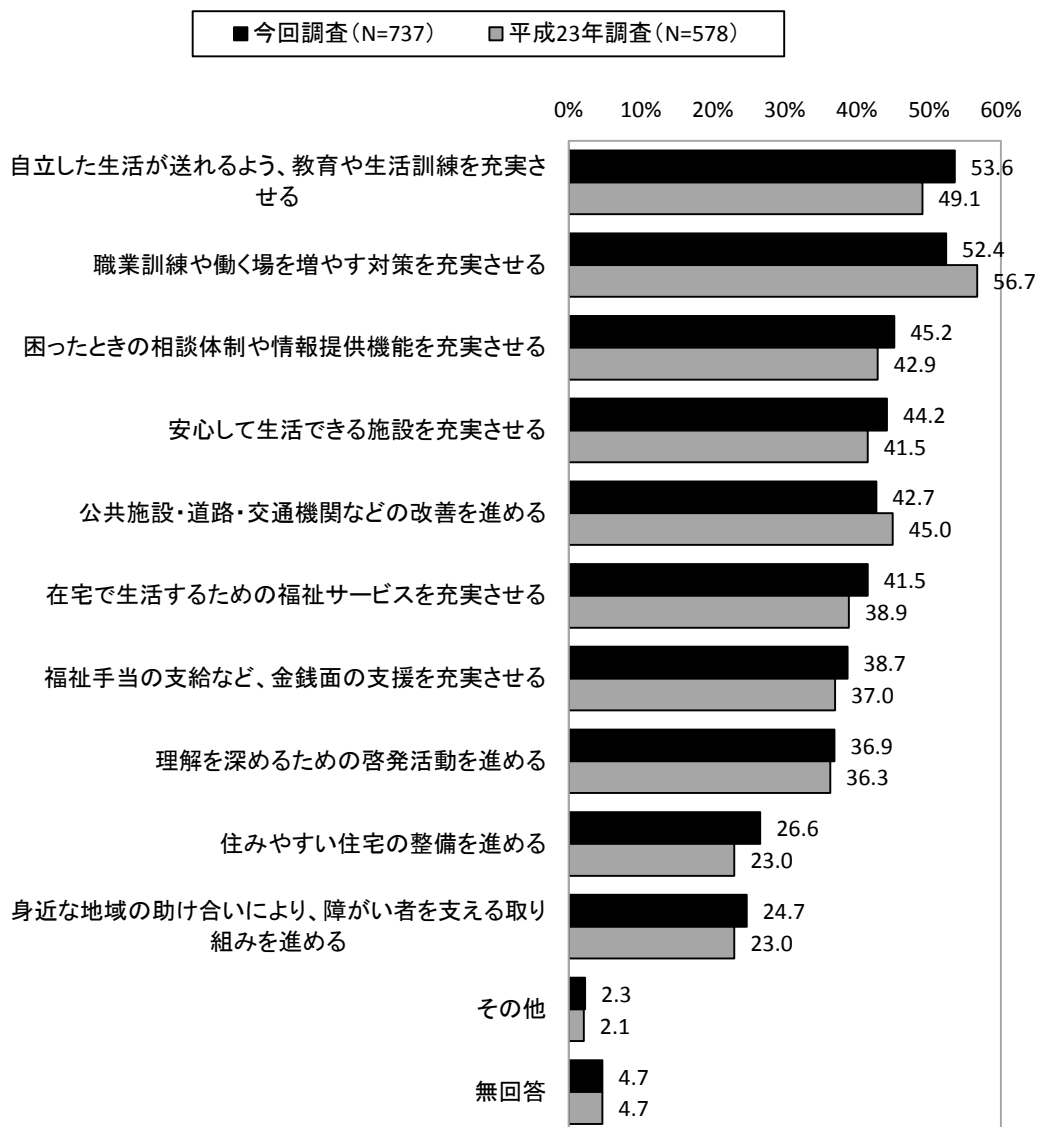
注) は全体よりも5ポイント以上低いもの、
 は全体よりも5ポイント以上高いものを示す

(4) 障がいのある人が住みよいまちをつくるために重要なこと

・障がいのある人が住みよいまちをつくるために重要なことは、「自立した生活が送れるよう、教育や生活訓練を充実させる」(53.6%)の割合が最も高い。

問24 障がいのある人が住みよいまちをつくるために、今後、鳥栖市においてはどのような取り組みが重要だと考えますか。(あてはまるものすべてに○)

図表2-56 障がいのある人が住みよいまちをつくるために重要なこと



障がいのある人が住みよいまちをつくるために重要なことは、「自立した生活が送れるよう、教育や生活訓練を充実させる」(53.6%)の割合が最も高く、次いで「職業訓練や働く場を増やす対策を充実させる」(52.4%)、「困ったときの相談体制や情報提供機能を充実させる」(45.2%)、「安心して生活できる施設を充実させる」(44.2%)となっている。また、前回調査と比較しても、概ね同様の結果を示している。

第3章. 地域福祉計画・地域福祉活動計画に関する調査結果

居住地区別にみると、鳥栖北地区では他の地区に比べて「公共施設・道路・交通機関などの改善を進める」の割合が高く、弥生が丘地区では「在宅で生活するための福祉サービスを充実させる」、若葉地区では「自立した生活が送れるよう、教育や生活訓練を充実させる」の割合が高くなっている。

図表2-57 居住地区別 障がいのある人が住みよいまちをつくるために重要なこと(%)

居住地区別	調査数(人)	をよ	自	や	職	る	機	公	発	理	設	安	せ	福	在	せ	金	福	を	を	困	え	に	身	そ	無
		充	立	業	業	機	公	機	公	活	解	を	心	を	福	在	せ	金	福	を	を	困	え	に	身	そ
全体	737	53.6	52.4	42.7	36.9	44.2	41.5	38.7	26.6	45.2	24.7	2.3	4.7													
鳥栖地区	206	55.3	50.0	37.9	35.9	42.7	39.3	42.2	29.1	44.2	26.2	3.9	4.9													
鳥栖北地区	88	63.6	62.5	59.1	45.5	46.6	43.2	44.3	34.1	48.9	30.7	4.5	2.3													
田代地区	80	55.0	51.3	46.3	33.8	50.0	42.5	35.0	26.3	48.8	25.0	1.3	5.0													
弥生が丘地区	51	52.9	62.7	35.3	35.3	43.1	58.8	35.3	21.6	54.9	19.6	-	2.0													
若葉地区	48	70.8	56.3	41.7	43.8	41.7	47.9	39.6	27.1	47.9	22.9	-	6.3													
基里地区	79	38.0	43.0	40.5	29.1	36.7	31.6	27.8	21.5	34.2	22.8	1.3	8.9													
麓地区	70	54.3	54.3	44.3	44.3	48.6	50.0	42.9	22.9	45.7	25.7	2.9	2.9													
旭地区	107	44.9	48.6	42.1	35.5	46.7	34.6	38.3	24.3	43.0	22.4	0.9	5.6													
無回答	8	50.0	50.0	25.0	-	25.0	37.5	12.5	25.0	50.0	-	-	-													

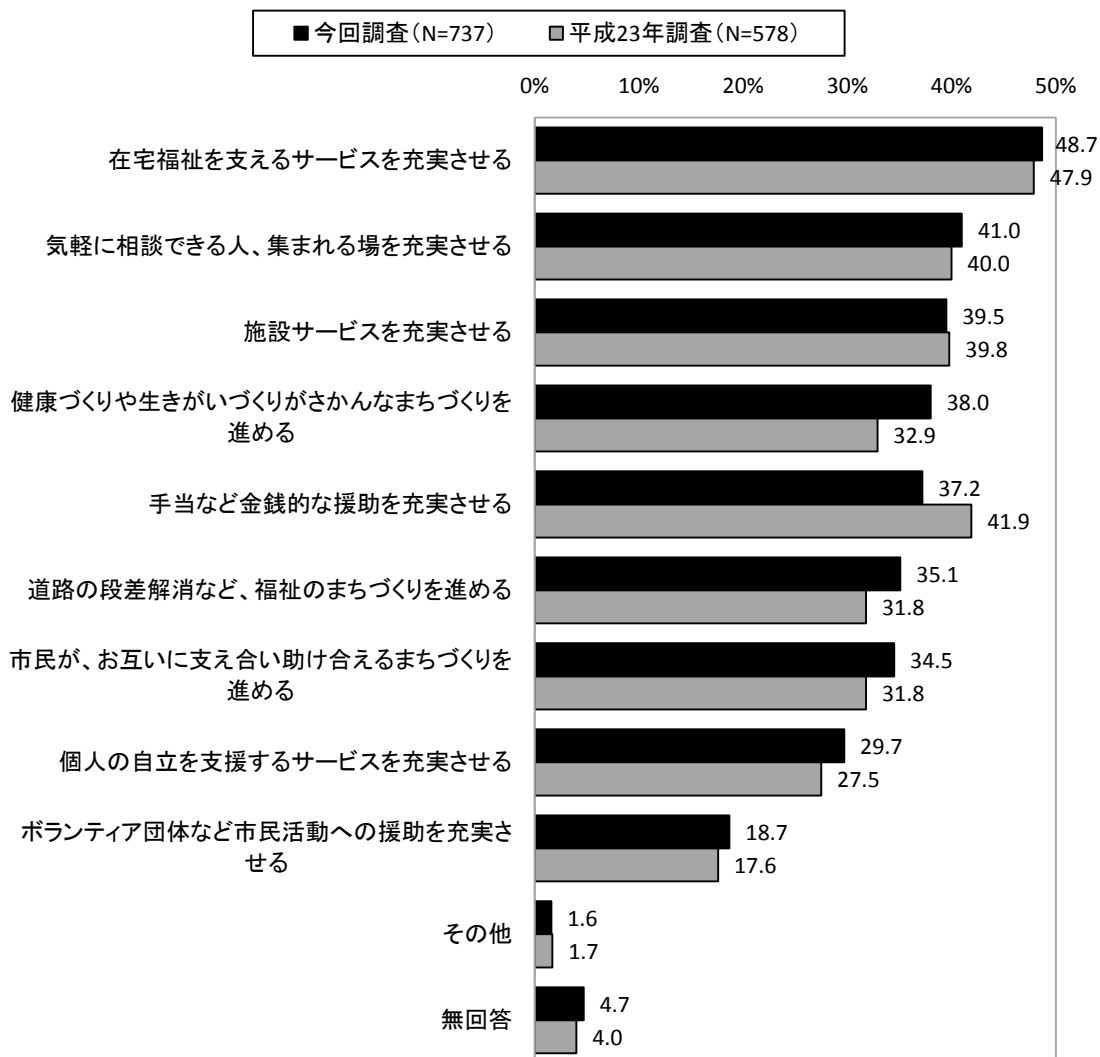
注) は全体よりも5ポイント以上低いもの、
 は全体よりも5ポイント以上高いものを示す

(5) 住み慣れた地域で安心して暮らすための福祉のあり方

・住み慣れた地域で安心して暮らすための福祉のあり方は、「在宅福祉を支えるサービスを充実させる」(48.7%)の割合が最も高い。

問25 住み慣れた地域で、安心して暮らしていくためには、どのような福祉のあり方が大切だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

図表2-58 住み慣れた地域で安心して暮らすための福祉のあり方



住み慣れた地域で安心して暮らすための福祉のあり方は、「在宅福祉を支えるサービスを充実させる」(48.7%)の割合が最も高く、次いで「気軽に相談できる人、集まれる場を充実させる」(41.0%)、「施設サービスを充実させる」(39.5%)、「手当など金銭的な援助を充実させる」(37.2%)となっている。また、前回調査と比較しても、概ね同様の結果を示している。

年齢別にみると、39歳以下では他の年代に比べて「手当など金銭的な援助を充実させる」の割合が高くなっている。

居住地区別にみると、鳥栖北地区では他の地区に比べて「道路の段差解消など、福祉のまちづくりを

第3章. 地域福祉計画・地域福祉活動計画に関する調査結果

進める」や「個人の自立を支援するサービスを充実させる」の割合が高い。田代地区では他の地区に比べて「市民が、お互いに支え合い助け合えるまちづくりを進める」の割合が高く、弥生が丘地区では「健康づくりや生きがいくくりがさかんなまちづくりを進める」の割合が高くなっている。

図表2-59 年齢別・居住地区別 住み慣れた地域で安心して暮らすための福祉のあり方 (%)

	調査数(人)	在宅福祉を支えるサービス	施設サービスを充実させる	手当など金銭的な援助を充実させる	福祉のまちづくりを推進する	個人の自立を支援させる	市民活動への援助を充実させる	ボランティア活動への援助を充実させる	気軽に相談できる人、集まれる場を充実させる	健康づくりや生きがいを進める	市民が、お互いに支え合い助け合えるまちづくりを進める	その他	無回答
全体	737	48.7	39.5	37.2	35.1	29.7	18.7	41.0	38.0	34.5	1.6	4.7	
年齢別	16～29歳	50	38.0	36.0	58.0	40.0	34.0	24.0	48.0	38.0	36.0	4.0	2.0
	30～39歳	90	41.1	43.3	48.9	40.0	23.3	14.4	44.4	36.7	33.3	-	2.2
	40～49歳	118	42.4	44.1	39.0	35.6	34.7	23.7	41.5	33.9	27.1	1.7	1.7
	50～59歳	111	52.3	46.8	39.6	28.8	28.8	17.1	40.5	34.2	32.4	0.9	4.5
	60～69歳	196	54.1	37.8	31.1	35.2	32.1	19.4	40.3	43.9	35.7	1.5	3.1
	70～79歳	122	53.3	33.6	32.0	32.8	25.4	15.6	37.7	41.8	40.2	1.6	9.8
	80歳以上	47	48.9	31.9	21.3	42.6	29.8	19.1	38.3	25.5	40.4	4.3	12.8
無回答	3	33.3	-	33.3	-	-	-	33.3	33.3	-	-	-	33.3
居住地区別	鳥栖地区	206	43.7	37.4	39.8	35.4	31.1	18.9	42.2	35.4	34.0	2.9	5.3
	鳥栖北地区	88	58.0	43.2	44.3	45.5	39.8	22.7	44.3	39.8	33.0	3.4	2.3
	田代地区	80	47.5	43.8	31.3	33.8	25.0	15.0	43.8	41.3	45.0	-	2.5
	弥生が丘地区	51	52.9	41.2	19.6	33.3	17.6	27.5	47.1	56.9	35.3	2.0	2.0
	若葉地区	48	58.3	43.8	37.5	37.5	41.7	27.1	39.6	41.7	31.3	2.1	4.2
	基里地区	79	50.6	31.6	30.4	29.1	21.5	11.4	35.4	34.2	34.2	1.3	7.6
	麓地区	70	52.9	48.6	41.4	35.7	31.4	25.7	40.0	37.1	40.0	-	4.3
	旭地区	107	43.0	37.4	42.1	32.7	27.1	11.2	35.5	33.6	27.1	-	6.5
無回答	8	25.0	-	25.0	12.5	37.5	12.5	50.0	12.5	25.0	-	12.5	

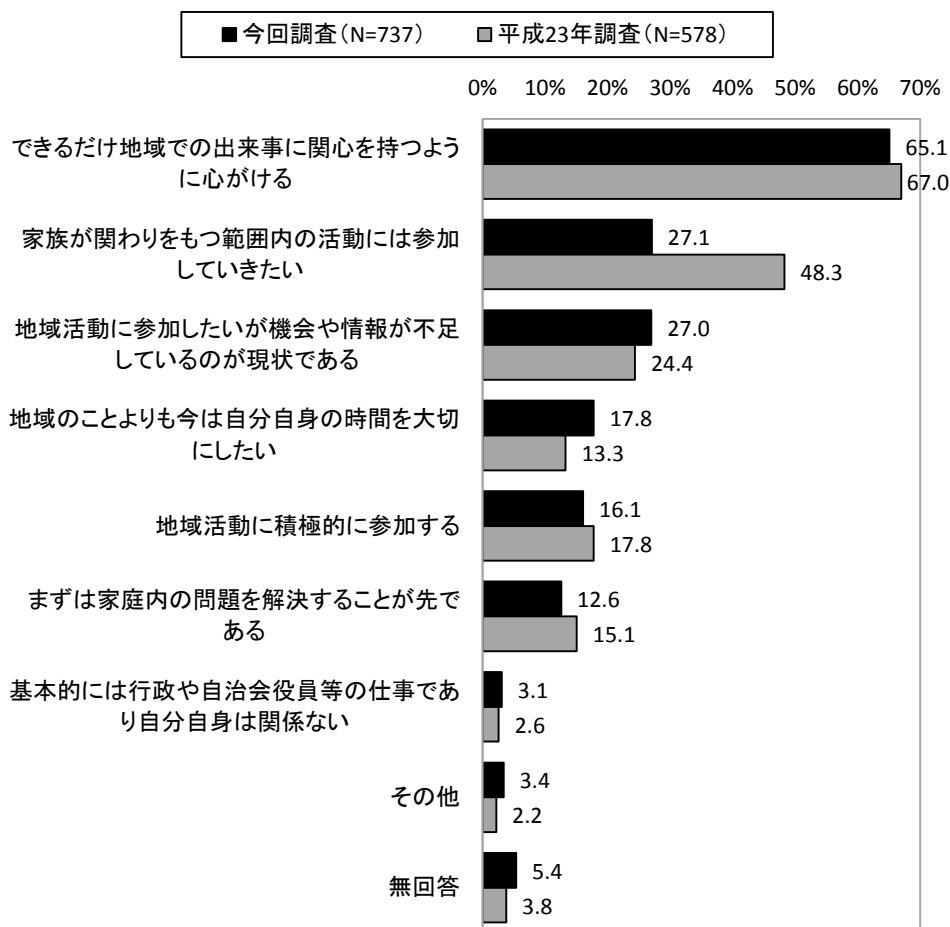
注) は全体よりも5ポイント以上低いもの、
 は全体よりも5ポイント以上高いものを示す

(6) 市民のひとりとして地域の活動に関われる程度

・市民のひとりとして地域の活動に関われる程度は、「できるだけ地域での出来事に関心を持つように心がける」(65.1%)の割合が最も高い。前回調査と比較すると、「家族がかかわりをもつ範囲内の活動には参加していきたい」は20ポイント近く減少している。

問26 住み慣れた地域で、私たち一人ひとりが安心して暮らしていくために市民のひとりとしてあなたは地域の活動にどの程度なら関われると思いますか。(あてはまるものすべてに○)

図表2-60 市民のひとりとして地域の活動に関われる程度



市民のひとりとして地域の活動に関われる程度は、「できるだけ地域での出来事に関心を持つように心がける」(65.1%)の割合が最も高く、次いで「家族がかかわりをもつ範囲内の活動には参加していきたい」(27.1%)、「地域活動に参加したいが機会や情報が不足しているのが現状である」(27.0%)となっている。前回調査と比較すると、「家族がかかわりをもつ範囲内の活動には参加していきたい」は20ポイント近く減少している。

年齢別にみると、30～49歳では他の年代に比べて「家族がかかわりをもつ範囲内の活動には参加していきたい」の割合が高く、30～39歳では「地域活動に参加したいが機会や情報が不足しているのが現状である」の割合も高い。60～69歳では他の年代に比べて「できるだけ地域での出来事に関心を持つように心がける」の割合が高く、70～79歳では「地域活動に積極的に参加する」の割合が高くなっている。

第3章. 地域福祉計画・地域福祉活動計画に関する調査結果

居住地区別にみると、鳥栖地区では他の地区に比べて「地域のことよりも今は自分自身の時間を大切にしたい」の割合が高く、鳥栖北地区では「地域活動に参加したいが機会や情報が不足しているのが現状である」の割合が高くなっている。

図表2-61 年齢別・居住地区別 市民のひとりとして地域の活動に関われる程度(%)

	調査数(人)	加地	に來	て困	に自	てが地	る解	自会	基	そ	無
		域す	心事	内族	自分	機	決	分役	本	他	回
		活	がに	のが	の自	域	ずは	自	的		答
		動	に	が活	の身	の	家	身	に		
		に	け	た動	の	情	庭	等	は		
		積	心	に	と	報	内	は	仕		
		極	け	り	時	が	の	行	政		
		的	を	は	り	現	先	や	自		
		に	持	を	も	状	題	治			
		参	つ	も	大	が	あ				
			よ	加	今	不					
			う	つ	切	足					
			出	し	は	た					
				範		い					
全体	737	16.1	65.1	27.1	17.8	27.0	12.6	3.1	3.4	5.4	
年齢別	16～29歳	50	12.0	60.0	26.0	30.0	8.0	6.0	6.0	2.0	
	30～39歳	90	11.1	53.3	48.9	22.2	36.7	12.2	-	1.1	
	40～49歳	118	14.4	56.8	50.8	21.2	27.1	13.6	2.5	3.4	
	50～59歳	111	15.3	68.5	27.9	18.0	24.3	18.0	2.7	1.8	
	60～69歳	196	16.3	74.5	14.8	16.3	27.6	9.7	4.1	3.6	
	70～79歳	122	26.2	67.2	16.4	11.5	22.1	16.4	2.5	4.1	
	80歳以上	47	10.6	66.0	6.4	10.6	19.1	4.3	2.1	8.5	
	無回答	3	-	-	-	-	66.7	33.3	-	-	-
居住地区別	鳥栖地区	206	14.1	60.7	21.8	24.3	25.7	15.5	4.9	3.9	
	鳥栖北地区	88	17.0	70.5	29.5	12.5	36.4	12.5	5.7	8.0	
	田代地区	80	15.0	73.8	28.8	22.5	25.0	16.3	3.8	1.3	
	弥生が丘地区	51	17.6	72.5	35.3	19.6	31.4	9.8	2.0	-	
	若葉地区	48	22.9	70.8	29.2	14.6	29.2	10.4	2.1	2.1	
	基里地区	79	17.7	62.0	26.6	10.1	20.3	7.6	1.3	3.8	
	麓地区	70	18.6	61.4	32.9	12.9	20.0	12.9	1.4	4.3	
	旭地区	107	15.0	64.5	27.1	15.0	29.9	10.3	0.9	0.9	
	無回答	8	-	25.0	12.5	25.0	25.0	12.5	-	12.5	

注) は全体よりも5ポイント以上低いもの、
 は全体よりも5ポイント以上高いものを示す

第4章. 自由意見

1. 誰もが住みやすいまちづくりの推進に関する自由意見

テーマ	連番	誰もが住みやすいまちづくりの推進に関する自由意見 (記入件数 148/737 件)	性別	年齢	地区	家族構成
高齢者	1	元気な60歳以上の方が働ける職場が確保できる地域であってほしいと思う。	女性	50 ~ 59 歳	鳥栖	夫婦のみ
	2	現在、まちづくり推進センター(分館も)主催で行われているもの(現在無料)のうち、1年後にはサークルに移行(有料)するとの通達です。高齢者は、来たり来なかつたり(病欠)で出入り自由なのがいい。家にじっとしているよりもと思ってセンターに来ているのでサークルに移行すると気持的、経済的に負担になる。現在は分館に行き、体操したりおしゃべりしたり、来館するだけで気持的に元気になれるような気がします。健康体操をサークル活動に移行させないで下さい。	女性	70 ~ 79 歳	鳥栖	単身
	3	日本も今後高齢者比率は急速に上昇する事が間違いが無い事は日本国民は知っている。今日此の世界に高齢比率が上昇する事は誰でも知っているが、此の問題に真剣に取り組もうとする地方自治体・財政では全く関心が無い。高齢者自身が国・地方の労政役員となり高齢者を保護し、一日でも長生きの出来る社会を自らが取り組む事が出来る仕組・システムを高齢者自ら展開するような国家・地域社会が絶対に必要である。日本は世界一長寿国になる。	男性	60 ~ 69 歳	弥生が丘	夫婦のみ
	4	健康な老人は結構いるし、まだまだ働けると思っている年寄りも多いと思う。一方、介護の必要な老人も多くなっている事実。地域ぐるみでの子育て支援や老人介護などに、比較的健康的な老人をもっと活用できないでしょうか？有償、報酬扱いにするか、ボランティア扱いにするか、難しい面はあると思いますが・・・。	男性	60 ~ 69 歳	弥生が丘	夫婦のみ
	5	少子高齢化は既に大きな問題であり、高齢者福祉は早急な対策が必要と考える。同時に少子化に対する歯止めと対策も同様である。	男性	50 ~ 59 歳	若葉	二世帯世帯

テーマ	連番	誰もが住みやすいまちづくりの推進に関する自由意見 (記入件数 148/737 件)	性別	年齢	地区	家族構成
高齢者	6	これから高齢化がさらに進むこととなるが、行政支援と高齢者自身の自立がさらに重要となる。その中間に近くに住む住人のボランティアがうまく機能することが活きた福祉となると考えられる。先の高齢者自身の自立は大変重要であり、自立はもとより近くの住人とうまい関係をもつことも大切であると考えられる。そういう基盤がないとボランティアもうまくいかない。行政支援はどうしてもハードなものであり、きめ細かい支援には限界がある。それは仕方がない。高齢者自身が作り上げていかなければならない。親類、子供、ご近所の方々との関係は、人間の知恵として大事にしていかなければならない。高齢者に対してコクな話でしょうか？	男性	60 ~ 69 歳	基里	夫婦のみ
	7	現在、どこの病院へ行っても高齢者ばかりです。特に整形外科とか…。私には、本当に必要な治療の為とは見えない時があります。それが医療費が増加している原因では。だから、高齢者が朝早くから行動出来る施設が出来ればそちらに行って医療費がへるのでは…。高齢者はさみしい人が多いのです。だれかと話をしたいだけです。	女性	60 ~ 69 歳	基里	夫婦のみ
	8	年金生活に不安があります(これからさきに)。無料で高齢者が集まる楽しい場所を作ってほしいと思います。	男性	60 ~ 69 歳	麓	二世帯世帯
子ども子育て	9	隣町のみやき町の様にもう少し“子育て支援”にも力をいれてほしい。お祝い金がもらえたり、支援も充実していると住んでいる方から聞きます。鳥栖市は住みやすいと聞いて引っ越してきましたが、実際本当に住みやすいのはみやき町だったかな…と思いました。これから子育てする身においては…。	女性	30 ~ 39 歳	鳥栖	夫婦のみ
	10	もっと児童手当や子どもに対する医療費の助成をしっかりとしてほしい。地域によっては医療費は無料だ。中学生まで助成の対象であってほしい。子どもがあそびやすい公園が少ない。遊具のない広い公園ばかりなので遊具を充実させれば子どももあそびやすい。みんな久留米や小郡、上原田まで行ってしまふ。鳥栖の魅力何もない。	男性	30 ~ 39 歳	鳥栖	二世帯世帯

第4章. 自由意見

テーマ	連番	誰もが住みやすいまちづくりの推進に関する自由意見 (記入件数 148/737 件)	性別	年齢	地区	家族構成
子ども・子育て	11	<p>まずは、この先の未来を支えていく子ども達が“鳥栖”を好きになっていくことが大切だと思う。子ども達が参加しやすい行事、ボランティアを増やしアピールしていく。その場に高齢者などがいると子ども→親(成人者)→高齢者となつながりができていく。子ども達に魅力のある町は将来も鳥栖に対する愛をもち、鳥栖ですごしたいという気持ちへつながると思う。</p> <p>他の周辺地域に対して、鳥栖市は子ども達に対して魅力のある場所(公園等)イベントが少なすぎると思う。高齢者向き(大人)に考えられた場所の方に力を入れているようにここ近年は感じられる。JR鳥栖駅、新幹線のある新鳥栖駅と子ども達が大好きな電車のみれる場所(町)にあることを活かし、あさひ山の芝広場やその周辺、鳥栖駅周辺に電車を楽しめる、いこいの場を考えてほしい。市民が自由に参加できる意見、思いを言い合える場をつくってほしい。</p>	女性	30 ~ 39 歳	鳥栖北	二世帯世帯
	12	<p>子供達の朝夕の登校時の見守り、本当にありがたいです。たくさんの人達に助けて頂いていると思います。ただ、私の願いは1つ！子供も預かって欲しい人は、どんな理由であれ収入に見合った額で預かってもらえるまちなって欲しいです。そしてできれば学校や地域で時々遊んだりできるような環境になれば、ありがたいです。</p>	女性	40 ~ 49 歳	田代	二世帯世帯
	13	<p>鳥栖は子育て世代にはとても住みやすいと思います。保育園があずけにくいのかなあと思いました。今は市役所に行って相談したり、色々なサービスを利用することなくすごせていますが、これからお世話になる事と思います。そのたびに、鳥栖市の福祉のありがたを一人の市民として考えていきたいと思ひます。出来る事からはじめます。出来る事を探してみます。</p>	女性	40 ~ 49 歳	田代	三世帯世帯以上
	14	<p>保育所の待機児童をどうにかしてほしい。鳥栖市は全く福祉や全体的なまとまりが欠けていると思う。福祉課の対応いつもスッキリせず心あるとは感じない。</p>	女性	30 ~ 39 歳	弥生が丘	二世帯世帯

テーマ	連番	誰もが住みやすいまちづくりの推進に関する自由意見 (記入件数 148/737 件)	性別	年齢	地区	家族構成
子ども・子育て	15	児童福祉では、子供がお世話になったことがあるので、市の体制が充実していて有り難く思いました。今後、自分達世代はまだ少し先の事になりますので、高齢者福祉の問題があまり身近に感じていませんが、心身面の健康が大事だと考えますので、両面からサポートや情報提供が充実されると不安が解消されるのではないかなと思います。	女性	40 ~ 49 歳	弥生が丘	二世帯世帯
	16	医療関係の仕事をしています。現在高齢者が多く、介護保険を利用してデイサービスなどをよく利用されています。中には必要ではない元気な方が介護保険を利用しているように思えます。介護保険はみな税金でまかなわれています。また、少子社会で子育て支援に力を入れていると言いますが、待機児童は多く、保育園に入れても、保育料は高いので働いている意味がありません。保育士の方からは、休みの日は家庭で見てくださいと言われます。高い保育料を払っているお母さんからしてみれば不満ではないでしょうか？小郡の保育園ではお母さん達のリフレッシュも必要ということですすんであずかってくれるそうです。“働きながら子育てができる”環境＝高齢者の年金をまかなう、につながっていると思います。	男性	30 ~ 39 歳	基里	二世帯世帯
	17	昔は老人と若者(嫁・姑)が同じ屋根の下に暮らしていました。嫁・姑問題も数多く有ったと思います。が一方では子供の急変時姑に助けられたという事も有ると思います。今は核家族で三世帯同居という家族は少ないと思います。若いお母さんは(特に初めての子育てママさん)は不安がいっぱいでノイローゼになる方もいると聞きます。保健センター、推進センター、市役所の中にでも気軽に相談出来る場所、相談出来る人が居て下されば安心して子育てが出来るのではないかと。自信を持って子育て出来るのではないかと。と思います。	女性	50 ~ 59 歳	基里	単身
	18	最近「子供の貧困」が全国的な課題になっていますが、鳥栖市も将来を担う子供達を支援する制度を十分に行ってほしいと思います。	男性	70 ~ 79 歳	麓	夫婦のみ

第4章. 自由意見

テーマ	連番	誰もが住みやすいまちづくりの推進に関する自由意見 (記入件数 148/737 件)	性別	年齢	地区	家族構成
障がい	19	市の中心部だけでなく、山間部にお住まいの方たちも生活しやすいことが求められると思います。また、高齢の方はスーパーなどで買い物されている様子を見かけますが、障害のある方が同じように買い物されているところは見かけません。障害のある方もふつうに生活できるようなサポートを探ることも必要だと思います。	男性	40 ~ 49 歳	鳥栖	二世帯世帯
	20	精神的に障害のある者に対しての福祉体制が全くないに等しい。福祉の範囲がどこまでかわからない。いろんな障害があることをもっと知ってほしい。	男性	60 ~ 69 歳	鳥栖	夫婦のみ
	21	スーパー等などの駐車場スペースに障がい者用スペースが設けられているが、普通の人々が車を停めて買物している事が多くみられる。こんな簡単な意識さえもない人が多い中、地域福祉というものは非常にむずかしいと思う(わりと年取ってる人が多い)。	男性	60 ~ 69 歳	田代	二世帯世帯
	22	結婚もしないで楽々暮らしている人、独身税が必要。御主人が亡くなれば、一人暮らしの生活を何人もみていますが優がな暮らしをしている。住民税が必要。なっとくかない。障害者のタクシー券、遠い病院に二週間分しかない。もう一冊ふやしてほしい。	男性	70 ~ 79 歳	田代	夫婦のみ
	23	まず、障害のある方々が自立できるように道路の整備、職業訓練、語り合える場の提供などをすすめてもらい、障害(ハンディキャップ)のある方々との交流、理解など市民レベルでできることをがんばり、行政と地域住民がうまく支えあえるようになれることではないかなと思います。コーディネーターさんが必要な。	女性	50 ~ 59 歳	弥生が丘	二世帯世帯
	24	一級障害者ですが、家族の手助けで不自由なしの生活しているので、これと言う要望は有りません。	女性	60 ~ 69 歳	基里	その他
	25	障害者(身障者)用駐車場利用証を持つてる人がいても、健常者が平気な顔で身障者用の所に駐車してるのをよくみます。もっと理解してもらえるようなよびかけをしてもらえたらなと思います。	女性	20 ~ 29 歳	旭	二世帯世帯

テーマ	連番	誰もが住みやすいまちづくりの推進に関する自由意見 (記入件数 148/737 件)	性別	年齢	地区	家族構成
地域のつながり・助け合い	26	小学校の登下校の際、踏切や横断歩道に毎日立ってくださる地域の方にお礼を言いたいです。雨の日も強風の日もカミナリの日も立ってくださって、本当に感謝しています。ほんとうにありがとうございます。ありがとうございます。	女性	30 ～ 39 歳	鳥栖	二世帯世帯
	27	まずは、ご近所からの挨拶から始めて、お互いを知る事が大事だと思う。隣が誰か解らない様では回りに広がる事が無いと思う。子供からも挨拶が出来る様に、大人が手本を見せないと、広がりません。	女性	60 ～ 69 歳	鳥栖	二世帯世帯
	28	私は40年前頃、太宰府市から転入して来た者ですが、鳥栖市はいろんな側面から見て住みやすい町だと思っております。ただ最近は年齢80才を過ぎて仕事からも離れた状態ですが、同年輩の方と語り合う機会が少なく、さびしい思いをしております。行政の方でそのような機会作りをしていただければと願っております。	男性	80 歳以上	鳥栖	夫婦のみ
	29	大人も子供も挨拶が少ないですね。学校などで子供に教えて頂きたいですね。	女性	60 ～ 69 歳	鳥栖北	夫婦のみ
	30	1. 隣近所の挨拶。 2. 自宅前だけでも掃除。 3. 行政にたよらないで地域独自の自立。 行政の皆様、鳥栖のために頑張ってください。	男性	60 ～ 69 歳	鳥栖北	単身
	31	ここ数年、地区の敬老会に出席し、区長の挨拶中で招待者は区費を払っている人で区費を払っていない拾数名は招待していないとの事がある。又、当地区のアパートの住人は区費を払っていないとの事である。区費を払わない事で班から除外され、市報、連絡事項、地区の行事(花見、盆踊り等)の伝達、参加は出来ない。何らかの事情で区費を払えない人に対しても差別なく授護すべきである。鳥栖の市民である。こういう人を助けるのが福祉である。	男性	70 ～ 79 歳	鳥栖北	夫婦のみ
	32	現在我が国は、少子高齢化社会と言われ、今後ますます多くの問題が生じて、政治的にも経済的にも福祉行政が充実したものになるよう、一人一人が協力し、助け合い行動せねばならない時代です。残念ながら、老体の身で、病気持ちのため、気はあっても体が思うようにならぬ身がありますが、生まれ育った「鳥栖」が、福祉が充実した生きがいのある理想の地域社会となることを切に希望するばかりです。	男性	80 歳以上	鳥栖北	二世帯世帯

第4章. 自由意見

テーマ	連番	誰もが住みやすいまちづくりの推進に関する自由意見 (記入件数 148/737 件)	性別	年齢	地区	家族構成
地域のつながり・助け合い	33	近所に高齢者単身世帯が増えており、挨拶等はしているが、それ以上の関わりがないのが現状。自分としてはもっと積極的に関わりたいところだが！両親と生活しているため、あまり関わる事ができない。(親が地域活動を嫌っているため)。大学を卒業したばかりの社会人1年目だが、若者の視点を取り入れてまちづくりに参画することができるのであれば参加したいと思っている。	男性	20 ~ 29 歳	田代	二世帯世帯
	34	市民と役所の助け合い(同じ目線で!!)。	男性	50 ~ 59 歳	田代	単身
	35	賃貸から戸建に住居を構え、回覧板等で地域の活動を具体的に知る機会が増えました。地域住民の1人として自分にできることを考えていきたいと思いました。	女性	30 ~ 39 歳	弥生が丘	二世帯世帯
	36	①明るい挨拶をかわす町づくりを。10数年前のことであるが、熊本市内のある校区を通りかかったら「あいさつをかわす町」の看板あり、気持ちよかった。朝、ごみ出しに行っていると小学生が「おはようございます」と言ってくれる。うれしい。コミュニケーションの育成は「あいさつ、声かけから」。 ②鳥栖の自然を愛する人づくり。鳥栖の山川樹木草花…自然は人の心を癒し育む。数年前まで河内(とりごえ荘)に行く道路わきの桜はみごとに咲いていた。今は小枝が多くなり前の優美な姿はない。杓子ヶ峰登山道もヤブのようなありさま。頂上から市内をながめられるのになあ…。 ③神社並びに境内整美、区民の心のよりどころ、集まる場所。広い境内を活用できないか。 ④小中学生に福祉の気持ちを育てては。独居の高齢者の方が中学生にごみを出してもらったと喜んでいた。	女性	70 ~ 79 歳	若葉	三世帯世帯以上
	37	近所の子どもであっても殆んどの子どもの顔・名前がわからない。出来るだけ地域の行事等に参加して子ども達と関りを持ちたい。	女性	70 ~ 79 歳	若葉	夫婦のみ
	38	単身赴任の為仮の住まいですが、お金をかけず人間関係の構築により対処すべきだと思います。	男性	50 ~ 59 歳	基里	単身

テーマ	連番	誰もが住みやすいまちづくりの推進に関する自由意見 (記入件数 148/737 件)	性別	年齢	地区	家族構成
地域のつながり・助け合い	39	大人でも隣近所のいじめに合い、ゴミ出しさえも行けない時もありました。4～5、7～8年かも知れません。隣近所の方が恐ろしくてそのせいか、あまり他人様に立入たくありません(地域の方とはお話ができます)。親切にしたいと心掛けています。	女性	70～79歳	基里	夫婦のみ
	40	私は現在、ちょっと体調が悪くて、しゃべりにくくて大変ですけど筋肉がおとろえています。でも、一人暮らしの方の訪問をしたり、地区の行事も参加して頑張っています。ありがとうございました。	女性	70～79歳	基里	夫婦のみ
	41	私はまだまだ自分だけが良いと思う人が多いと思います。自分はこうしたら良いじゃないかと思って言ったりするとあの人は強いとかやかましいと言う人が多いと思います。みんながお話し合いをして人・人とのふれ合いを多くして行く事だと思います。家庭の中でもむずかしい事なので大変だと思います。一人一人がみんなの事を思う心だと思います。	女性	70～79歳	基里	三世帯世帯以上
	42	現在、私は、集団が苦手な方なので、外に出るより、ビデオや読書と家族との会話で十分と思いますが、もし単身になった時は、きっと話し相手が欲しかったり、不安な時は、行政で何かしらのサポートや、外出を楽しみにできるサークルを欲するでしょう。その時で変わるので、望んだ時は、温かく迎えてくれる場所があれば、良いと思います。	女性	50～59歳	麓	二世帯世帯
	43	地域福祉の大切さ重要さは頭の中では理解できています。しかし、各々物理的に余裕のない方、自分のことで精一杯の方がいらっしゃいます。まずは近くの方とあいさつを交わす人を、知ることから始め、人と人との関わりを強めていけば、自然と人は助け合う心が育つと思います。まずは困っている人が誰なのか、何に困っているのか、助けてほしいのか出向いていける人材をつくって地域一軒ごと(大変ですが)に耳を傾けていくことが必要だと思います。そこからすい上げてきたことが課題ではないでしょうか。		50～59歳	麓	夫婦のみ
	44	身勝手、自己主義な人が増加している。どうしたら良くなるのでしょうか？	男性	50～59歳	麓	単身

第4章. 自由意見

テーマ	連番	誰もが住みやすいまちづくりの推進に関する自由意見 (記入件数 148/737 件)	性別	年齢	地区	家族構成
地域のつながり・助け合い	45	20年位前までは隣近所の人たちと楽しく話をしている人が多かったですけど最近は若い人から60代の人たちでも会話をしない人が多いように思います。世の中昭和の心を持った人々が少なくなっているように思います。	女性	60 ~ 69 歳	麓	三世代世帯以上
	46	地区の高齢者の方々となかなか交流する機会が無く世代間にとっても距離があるように感じる。朝に子どもたちの通学見守等して頂いているが、子どもたちだけではなく、親世代がもっと深く感謝し、交流できる機会があればと思う。	女性	30 ~ 39 歳	旭	二世代世帯
	47	最近、フレスポ鳥栖などで雑貨市がひらかれているので、そういうマーケットで人と人のつながりや、作家にはなれなくても見に行ける楽しみができ、ほんとにいつも楽しみにしています。作家の方が増える事で、子育て中の主婦の方が作品を作って売れる機会もできるし、人と人のつながりも作る事ができ、そのような雑貨市の開催が増えればいいなと思いました。	女性	30 ~ 39 歳	旭	夫婦のみ
	48	お互いの助け合いが一番いいと思うが、なかなか現実はずかしいと思う。でも自分としては心の中ではいつもおもっている事です。	男性	30 ~ 39 歳	旭	二世代世帯
	49	隣近所による助け合い活動等が住みやすい町づくりの基本だと思います。私はお互い協力出来る様今後も努力したいと考えています。	男性	60 ~ 69 歳	旭	その他
施設	50	病院が鳥栖のどこにあるのか、その病院がどういう特色があるのか等が分かりやすくなると良いと思います。	女性	16 ~ 19 歳	鳥栖	二世代世帯
	51	多目的公園や駐車場の整備。ふらっと立ち寄れるような所がない。特産品、交流を深められるような何か。	女性	20 ~ 29 歳	鳥栖	二世代世帯
	52	藤木町には公園がない。子どもたちが走りまわって遊べる場所がほしい。	女性	30 ~ 39 歳	鳥栖	二世代世帯

テーマ	連番	誰もが住みやすいまちづくりの推進に関する自由意見 (記入件数 148/737 件)	性別	年齢	地区	家族構成
施設	53	幼児の為の遊具(低いすべり台、かごつきのベンチブランコ他)などサンメッセ鳥栖の芝の上に置いてほしい。幼児が遊べる場所がない。	女性	60 ~ 69 歳	鳥栖	夫婦のみ
	54	近くに商店がない。大きな木がなく、木かげがない。(小さな森の、すずむ場所がほしい)移動販売をしてほしい。	女性	80 歳以上	鳥栖	単身
	55	個人的なことで意見を書かせてもらいます。孫の守りでサンメッセの付近で遊ばせることが多いのですが、すべり台がひとつしかなく、あれだけ広いのに、固定遊具がなく残念に思います。できれば鉄棒、ブランコ、シーソーなどあれば、もっと楽しく遊ぶことができるのになあ～と感じています。また、雨の日の遊び場として、サンメッセ内にキッズコーナーでもあればと思っています。2階に図書館があるのでむずかしいとは思いますが…。雨の日に子どもたちを外で遊ばせられないお母さん達にとって、室内の広い遊び場はとても大切だと思います。支援センターがあることも知ってますが、サンメッセの活用方法も考えて欲しいです。	女性	50 ~ 59 歳	鳥栖北	夫婦のみ
	56	小郡市にある総合保健福祉センター「あすてらす」など市民が健康を意識して生活できるような場所があったらいいなと思います。	女性	50 ~ 59 歳	田代	二世帯世帯
	57	車の運転ができる時は、毎日宮ノ陣の日赤プールに行っていたのですが、足を手術してから車の運転がドクターストップがかかり、つれて行ってくれる人もいないし、バスもないので今はストップしています。外は余りあるけれども、プールの中は歩いてリハビリになるので、鳥栖にもバスなどで行ける温水プールが早くできればいいと思います。よろしくお願いします。	女性	60 ~ 69 歳	田代	単身
	58	まちづくりと関係ないかもしれませんが、弥生が丘に郵便局がなく大変困っています。高齢者の方も、鳥栖市(元町)まで行かなくてはならないので、“市”のお力をお借りして、ぜひとも弥生が丘(住宅街)に郵便局をつくって頂きたく、切に願っております。(出張所でもかまいません)。よろしくお願いします。	女性	40 ~ 49 歳	弥生が丘	二世帯世帯

第4章. 自由意見

テーマ	連番	誰もが住みやすいまちづくりの推進に関する自由意見 (記入件数 148/737 件)	性別	年齢	地区	家族構成
施設	59	弥生が丘に中学校・交番・郵便局等をつくって欲しいです。ある程度の範囲で歩いて暮らせるまちづくりをお願いしたいです。	女性	40 ～ 49 歳	弥生が丘	二世帯世帯
	60	いつも思うことですが、街の大きさの割には図書館がちゃんまりしてて蔵書も少ない。本も相当に古く、市民の希望があったら購入するのではなく、新刊を積極的に入れてほしい。また、ハードカバーだけでなく、文庫本(通勤で読むのに重要)も充実させてほしい。図書館がショボイ街はダメです。本当に力を入れてほしいと思います。	男性	60 ～ 69 歳	弥生が丘	夫婦のみ
	61	子どもが気軽に安全に遊べる場が少ないと感じます。公園も遊具の劣化や不審者、ボール遊びの禁止、水遊びの禁止、騒音問題など、思いっきり遊べるわけではありません。川遊びや草原でかけまわったりなど、親世代が子どもの頃に遊んでいた様な場所がほとんどなく、神社や公園なども禁止事項が多く、窮屈になった気がします。	女性	30 ～ 39 歳	基里	二世帯世帯
	62	鳥栖市はこどもが安全で安心して遊べる大型の公園が少なすぎる。高齢者が集まれる空地的な所はたくさんあるのに、子どものための施設が充実していないのが残念。気軽に水遊びが出来たり、小学生や幼稚園・保育園児・未就学児がそれぞれ安全に遊べる場所が欲しい。公園で安心してみんなが集まれる、そんな当たり前の事が今の鳥栖市は出来ないのが現状だと思う。(今ある公園は老朽化がひどく、安全に遊ぶには程遠く、遊具も魅力を感じない。雑草の手入れやトイレ等の衛生面でも気になって気軽に行けない)。	女性	30 ～ 39 歳	麓	二世帯世帯
	63	・福祉も大切ですが、未来の為子供の児童公園を作ってほしい。鳥栖の西部方面には、一つもない。もっと児童の住みよい町にしてほしい。 ・介護施設で利用料金の高い施設はたくさんあるようですが、低国民年金で入所できる養護老人ホームを作って戴きたい。又、いじめや虐待に細心の注意をしていただきたい。	女性	60 ～ 69 歳	麓	三世帯世帯以上

テーマ	連番	誰もが住みやすいまちづくりの推進に関する自由意見 (記入件数 148/737 件)	性別	年齢	地区	家族構成
施設	64	町内に各々ゴミ集約場を設置してほしい。県営、市営アパートではりっぱな集約場がある。 道路はばをひろげて！！バイク、自転車は側溝にはまり危険、安全に走行出来る幅と側溝のふた設置。 バス停の幅をひろげて。うしろから走ってくる車、バイクは一旦停止せざるをえない。 公衆電話が見つからない。大きな場所にわかりやすい設置(増)を。	男性	70 ~ 79 歳	麓	二世帯世帯
	65	健康づくりの為、温水プールを利用したい。他の自治体のプールに行ったりしているが、安価で利用できる鳥栖市のプールを作ってほしい。	女性	50 ~ 59 歳	旭	二世帯世帯
インフラ・街並み	66	道路の整備、34号は片側1車線の為よく混んでいて、車と車の間を無理に横断してくる人がいて危険な事がよくあるので。(特に年配の方の歩行者、ドライバーのマナーが悪いです)。	男性	40 ~ 49 歳	鳥栖	単身
	67	森や林、緑や草花の多い町づくりを推し進めて下さい。	男性	50 ~ 59 歳	鳥栖	夫婦のみ
	68	・鳥栖市内は大通りから少しはずれた所はとても暗く、外灯も少ないので一人歩きはとても不安です。 ・歩道に出しているお店の看板や旗も歩いている人にはとても迷惑で危険(目の不自由な方にもやさしくありません)。 ・庭木等が道路に伸びて歩行に迷惑。 ・職員の方は市役所まで毎日通勤されて何も思う事は無いのでしょうか？たまには歩行者目線で市内パトロールしてみたいか？	女性	60 ~ 69 歳	鳥栖	夫婦のみ
	69	街並みの整備、他県から来た時に素敵な市とは言えない。	女性	60 ~ 69 歳	鳥栖	単身
	70	福祉も重要な問題だとは思いますが、その前にそれ以上に重要な問題を早くやるべきである。①鳥栖駅に東口をつくる。街が駅で完全に分断されているし、これくらいの規模の駅で出入口が片側にだけしかないということはおよそ考えられない。街の発展のためにも、市民の利便性の観点から、もっと早くから取組み今頃はできていなければならぬ問題。②①とも関連するが、鳥栖駅周辺をもっと整備し活気のある地域、鳥栖の中心ともいえるような地域にすべきだが、いずれも時間がかかりすぎ。鳥栖市役所にやる気はあるのか！！	男性	60 ~ 69 歳	鳥栖	夫婦のみ

第4章. 自由意見

テーマ	連番	誰もが住みやすいまちづくりの推進に関する自由意見 (記入件数 148/737件)	性別	年齢	地区	家族構成
インフラ・街並み	71	名古屋から引越してきたが、住民のモラルが低く感じます。路上駐車禁止エリアでの駐車やUターン禁止の場所でのUターン。また商店街の一部の場所だけが歩道の整備を行っていないことに疑問を感じます。なぜ全ての歩道をキレイにしないのか。そして歩道に店の看板が置いてあり、そのせいで歩道が狭くなり、危険です。なぜ市が注意をしないのか、事故があつてからでは遅いです。このようなアンケートを取るのであれば実行してほしい。アンケートの意味がないし税金のムダ。即時の行動をお願いします。ムダであれば、金輪際このようなアンケートは不要です。	男性	20 ~ 29 歳	鳥栖北	二世帯世帯
	72	・道路について。 ①通学路周囲の水路をふさいで欲しい。 ②車道が平らなように、歩道も全て平らにして欲しい。(ベビーカーや、お年寄の押車はかわいそうです)。 ③自転車専用レーンを全ての車道にひいて欲しい。→現在ある白線で自転車に乗った事ありますか？細すぎて危ないです。 ・医療費について。 子供医療費は申請ではなく、相殺が全国平均ですよ。	女性	40 ~ 49 歳	鳥栖北	二世帯世帯
	73	特に幅がせまい歩道を広めて子供達も安心して歩けるようにしてほしい。	女性	60 ~ 69 歳	鳥栖北	二世帯世帯
	74	最近自分さえよければという意識を持つ人が多い様に思えます。私は自分の住むまちはきれいなまちでありたい。国と行政と市民の協力を念頭において国と行政ばかりにたよらず自分たちでできること、例えば自分の家のまわりの道路の草取り、草刈り、等は自分でやる。市民の手が届かない所は行政、その又手が届かないところが国と役割分担で行うのが全体につながっていくと思う。まちを通っていてもきれいな町とそうでない町が一見してわかる。ひとりひとりが意識することで住みやすいまちになると考えます。	女性	50 ~ 59 歳	田代	単身
	75	弥生が丘中央区のふれあい通りの車の通行(スピード)の出しすぎで交通事故多発。小学校があり、スクールゾーンですので安全な道路にさせていただきたく思いますが、いまだに安全性がなく危険箇所です。近い将来安全な道でないと高齢者が安心して散歩など出来ないのでは是非危険箇所を確認して下さい。宜しくお願い致します。	女性	40 ~ 49 歳	弥生が丘	その他

テーマ	連番	誰もが住みやすいまちづくりの推進に関する自由意見 (記入件数 148/737 件)	性別	年齢	地区	家族構成
インフラ・街並み	76	歩道の道に敷かれているブロックが、でこぼこしていて老人がつまづきそうになり危ない所を何度か見ました。見た目はとても良いのですが、月日がたつと浮き上がったり割れたりして小さい子供や老人には特に危険の様に思われます。安心して誰でもが外歩きができる様な環境整備も必要かと思います。マンションでは両隣りの人以外は誰かわからず、あいさつのみかわす程度です。人とのつながりという点ではマンションはむずかしいなと思いました。	女性	50 ~ 59 歳	弥生が丘	単身
	77	公共交通の充実、移動手段があまりにも不便すぎます。	女性	60 ~ 69 歳	若葉	夫婦のみ
	78	道路整備、歩道の設置、大型車の通行規制。	男性	50 ~ 59 歳	麓	単身
	79	私は鳥栖市に来て4年で、市のことはあまり理解できていませんが、孤立しないように、まわりのことに関心を持たねばと思っております。 鳥栖市は車がなければ不便なところですが、超高齢者でもやむをえず車の運転をされている人をよく見ます。地域別の買い物用ミニバスの運行とは別に、せめて30分おきには路線バスが走るような巡回型の小型バスの運行を計画してもらえませんか。運転免許証を返す人の不安も減り、事故防止にもつながると思います。(高齢者でも乗り降りしやすいステップのバス)。鳥栖駅、新鳥栖駅、郵便局、警察署、文化会館、図書館、市役所、主な病院、サッカー場などを巡回する。市役所等玄関先までバスが入れば、雨が降っても高齢者でも行きやすくなると思います。	女性	60 ~ 69 歳	麓	二世帯世帯
80	・他の県、市、町に比べ鳥栖市は道路の整備が遅れている。学校の通学路、又はバイパス等の整備。 ・医療機関が充実していない。久留米へ行く事がある。	男性	70 ~ 79 歳	麓	夫婦のみ	

第4章. 自由意見

テーマ	連番	誰もが住みやすいまちづくりの推進に関する自由意見 (記入件数 148/737 件)	性別	年齢	地区	家族構成
インフラ・街並み	81	鳥栖市内は地域に依り道路が狭い場所がかなり有り、主要道路の拡幅、歩行者用歩道の設置等まだ々進んでおらず、道路の環境整備を促進してほしい。	男性	50 ~ 59 歳	旭	二世世代世帯
	82	駅前周辺の整備、暗すぎる。もっと明るくすれば人は集まるはず！！	男性	60 ~ 69 歳	旭	その他
	83	現在運行している市内のミニバスの内容をもっと充実してほしい。	女性	70 ~ 79 歳	旭	その他
安心・安全	84	・財政的に逼迫している現状に目を向け、市民よりの創意工夫等を募集していくことが必要である。お金を掛けない市民アイデアによる安全安心な町づくりをしていきたい。 ・子供の教育は必要。広い視野に立った学問(教師だけでなく、市民より集る)→現在の学問のなりたちの歴史等。 自然科学、人文学に関すること！！以上。	男性	50 ~ 59 歳	鳥栖	夫婦のみ
	85	子どもから高齢者まで安心して住めるようなまちづくりをお願いしたい。	女性	60 ~ 69 歳	鳥栖北	三世世代世帯以上
	86	鳥栖J1サガン鳥栖の本拠地を全体に知らしめるためにも市民の老若男女がもっと応援にスタジアムにかけつけるべきだと思う。鳥栖市が安心安全で住みよい町をアピールすることが大切だと考えます。	男性	70 ~ 79 歳	鳥栖北	三世世代世帯以上
	87	子どもたちや高齢者、障がいのある人たちが安心して暮らせるやさしいまちになることを希望します。鳥栖市は住みやすいいいまちだと思います。これからはずっとそんなまちであってほしいと思っています。	女性	60 ~ 69 歳	田代	単身
	88	老いも、若きも、何時も、誰もが安心して触れ合うことのできる場の町に。	男性	70 ~ 79 歳	田代	単身

テーマ	連番	誰もが住みやすいまちづくりの推進に関する自由意見 (記入件数 148/737 件)	性別	年齢	地区	家族構成
安心・安全	89	住み慣れた地域(昭和42年)知人の紹介で介護住宅に入居、夫の職務の都合で鳥栖を拠点に佐賀まで通勤。途中海外勤務を命ぜられ(台湾)、任期満了後佐賀に戻り(昭和52年)以後、沖縄～荒尾～飯塚(昭和62年)地元の方とは在居中夫と気軽に交際も出来ておりましたが、伊万里～佐賀に戻ってから年をとったせいか外に出る機会も少なくなり、又、ここ3～4年体調を崩し入退院が続き、住宅に住んでいて近所の人、隣保班の人との付き合い、気軽に相談出来る人も疎遠になり、現在の心境では夫婦二人で私たち一人ひとりが安心して暮らしていくためには問23～問26での行政や自治役員等の方々に頼るしかないと思いますのでご援助を宜しくお願ひしたいと思います。	女性	80 歳以上	田代	夫婦のみ
制度・仕組み	90	生活保護を受給している人が沢山いるが、本当に必要な人に受給してほしい。毎日病院に行ったりと医療費の無駄です。どのような判断で受給者を決めているのか、もっとしっかり判断してほしい。ずるがしこい生活保護受給者が多すぎます。	女性	30 ～ 39 歳	鳥栖	二世帯世帯
	91	生活保護や扶養手当の不正受給を止めてくれ。厳しくとりしまって支給を減らせ。	男性	40 ～ 49 歳	鳥栖	単身
	92	だれもが自立を目指して生活していける町づくり。すべての手続きを簡単にしてもらおうと市民の人達が助かるのでは？	女性	40 ～ 49 歳	鳥栖	二世帯世帯
	93	高齢者の所帯で、市に相談があったりする時「窓口に来て下さい」と言われるが、介護をしたらバスで出かけるのも時間的に大変だし、徒歩で行くのも時間・体力的に大変。もっと手軽に相談出来るシステムを作って欲しい。市役所職員さんはほとんど体力もあり、車の運転をされているので出向く事の大変さを理解していても実感出来ないと思う。	女性	60 ～ 69 歳	鳥栖	二世帯世帯
	94	今はまだ困っていませんが、体に自信がもてなくなった時、一番困るのが日常の買物だと思います。毎日必要な食料品等、手軽に手に入るようなシステムができたと思います。スーパーまで行かなくても近くで手に入るような店をふやしてほしいです。	女性	60 ～ 69 歳	鳥栖	夫婦のみ

第4章. 自由意見

テーマ	連番	誰もが住みやすいまちづくりの推進に関する自由意見 (記入件数 148/737 件)	性別	年齢	地区	家族構成
制度・ 仕組み	95	人や物に頼る前に精神力を強くする為のカウンセリングの専門家に相談する窓口を多く作ってほしい。	男性	60 ~ 69 歳	鳥栖	夫婦のみ
	96	正規職員の削減、働かずに高収入を得ている人が多すぎる。職員削減分から若者に対する支援を手厚くする。その結果、若者の労働意欲、支出意欲向上につながる。世帯、個人の支出が増えれば、地域が活性化する。若者の活性化が地域福祉、社会福祉の第一歩である。	男性	20 ~ 29 歳	鳥栖北	その他
	97	様々な立場、生活がある中で限られた財政では特定分野に手厚くするより広く浅くてもいいので「福祉」が実感できる様にして欲しいです。医療機関にいますが、節約して受診される高齢者がいる一方、1割だからと薬等を過剰に要求される方、生保だからと受診の必要がないのに来られる方、様々です。本当に困っている方に手が届くようにして頂きたいです。マイナンバーが本格的に導入されたら、是非効率的に無駄をはぶき、みんなが生活しやすいまちづくりをしていただきたいと思います。	女性	40 ~ 49 歳	鳥栖北	二世帯世帯
	98	買物弱者になりつつありますので、タクシー等の老人割引のような事があれば助かります。	女性	80 歳以上	鳥栖北	二世帯世帯
	99	お年寄りだけに、給付金(3万円65才以上)をあげるんじゃなくて、麻生元総理大臣のように、子供から大人、老人にくれた定額給付金があったら、誰もが住みやすいまちづくりになると思います。	女性	30 ~ 39 歳	田代	単身
	100	ゴミ収集の頻度(不燃物)の回数を月2回にしてほしい。一度出さないと、次回の収集まで2カ月間があき、特に夏場は臭い対策が必要になる。	男性	50 ~ 59 歳	弥生が丘	単身
	101	一人暮らし等、見守りの必要な人が希望すれば、日時を決めて、電話等で声かけをする支援を、町単位で実施するのはどうだろうか。(町の公民館やセンターで実施していけば、電話代は個人負担なし)。(電話をかけるボランティアは、数人確保し、都合のよい日時を担当する)。	女性	60 ~ 69 歳	麓	夫婦のみ

テーマ	連番	誰もが住みやすいまちづくりの推進に関する自由意見 (記入件数 148/737 件)	性別	年齢	地区	家族構成
制度・仕組み	102	経済的な支援も大切だが、現金を一律で配るだけの様なサービスではなく、必要な人に必要なサービスが適確にいきとどく仕組みづくりに注力してもらいたい。	男性	40 ~ 49 歳	旭	二世帯世帯
	103	「すべての市民が互いに人権を尊重し」というのであれば、公正な福祉を望みます。本来外国人はその国籍を持つ国が責任を負うもので、日本が面倒を見てあげなければならないわけではないですよね。鳥栖市にどの位いらっしゃるのか知りませんが、特に朝鮮系の特別永住者資格を持った人々(全員とは言いません)は、年金・生活保護等の件を調べると、ひどすぎると感じます。これでは、居心地が良すぎて帰国したくないでしょう。しかし、これを放置しては「互いに人権を尊重しあう」事はできません。「人権」や「差別」を盾に優遇されてきた事を是正してこそ、他の真面目な外国人、日本人、誰もが安心していらしていただけるのではないですか。高齢化が進み福祉にも費用がかさみ、サービスが行き届かない事もあると思います。しかし、公正、平等であれば、不平、不満も多くは出ないはずです。	女性	50 ~ 59 歳	旭	三世帯世帯以上
	104	市街化調整区域の緩和。調整区域では70年前から現在まで住宅一つ増える事がない。住宅建築は禁止、田畑の転用も簡単には進まない、この地区での若者、子供は増える事は無い。いつこの地区から出て行くかを考える事ばかりです。	女性	70 ~ 79 歳	旭	夫婦のみ
行政への要望等	105	福祉担当の方(市・自治会)が中心となり、その方々の努力がいつかすみよい鳥栖になるのではないのでしょうか？	男性	50 ~ 59 歳	鳥栖	二世帯世帯
	106	まずは市役所職員がお手本となる様な行動をすること。中には窓口の対応が冷たかったり自分達は公務員だから民間は関係ない・・・と言う様な態度をとられる。市役所職員は鳥栖の玄関口、顔です。ただ8:30~17:15まで仕事らしきことをして時間がきたらさっと帰る・・・それでは鳥栖はいつまでも発展しませんよ。もう少し魅力ある街、住みたい街になる様努力して下さい。	女性	50 ~ 59 歳	鳥栖	夫婦のみ

第4章. 自由意見

テーマ	連番	誰もが住みやすいまちづくりの推進に関する自由意見 (記入件数 148/737 件)	性別	年齢	地区	家族構成
行政への要望等	107	私達が鳥栖に来てから5年半になりますが、福祉の人達や自治会の事等、一度も来てくれません。福祉地域とは「カタチ」だけではあってはなりません。他の行政で成功している所を学び、鳥栖に合った仕方を学び向上し、安心して他地域から入って来られる様もっと自然に行う事です。	男性	60 ~ 69 歳	鳥栖	その他
	108	福祉に関する予算を増やしていただければそのつかいみちは役所におまかせします。	男性	60 ~ 69 歳	鳥栖	夫婦のみ
	109	<p>-----の充実、向上、推進、支援etc定性目標系については“あるべき姿”なのでほとんど〇にしました。</p> <p>・現状・事実の定量データを知りたく思います。そうすれば何を重点的にやるべきか自ら明白になります。</p> <p>・第6次鳥栖市総合計画と整合性を持ち、一体化した目標～達成手段にブレークダウンされ、具体的な実行計画を期待しています。</p> <p>私達二人共、後期高齢者ですが将来の生活について色んな不安を抱えています。問題が具体的にになった段階で一つ一つ相談し解決していきたいと思います。</p>	男性	70 ~ 79 歳	鳥栖	夫婦のみ
	110	市民の相談窓口の中心は、市役所だと思いますが、実際は足を運ぶと満足する事よりも不快な気持ちになり帰宅する事がほとんどです。職員の方はめんどくさそうな顔や態度をされます。また「知らない。ここの課ではない」等の事を平気で言われますが、該当部署へ適切に案内や、うその情報を教えたりしないなどは、年数が浅い、長い等関係なく誰もが出来ないといけないのではないかと思います。民間企業において自社の情報のうそを教える事はありえません。公務員だと言う慢心と甘えだと思います。より良いまちづくりへのアンケートも大切ですが、職員の教育にも力をそそいで頂きたいものです。よろしくお願ひします。	女性	40 ~ 49 歳	鳥栖北	二世帯世帯
	111	住みやすい町づくりを進めていくと書いてありますがもう少し市役所の人が見てまわるとか生活保護などもう少し見て出して下さい。市民の税金をかんとんに出してほしくないです。	女性	60 ~ 69 歳	鳥栖北	夫婦のみ

テーマ	連番	誰もが住みやすいまちづくりの推進に関する自由意見 (記入件数 148/737 件)	性別	年齢	地区	家族構成
行政への要望等	112	標語ばかり並べ、まじめに回答する気持ちがなくなった。市民税がこんなことに使われていると思うと腹立たしい。実行をしろ！	男性	70 ～ 79 歳	鳥栖北	夫婦のみ
	113	地域福祉と言われてもすぐに思い浮かべる具体的な事象がわからない。とにかく町の雰囲気はぎすぎすして来たような感じが強くなっている。行政や自治体の活動の報告やPRは一方向的であり、動きがまったく見えない。わかり易く理解し易い方法を考えていただきたい。	男性	80 歳以上	鳥栖北	三世帯世帯以上
	114	問24の中に含まれているが、国の施策で社会保障を支えるのは「老齢年金」。その時働いている世代、引退した世代を支えるという「世代と世代の支え合い」だからこそ次の世代の人数が減る少子化が問題になる。2014年迄の統計によると、現役世代は316万人減った。一方受け取るお年寄りは860万人も増えている。その他「障害年金」その他家の稼ぎ手だった人を無くした家族には「遺族年金」が支払われる。これ等の年金はきちんと納めてないと原則としてもらう事が出来ない。これ等の問題は国や地方自治にあり、支援を受ける健康福祉みらい部で検討して下さい。	男性	80 歳以上	鳥栖北	夫婦のみ
	115	格差社会、個性の幅の広さ、価値観の違いをうめる(つなぐ)ために、ソフト部分の役割、ソフトの中身を考える時だと思います。個人は我ままなくらい成長？しているので、トラブルも多いような気がします。いちいち、相手にしているとかないませんよね。でも命にかかわること、子供の健やかな成長を阻むような事態には、暖かさをベースに対処していただきたいし、こんなことにこそ、地域も一緒に取り組むべきだと思います。	女性	50 ～ 59 歳	田代	三世帯世帯以上
	116	職員の人数をへらす。市会議員の人数をへらす。市長をちがう人にする。	女性	60 ～ 69 歳	田代	単身
	117	・人が増えている鳥栖市。企業が多い鳥栖市を活かす政策が見えない。行政のスピードが遅すぎて何をしているのかわからない。 ・大きな計画だけでなく、市民生活の身近なサービスの改善はスピーディに行ってもらいたい。	男性	50 ～ 59 歳	弥生が丘	夫婦のみ

第4章. 自由意見

テーマ	連番	誰もが住みやすいまちづくりの推進に関する自由意見 (記入件数 148/737 件)	性別	年齢	地区	家族構成
行政への要望等	118	全部重要な事ばかりであり、人、物、金が必要であり、市で一つずつ考えて優先順位をつけて、解決して頂ければと思います。	男性	70 ~ 79 歳	基里	夫婦のみ
	119	まず、市役所の担当者レベルの意識改革が必要に思う。簡単に、郵便物で済ませるのでなく、実際に面談していく事が大切だと思います。	男性	40 ~ 49 歳	麓	二世代世帯
	120	福祉活動は解っている様で解っていない。ボランティアなど参加出来る案内をもっとやってもらい、人が人を助ける活動を役所が中心になって見える形を実行してください。地域・役所での勉強をやるべき。	男性	60 ~ 69 歳	麓	二世代世帯
	121	誰でもいつの世代にあっても自分らしく生きていきたいと願うのが本音と考えます。1人1人置かれた立場や考えも異なる中でその人自身の思いに耳を傾ける大切さを感じます。一律に良かれと思う施策だけではなく、困っている方自身の思いや考えから浮かぶ施策等も検討して頂ければと考えます。	女性	60 ~ 69 歳	麓	二世代世帯
	122	福祉を充実させることで市全体が勢いづき、人口も増加させることにつながる町づくりを目標にしてほしい。	男性	40 ~ 49 歳	旭	二世代世帯
	123	・市役所の方々の対応が親切で助かってます。 ・コストダウンに努め、古い建物を活用して下さい。 ・アパートやマンションの方々が自治活動に参加する様に市としても働きかけてほしい。	男性	60 ~ 69 歳	旭	夫婦のみ
	124	行政における相談窓口の充実と広報。	男性	60 ~ 69 歳	旭	夫婦のみ
	125	目的をしっかりと市民へ伝える事からスタートする事が大切で有り、一部の人のみで自分だけが理解しているとの思いを持たない様に、信念を持った取組みでスタート下さい。支援して行きますので。	女性	60 ~ 69 歳	旭	夫婦のみ

テーマ	連番	誰もが住みやすいまちづくりの推進に関する自由意見 (記入件数 148/737 件)	性別	年齢	地区	家族構成
行政への要望等	126	情報が各家庭に確実に届くようにわかり易い文言でお願いします。	女性	60 ～ 69 歳	旭	二世代世帯
	127	※市役所の仕事を民生委員にたくしてる仕事が多いのではないですか。 ※子供の保険に入られるなら入ってくれと言われ入りましたが健康診査など来なくなり困ってます。	男性	80 歳以上	旭	その他
その他	128	燃えるゴミだけの回収だけでなく、燃えないゴミの回収も月1でもいいのでまわって欲しいです。地域の回収というか、集めている場所があるのは知っていますが仕事があり、その時間帯には持っていくことができず、自宅に処分できないゴミがたまる一方です。お年寄りをもっと大変だと思います。そのために、高い税金をおさめているのであり、一番に考えて頂きたいです。	男性	30 ～ 39 歳	鳥栖	夫婦のみ
	129	若者が全くいないため、あまり魅力を感じない。博多のようにはいかないが、もう少し20代の人がいてほしいと思いました。	男性	20 ～ 29 歳	鳥栖	単身
	130	知的障害、判定Aであり、回答能力ありません。	女性	50 ～ 59 歳	鳥栖	その他
	131	一日の終わりにありがとうと言える一日を送れる世の中であれば良いと思う。	男性	60 ～ 69 歳	鳥栖	単身
	132	質問項目について回答しにくい内容がありました。もっと項目を吟味してほしい。	女性	70 ～ 79 歳	鳥栖	単身
	133	住みやすいまちとは、自分の心の持ちかたであり、他人や行政のサービスはほどほどにした方が良い。	男性	70 ～ 79 歳	鳥栖	夫婦のみ
	134	自分の体が元気なら…。体が思うようになりませんのでごめんなさい。	女性	70 ～ 79 歳	鳥栖	三世代世帯以上
	135	ボランティアは強要すべきものではないと思います。	男性	50 ～ 59 歳	鳥栖北	二世代世帯

第4章. 自由意見

テーマ	連番	誰もが住みやすいまちづくりの推進に関する自由意見 (記入件数 148/737 件)	性別	年齢	地区	家族構成
その他	136	今回、質問の中で(あてはまるものすべてに○)と書いてあり、すべて○をつけた箇所もあります。これはアンケートを調査する意味があるのか？と疑問に思う質問がたくさんありました。あたりまえの質問に答え、回答している時なんか変な気持ちになりました。(ざっくり言えば当たり前の答えを並べてある。それに○をつけるという作業という風に感じました)。こんな事を聞くのに経費を使うのがもったいないです。もっと突っ込んだ質問をお願いします。	女性	60 ~ 69 歳	鳥栖北	単身
	137	今迄コツコツと生きてきました。一度病気したけれど…。これからもなるべく人・社会に迷惑をかけないように明るくコツコツ生きて行くこと、心がけて居ます。	男性	80 歳以上	鳥栖北	夫婦のみ
	138	今はまだ健康なので差しさまっていないので今のままで良い。	女性	80 歳以上	田代	単身
	139	アンケートとかで良いまちづくりができるのか不安だし、この費用がもったいないのでは。	男性	20 ~ 29 歳	弥生が丘	三世帯世帯以上
	140	情報が多く、必要な情報を得にくくなりつつある様に思います。身近な情報をより正確に入手することで、各々が自立して行動できるのでは？と感じます。人のことを思う「思いやり」がずいぶん欠けてきている現代だと思います。また、手を出す(手助けをする)ことが、やりにくい時代にもなってきたと思います。「個人情報」この言葉についても、もっと理解を深める必要性があると思います。	男性	40 ~ 49 歳	弥生が丘	その他
	141	若い人のボランティア参加をしてもらいたい。	女性	70 ~ 79 歳	若葉	夫婦のみ
	142	市民の希望、要望のどの程度のパーセンテージで物事が決まるのかわからない。誰もが住みやすいというのはむずかしい。要望は言ってもかなわないのであまり期待してない。むかしよりもっと住みにくくなったと感じる。何も期待なし。	女性	60 ~ 69 歳	基里	夫婦のみ
	143	アパートに住んでいます。ごみ出しのマナーが悪いのに心を痛めています。燃えるごみしか出せない場所なのにビール缶や過去にはベッドマットも置かれていたことがあります。そして今は引越しごみ？粗大ごみがたくさん置かれています。もっと気持ちよく生活したいですね。福祉等とは関係ありませんが、ぐちってみました。	女性	40 ~ 49 歳	麓	二世帯世帯

テーマ	連番	誰もが住みやすいまちづくりの推進に関する自由意見 (記入件数 148/737 件)	性別	年齢	地区	家族構成
その他	144	市や関係のある行政機関としては、各事業、施策においては〇〇の充実とか〇〇の推進と言われるのはよく分かります。しかし、市民にとってはあまり考えた事はなかったけれど、(例)福祉についても、子育てにしても何となく鳥栖市って充実してるよね、進んでるよねと思ったり、感じたりできる事が大事ではないでしょうか？いろんな所にもさりげなく気配りされている街というのがいいのではないのでしょうか？	女性	60 ~ 69 歳	麓	夫婦のみ
	145	アンケートに回答させていただきながら、“社会福祉”の充実は大切なことであると思いながらも、実際には自分自身や家族や身内(親せきなど)のことで精一杯な自分に気づかされました。“あてはまるもの全てに〇を”という質問が多くありましたが、どれも重要なことのような感じが絞れないことが多々ありました。それぞれの項目が普段より社会福祉について考える機会が少なく、知識もない自分にとっては抽象的に感じられたのも要因だと感じました。九州の身近な土地熊本で震災が起こったばかり。本当に身近なところで何かが起こった場合を考えると人ごととはとても思えません。今後地域福祉にも目を向け、自分に出来る事は何か、また、どんな地域社会が望ましいのか明確に考えられる自分でありたいと感じさせていただきました。回答しながら感じたことを自由に書かせていただきました。乱字にて失礼します。	女性	40 ~ 49 歳	旭	二世帯世帯
	146	私が理解出来る所のみ記入ですが宜しかったですでしょうか？すみません。	女性	70 ~ 79 歳	旭	単身
	147	誰もが住みやすいまちづくりは難しいのでどれかに絞った方が良くと思いました。	男性	20 ~ 29 歳		その他
	148	福祉と簡単に思えるが、いろんな意味あいがあり複雑に入り込んでくる分野に及ぶと思う。携わる人が十分に認識を持ってないと誤った方向へと導く事となることも頭に入れておくべきだと思う。	男性	70 ~ 79 歳		夫婦のみ

第5章. 調査票

1. 市民アンケート調査

地域福祉計画・地域福祉活動計画に関する アンケート調査ご協力をお願い

市民の皆さまにおかれましては、日頃から市政にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

鳥栖市では、市民一人ひとりが福祉について考え、家庭や地域において、思いやりを持って共に支え合うことのできる「福祉のまちづくり」に取り組んでいます。このたび、住み慣れた地域における福祉の更なる充実を目的として、平成24年3月に鳥栖市と鳥栖市社会福祉協議会が連携し策定しました「鳥栖市地域福祉計画・地域福祉活動計画」を見直すことになりました。

つきましては、アンケート調査の実施により、市民の皆さまの「地域福祉」に関するお考えなどの実態を把握するとともに、ご意見を広くお聴きし、計画づくりに反映していきたいと考えております。なお、この調査は、鳥栖市にお住まいの16歳以上の方2,000名を対象に実施しております。

お忙しいところ誠に恐縮ではございますが、趣旨をご理解いただき、調査にご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成28年6月

鳥栖市・鳥栖市社会福祉協議会

ご記入にあたってのお願い

- あて名のご本人がお答えください。
- ご本人が記入できない場合は、ご家族等がご本人の考えや思いを代理でご記入ください。
- 回答は、あてはまる番号を○で囲んでください。「その他」の回答については、()内に内容を記入してください。
- 氏名や住所は記入しないでください。
- この調査の結果は、すべて統計的に処理いたしますので、調査の過程や公表にあたり、個人にご迷惑をおかけするようなことは一切ございません。思いのままをお答えいただきますようお願い申し上げます。
- 記入いただいた調査票は、**6月24日(金)**までに、同封の返信用封筒に入れて投函してください。その際、切手を貼ったり、差出人の名前を書く必要はありません。

【調査に関するお問い合わせ先】

鳥栖市役所 健康福祉みらい部 社会福祉課 地域福祉係

(電話：0942-85-3553/FAX：0942-85-2009)

問14 地域での人と人との関わりについて、あなたのお考えに近いものは何ですか。
(1つだけ○)

1. 隣近所を中心とした助け合いや付き合いを大切にしたい
2. 市民が相互に協力して地域をよくする活動に参加していきたい
3. 隣近所の協力はあてにできないので、自分のことは自分です
4. 時間的に余裕のある人や、やる気のある人が地域と関わるほうがよい
5. 地域社会のためであっても、自分の生活・時間を大切にしたいので、地域的な関わりは持ちたくない
6. その他()

問15 災害時のあなたの地区の避難場所を知っていますか。(1つだけ○)

1. 知っている
2. 知らない

問16 地震や台風などの災害発生時の備えとして、どのようなことが重要だと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

1. 災害対策の学習会の開催
2. 日ごろからの隣近所との挨拶、声かけや付き合い
3. 地域での避難訓練の実施
4. 危険箇所の把握
5. 地域における支援団体の組織づくり
6. 地域の要援護者の把握
7. 要援護者に対する情報伝達体制づくり
8. 災害ボランティアの育成
9. その他()

4 ボランティア活動や地域活動についておたずねします。

問17 あなたは現在、ボランティア活動に参加していますか。(1つだけ○)

1. 参加している
2. 以前に参加したことがあるが、現在参加していない
3. まったく参加したことはないが、今後参加したい
4. まったく参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない
5. その他 ()

→ 問17-1 問17で「4」を選んだ人だけにおたずねします。

ボランティア活動に参加したいと思わないのはなぜですか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 時間や収入にゆとりがないから
2. 家族に病人や、手のかかる子どもがいるから
3. 自分の健康状態がよくないから
4. とともに活動する仲間や友人がいないから
5. 趣味や特技が活かされていないから
6. 誰にでも簡単にできるものではないから
7. 家の近くではできないから
8. わずかな時間(2~3時間)でできるものではないから
9. 活動に必要なお金の支援がないから
10. ボランティア講座など、知識や技術を学べる機会や体験の機会がないから
11. その他 ()

問18 あなたは現在、自治会や子どもクラブ、PTAなどの地域活動をしていますか。
(1つだけ○)

1. 現在活動している
2. 現在活動していないが、過去に活動したことがある
3. 活動したことがない

→ 次ページ 問18-1 へお進みください。

問18-1 問18で「3」を選んだ人だけにおたずねします。

地域活動に参加していない理由はなんですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|------------------|----------------|
| 1. 勤務などの都合で機会がない | 8. 知り合いがいない |
| 2. 引越して間もない | 9. いやな思いをしたくない |
| 3. 参加方法がわからない | 10. 役が回ってこない |
| 4. 時間がない | 11. 自治会に入っていない |
| 5. 興味がない | 12. 未成年だから |
| 6. 家の人気が気にする | 13. その他 |
| 7. 体調がすぐれない | () |

問19 地域において「まちづくり」について話し合う場を開催した場合、参加したいと思えますか。(1つだけ○)

- | | |
|---------------|------------|
| 1. ぜひ参加したい | 4. 参加したくない |
| 2. できれば参加したい | 5. わからない |
| 3. あまり参加したくない | 6. その他() |

問20 地域における助け合い、支え合い活動を活発にするためには、どのようなことが重要だと思えますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 地域における福祉活動の意義と重要性をもっとPRする
2. 地域でボランティアなどの活動の拠点となる場を整備する
3. 地域における福祉活動の活動費・運営費などの資金的な援助を行う
4. リーダーや福祉活動に携わる人を養成する
5. 福祉活動の相談・指導を担当する専門職員の充実を図る
6. 困っている人と、助けることのできる人との調整を図る人材を育成する
7. 困っている人や、助け合いの場や組織についての情報を得やすくする
8. 介護やボランティア活動の方法などに関する研修を行う
9. 学校教育や社会教育での福祉教育を充実する
10. その他()

5 これからの鳥栖市の福祉のあり方についておたずねします。

問21 あなたは鳥栖市をどのような福祉のまちにしたいですか。

(あてはまるものすべてに○)

1. お互いに助け合い、支え合えるまち
2. 差別や偏見のない、人権が尊重されるまち
3. ユニバーサルデザイン※やバリアフリーに配慮したまち
4. 子どもが、からだもこころも健やかにはぐくまれ育つまち
5. 高齢者も障がいのある人も安心して、働けるまち
6. 高齢者も障がいのある人も安心して、出かけることができるまち
7. 生まれ育った場所で安心して生活できるまち
8. 介護が必要になっても、安心して施設を利用したり、在宅でサービスを利用したりできるまち
9. いつまでも生きがいを持って、健康に生活できるまち
10. その他()

※ユニバーサルデザインとは、文化や国籍の違い、老若男女といった差異、障がいの有無を問わずに利用することができる施設・製品・情報の設計(デザイン)をいう。

問22 高齢者が住みよいまちをつくるために、今後、鳥栖市においてはどのようなことが重要だと考えますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 気軽に健康づくりを行える場所をつくったり、医療体制を充実させる
2. 建物や乗り物、道具などを、高齢者に配慮したものに变える
3. 高齢者が住みやすい住宅の整備を進める
4. 在宅で生活する高齢者への福祉サービス(ホームヘルプ・デイサービスなど)を充実させる
5. 高齢者のための入所施設(特別養護老人ホームなど)を充実させる
6. 高齢者の働く場を増やす取り組みを進める
7. 高齢者がボランティア活動などに気軽に参加できる取り組みを進める
8. 高齢者が文化教室やスポーツ活動などに気軽に参加できる取り組みを進める
9. 年金・医療保険などの金銭面の支援を充実させる
10. 高齢者が困ったとき相談できる体制を充実させる
11. 高齢者と家族とのつながりを深める取り組みを進める
12. 隣近所の助け合いにより、身近な地域で高齢者を支える取り組みを進める
13. その他()

■「地域福祉」とは？

すべての市民が互いに人権を尊重し、生活の中心である地域において助け合い、誰もがその人らしい安心で充実した生活が送れるような地域社会を皆で築いていく取組のことです。

■誰もが住みやすいまちづくりを進めていくためのご意見やご要望がございましたら、ご自由にお書きください。

すてき しあわ
とも 共に素敵に幸せに



以上で調査は終わりです。
ご協力ありがとうございました。

6月24日（金）までに
ポストに投函してください。
※切手不要